

698  
25



\*0022892000\*

0022892-000

698-25

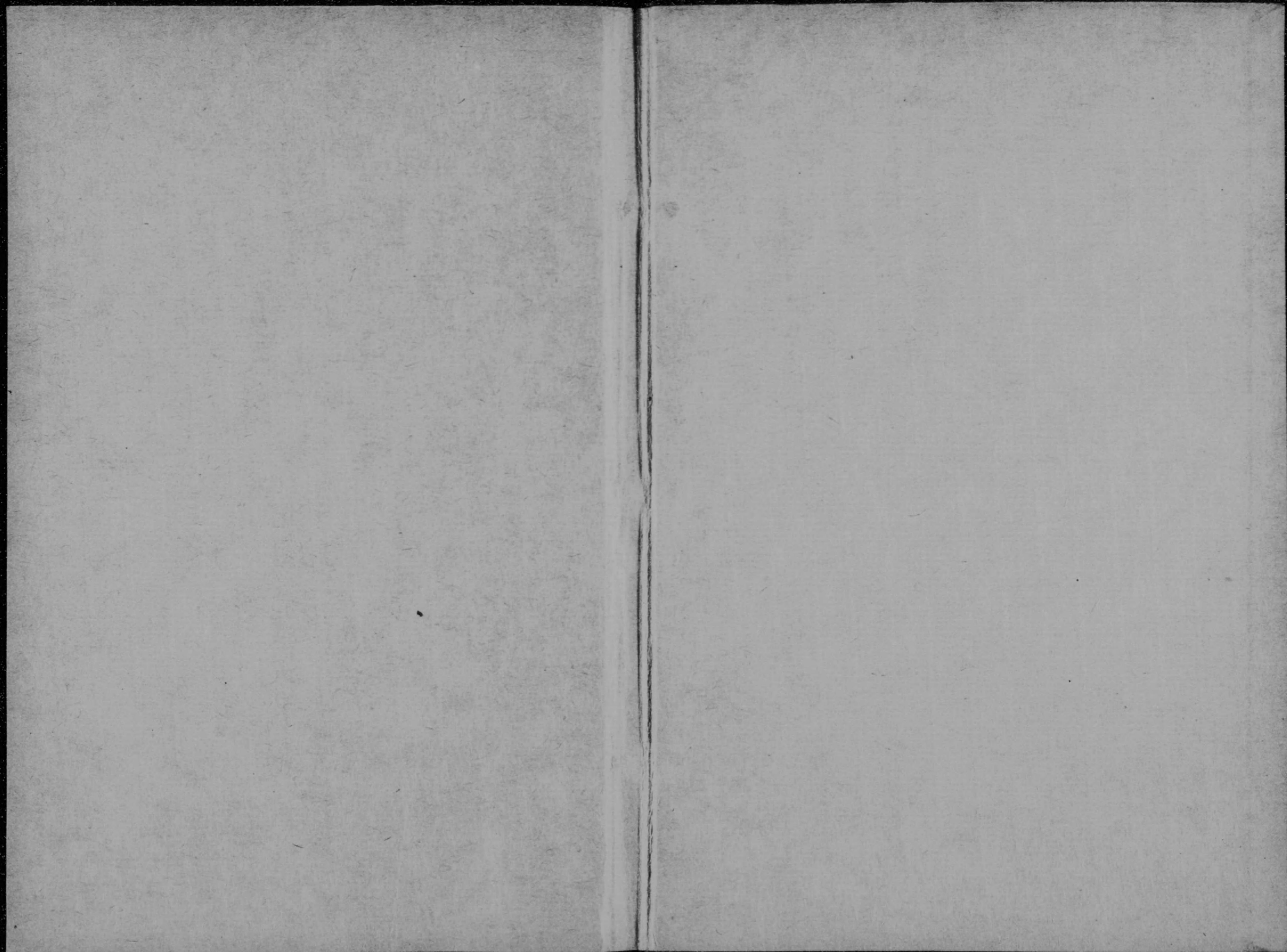
伯国經濟事情

訪伯經濟使節・編

訪伯經濟使節

昭11

ADC



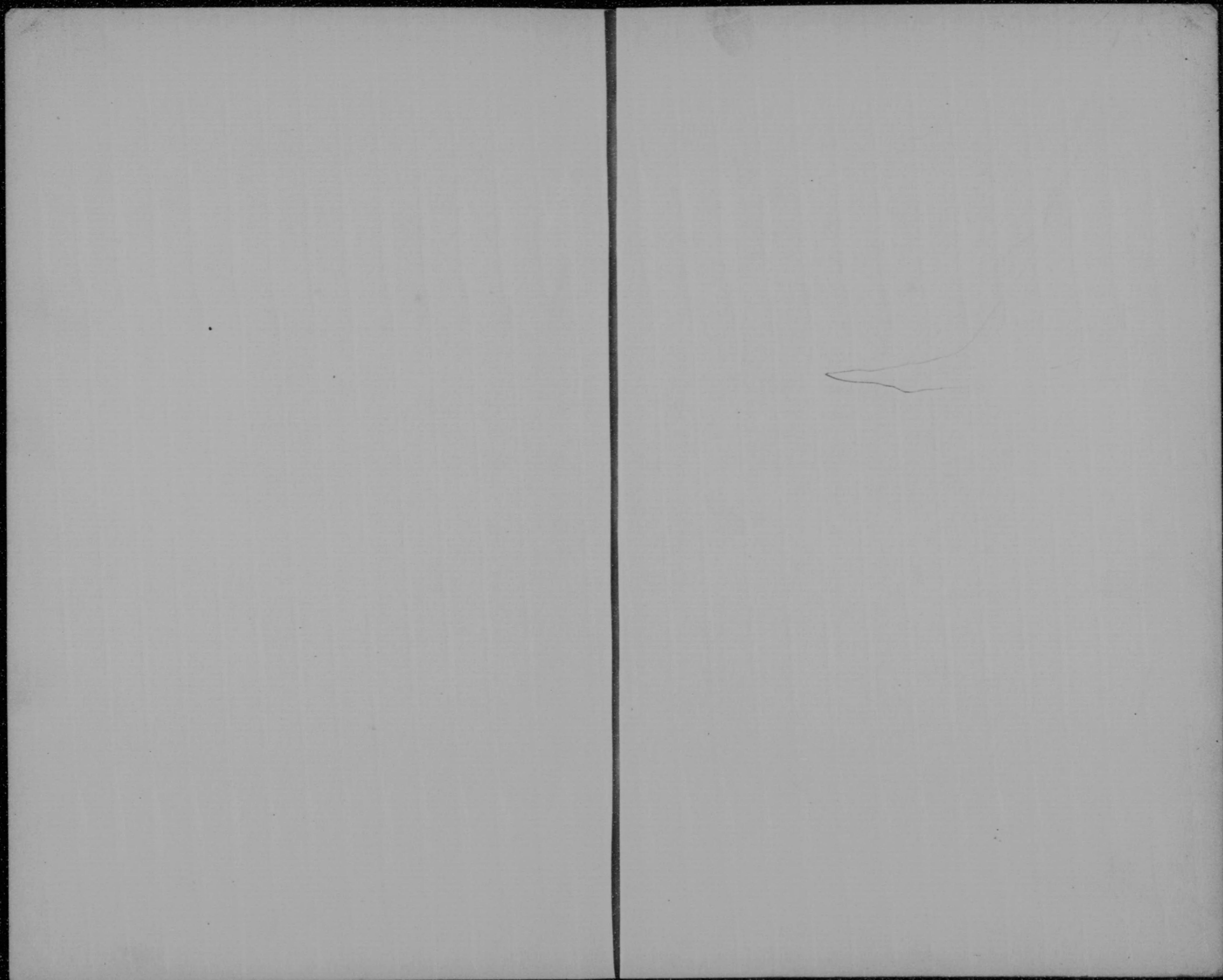
698

25

昭和十年四月—十一月

伯國經濟事情

訪伯經濟使節



昭和十年四月—十一月



經濟事情

訪伯經濟使節

訪伯經濟使節 寄贈本





Chairman:

平 生 凱 三 郎  
HACHISABURO HIRAO,

Member of the House of Peers; Chairman, Board of Directors, the  
Kawasaki Dockyard Co., Ltd.

Born in 1866; graduated from the Tokyo Higher Commercial School, 1890;  
Director of the Tokyo Marine & Fire Ins. Co., since 1910; appointed  
President of the Federation of Overseas Settlement Associations, 1931;  
President of the Kawasaki Dockyard Co., Kawasaki Steamship Co. and  
Kawasaki Locomotive & Car Co., 1933; Director of the Meiji Fire Ins.  
Co., Daitoku Marine & Fire Ins. Co., Taisho Marine & Fire Ins. Co.,  
Fuso Marine & Fire Ins. Co.; Hokoku Fire Ins. Co., Asahi Wool  
Spinning Co., Shizukari Gold Mining Co.; Member of the Foreign Trade  
Council and Civil Administrative Council; nominated Member of the  
House of Peers, 1935.



平 生 夫 人

Mrs. H. Hirao



Member :

關 桂 三  
KEIZOH SEKI,

Representative of the Japan Cotton Spinning Association, Managing Director of the

Toyo Cotton Mills Co., Ltd.

Born in 1884; graduated from the Tokyo Imperial University Law College, 1908; joined the Osaka Spinning Company, 1908; toured Europe and America, 1919-20; established the Showa Rayon Company, 1928; later appointed Director of the Japan Horse Riding Association.



Member :

伊 藤 竹 之 助  
TAKENOSUKE ITOH,

Representative of the Japan Cotton Merchant Union and Managing Director of

C. Itoh & Co.

Born in 1883; Managing Director of C. Itoh & Co.; Chairman of the Federation of Japan Cotton Merchant Union; Chairman of the Japan Cotton Goods Export Association; Managing Director of the Japanese Association for the Export of Cotton Goods to India; Managing Director of the Japanese Association for the Export of Cotton Goods to the Netherlands East Indies.



Member :

瀧 美 青 郎  
IKURO ATSUMI,

Director of the Osaka Shosen Kaisha

Born in 1881 at Kobe; graduated from the Tokyo Higher Commercial School, 1903; joined the Osaka Shosen Kaisha (capital ¥100,000,000), 1903; Member of the National Resources Committee; Honorary Consul for Argentine at Tokyo; Director of the Overseas Development Company; Director of the Japan Tourist Bureau.



Member :

岩 井 敬 人  
TAKAHITO IWAI,

Representative of Mitsui & Co., Tokyo

Born in 1892; graduated from the Tokyo Imperial University Law College, 1917; joined Mitsui & Co., 1917; Japanese Delegate to the International Cotton Congress Vienna, 1925; General Manager of the Brazil Coffee Sales and Propaganda Headquarters in Japan, 1923-34; Pioneer of the import of Brazilian cotton into Japan; Member of the Royal Society of British Artists, London.



Member :

奥野 勁

KEI OKUNO,

Representative of  
The Mitsubishi Trading Co.

Born in 1892; graduated from  
the Tokyo Higher Commercial  
School, 1915; joined the Mits-  
ubishi Company, same year;  
Assistant Manager of the Osaka  
Branch of the Mitsubishi Trad-  
ing Co., 1929.



General Secretary :

山崎 飛

SAKAE YAMASAKI,

Former Consul.

Resigned in 1933 from the diplo-  
matic service for 26 years in  
China, America, Australia and  
South Africa; Secretary to the  
Foreign Minister, 1921-1923;  
Secretary to the Japanese Dele-  
gation to the Washington Naval  
Limitation Conference; accom-  
panied Prince Iyesato Toku-  
rawa in his tour of Europe and  
America, 1931.



Physician :

山 口 壽

Dr. HISASHI YAMAGUCHI,

Professor at  
Tokyo and Osaka Imperial  
Universities.



見 謁 節 使 領 大 凡 之 ヲ



198-25

# 伯國經濟事情

## 目次

### 凡例

第一編 訪伯經濟使節日誌……………一

第二編 使節報告本文……………一

第三編 調査報告……………一

第一章 ブラジル棉花事情……………一

第二章 日本向伯國輸出希望商品……………四三

第三章 日本品伯國輸入見込商品……………九七

第四章 伯國海運……………一四四

第五章 伯國陸運……………二〇八



高松宮殿下に歸朝御挨拶する平生團長

第四編 參考報告

第一章 伯國製鐵工業	一
第二章 北伯事情	九
第三章 伯國財政	一九
第四章 伯國貨幣爲替銀行	二六
第五章 伯國爲替政策	三三
第六章 伯國に於ける外國投資の概観	四六
第七章 一九三四年度伯國貿易大概	五三
第八章 サンパウロ市生活費調査	五九
第九章 ブラジル合衆國憲法	六五

附 録

日伯中央協會主催訪伯經濟使節歸朝歡迎晚餐會席上重光外務次官挨拶	一一
日伯中央協會主催訪伯經濟使節歸朝歡迎晚餐會席上平生團長挨拶	二二

凡 例

本報告は各使節が手分けをして稿を纏めたものゆゑ全體として體裁を繕ふことに考を用ゐず、各使節の見地より觀察して各自がそれぞれ取り上げた材料を收めたもの、いはゞ各分冊の綴込として見て頂きたい。

尙第四編の參考報告は、本來ならそのタイトルと報告者とだけを擧げておいても宜い程のものもあるかも知れぬが御便宜のために掲げておいた。

文體も右の様な次第で一定してゐない。夫れは報告の性質上上梓を急ぐためそれを補修する爲の時間が惜まれる。従つて全體として或は讀みづらいと思はれるが御容赦を乞ふ。

一九三五年十一月五日

編 者 誌

第一編  
訪伯經濟使節日誌



同 兼務 神野亮二 (大阪商船)  
 同 兼務 柴山一郎 (三井物産機械部)

日誌

四月八日(月) 晴、暖

正午東京驛發、首相代理、外相、拓相其他官民有力者見送多數  
 午後三時秩父丸横濱出帆外務省代表拓務省代表其他見送多數

同 九日(火) 晴、暖

航海中毎日事務打合の爲會合する旨團長より通達あり之れが爲特別食堂利用方交渉準備す

同 十日(水) 曇、暖

午前十時全員會合打合、米國通過の際の各員心得に付協議し之れが參考資料配布回覽のこととす同時に伯國棉花買付問題に關し各員論議あり

同 十一日(木) 晴、暖、風

團長より「ホノルル」香港の際の新聞記者會見の準備依頼あり岩井使節主として之れを擔當す  
 本日以来全員の事務打合會合は一時見合中止となる

同 十五日(月) 曇、暖、風

同 十六日(火) 晴、暖、風

「ホノルル」田村總領事より御茶に招待の旨來電ありたるも乗船到着時刻不定の爲辭退す  
 午後五時「ホノルル」入港新聞記者來訪山崎之に應答す。各員上陸自由行動

同 十七日(水) 晴、暖

午前九時岩井使節特務艦「襟裳」を團を代表不取敢表敬訪問す午後重ねて平生團長、關、岩井使節同伴艦長を訪問す

午後二時「ホノルル」出帆

同 十八日(木) 晴、暖、風

「ホノルル」田村總領事へ謝電桑港富井總領事へ招待御請け發電

同 二十一日(日) 晴、暖

正午桑港入港荷物無事通關「ホテルフェアモント」投宿午後七時日本人會晚餐全員出席

同 二十二日(月) 晴、暖

富井總領事午餐全員出席米人新聞記者ホテルに來訪團長及山崎會見、東洋紡中井俊雄到着

同 二十三日(火) 晴、暖

各員自由出發米國東部へ向ふ

五月一日(水) 晴、暖

各員別々紐育參集「ウオドロフアストリアホテル」投宿

同 二日(木) 曇、冷

團長「大朝」の求めにより大阪同社と電話にて通話米國通過の感想等に付意見表示

同 三日(金) 曇、冷

大毎栗山主催午餐會出席紐育著名新聞社主要人物約十名來會日米、日伯問題等に関し自由討議あり

同 四日(土) 曇、冷

全員無事「ノザンプリンス」號にて午後三時紐育出帆「リオ」に向ふ當地より江商代表杉本恭一隨員として参加す大毎和田通信員同船す

滯米中新聞記者の來訪豫期の如く多からず

同 五日(日) 晴、暖、風

本日より事務打合會は毎日朝食後催すことに通達あり之れが爲船室を準備す(團長の意見により會合は使節のみとし隨員を省く)紐育澤田總領事へ謝電及國賓待遇問題は廣田外相及澤田大使の決定に一任の旨發電

同 七日(火) 晴、暖

滯伯中の行事日程一部變更方澤田大使へ發電尙ほ着伯以後の各使節擔當事務分類に関し決定

平生 團長 金融投資問題

關 使節 棉花取引に関する問題

伊藤 使節 日本より伯國への輸出品に関する問題

渥美 使節 海陸輸送問題

(4)

岩井 使節 伯國より日本への輸入品に関する問題

奥野 使節 棉の栽培問題

同時に訪伯經濟使節報告書作成に関し協議決定

一、各使節分擔の調査事務報告は九月末日迄に到着する様川崎造船所東京出張所社長室氣付にて「訪伯經濟使節報告と朱記し必親展信」にて送付する事

一、報告作成の根本主旨は日伯貿易増進に在り單なる伯國事情の報告にあらざることを注意する事

一、伯國にて六月十日頃に編輯根本方針を協議する編輯豫備會議を開く事

一、岩井使節が編輯を擔當し平生團長歸朝後直に已着の使節全部と共に隨時集合し各般の打合をなす

一、各使節は別々に歸朝するが故に團長の歸朝迄は團としての意見發表は差控ふる事

團として各關係所の挨拶廻りも同様の事

同 八日(水) 晴、暖

午後四時「スモーキングルーム」に於て日本音楽「レコード」を聴く會を催し同船外國人も招く、喜代三小原節最も好評

同 十日(金) 曇、大暑

國賓待遇問題は廣田外相とも協議の上伯國側の申出通り受諾決定同時に行事日程も變更困難原案通り決定の旨澤田大使より來電あり之れにて萬事本極り

同 十二日(日) 曇、苦熱

(5)

赤道通過午後七時全員鹿兒島小原節を踊る團長夫人用意全員揃ひの「手ヌグヒ」浴衣掛にて珍妙の手振り即興の試みとして同船外人の意表に出て大評判なり

同 十五日（水）曇、雨、暖

平生團長以下團員全部が船長以下高級船員並に主なる乗客を招き「スモーキングルーム」にて茶會を催す平生團長より「ノザンプリンス」號乗組員救済資金用として金百弗寄附せられ船長より謝狀あり

晚餐後船上運動競技の賞品授與式あり平生夫人選ばれて優勝者に賞品を手授す

船中に於ける一行の態度好評なり喜し

乗船以來苦熱の日多かりしも晚餐の席には全部「タキシード」を着用せり

船にても屢々ボイルドライスを料理し呉れ團員を喜ばしたり

同 十六日（木）晴、暖

豫定より一日早く午後六時「リオデジャネロ」安着着伯の挨拶新聞記者に發表團長以下一同元氣旺盛聊かの病人もなし

使節は「モーニング」「トップハット」にて上陸したるも大統領謁見明十七日午前十時に變更せられ無駄となる六時半「イタマラチー」にて外相接見に全使節參列七時旅館「コバカバナホテル」着

八時半内山參事官の伯國事情講演を聴く

團長通譯として粟津金六を雇入る旅館にては全員言語不通の爲不自由多し隨員として大阪商船佐藤健夫東洋棉花島清二郎日本棉花東義雄一行に参加す併て當初より使節一行に同行せる三井物産機械部員柴山一郎隨員

兼務とす

同 十七日（金）晴、暖

一行乗用自動車五臺伯國外務省より提供せられ又團長外出の場合は警衛の先驅あり本使節團接待費として邦貨二十萬圓支出伯國政府案議會協賛内定せり

午前十二時半正使（山崎山口同行）大統領謁見（謁見後大統領は直に「アルゼンチン」に向け出發に付平生團長は之れを見送らる）内山參事官の案内にて文部大臣より順次各大臣歴訪團長より到着の挨拶を述べらる

午後八時全員澤田大使の晚餐（和食）に招かる同席を中坐し團長は岩井使節同伴「ラチオ」放送に赴かる

同 十八日（土）晴、暖

午前十時半伯國新聞記者會見四十名以上來會「コックテール」茶菓を供し「ステートメント」發表豫期以上の盛會新聞記事に現れたる影響も亦佳良なり

午後二時半伯國側の希望により外務省に於て伯國對外貿易審議會々員（約二十名）當方よりは團長を除きたる全員參列し今後に行はるべき貿易協議打合の下相談を行ふ午後三時平生團長及夫人臨時大統領夫妻謁見粟津通譯同行懇談時餘に及ぶ

午後五時「イタマラチー」宮に於ける外務大臣主催「レセプション」全員出席

午後八時澤田大使主催の伯國外務大臣招待晚餐會に出席（各正使、山崎、山口）隨員自由行動

同 十九日（日）曇、暖

九時全員故杉村公使墓前に禮拜し花輪を捧ぐ

正使節打合會外一同は市内觀光自由行動

午後一時伯國外務大臣主催午餐會に全員出席會場は「ジョッキークラブ」貴賓席の展望よき所に設けられ食事中競馬を眺め興深し午後三時頃臨時大統領は特に來場せられ團長夫妻と懇談せらる  
當日は全く日本の榮譽のために名づけられたる大レースにして其の最大賞として「大日本帝國賞」並に「高松宮賞」「平生團長賞」等の番組あり實に稀れに見る盛會を極めたり  
晚餐各員自由

午後十時特別車にて聖市に向ふ車内にては全員に煙草飲物の饗應あり但し列車の動搖少からず

同 二十日 (月) 曇、暖

午前十時聖市着「エスブラナードホテル」に投宿す

總領事以下館員數名「ホテル」内に事務室を設け連絡に力めらる便宜多し

午前十一時半州統領訪問官邸内に各長官參集し居られ接見を終りたるを以て一々の往訪を省く(往訪者は團長、正使、山崎、山口)

午餐自由

午後四時全員棉花品評會場内を數時間に亘り熱心に見學殊に團長は最後迄精勵努めらる

午後七時「ホテル」に於て新聞記者と會見す

夕食自由(團員多數は市毛總領事の晚餐に出席)

同 二十一日 (火) 晴、暖

午前九時團員多數棉花工場視察十一時官立植物園見物午後一時「アウトクラブ」に於ける商業組合主催午餐會出席(團長、各正使、事務長、團醫、通譯)午後三時團長夫人同伴州統領夫人往訪四時「ホテル」に於て在聖市在留同胞と面會茶菓饗應午後八時市毛總領事夫妻主催の晚餐會引續き聖市官界商工界名士紹介「レセプション」並舞踏會に出席(全員)州統領夫妻も特に舞踏會に臨席せらる

同 二十二日 (水) 晴、暖

午前九時汽車にて「カンピナス」市訪問(團長不參關使節團長代理)農事試驗場三菱經營の東山農場等視察運動俱樂部にて同市名士主催の午餐會に招かる(純「ブラジル」料理)

午後五時聖市歸還夕食自由午後九時「ホテル」に於て平生團長講演の筈なりしが世話人側の手違のため中止依て本講演草案は後に至り聖市伯國新聞に掲載せられたり

同 二十三日 (木) 晴、暖

團員中腹加減を損する者數名あり特に飲物に注意せり

午前九時紡績工場視察午前十一時全員州統領を再訪(特に接見したしとの州統領の希望に基く)團長は州統領と二人切にて約一時間餘内談さる午後一時市長夫妻主催の自邸に於ける午餐會に出席午後三時商品取引所自由訪問午後八時使節主催州政府要人其他を招待し「ホテル」に於て盛大なる晚餐會を催す十二時過ぐる迄も居残る名士多數あり

主客大滿悅の體に見受けたり

同 二十四日 (金) 曇、晴、暖



午前七時半汽車にて「サントス」市訪問市長商業組合長訪問墓所参拜「コーヒー」取引所參觀午後一時商業組合主催午餐會出席（會衆二百名位當市としては珍らしき盛會なりし由）午後三時埠頭見物大阪商船「マニラ」丸訪問漁業學校參觀領事主催官邸茶會出席海岸散步汽車にて午後八時聖市歸還晚餐自由

同 二十五日（土）晴、暖

午前十時「ホテル」に於て商業關係事項に付集會來會者約三十名團長を除く全員出席應答す午後一時伯國側接伴員招待の富田家鋤燒會盛會午後四時「ブタンタン」蛇研究所參觀午後五時醫科大學訪問午後九時「アウトクラブ」に於ける農務長官主催公式送別晚餐會に團長、各正使、事務長、團醫出席

同 二十六日（日）晴、暖

午前中自由行動吉田、東、杉本、三隨員は數日間の聖州内地視察より歸着平生團長は三君と午餐を共にし報告を聞かる

(10)

午後四時「ホテル」に於て商業關係事項に付第二次集會來會者約二十名當方よりは前回同様出席應答す午後五時聖市邦字新聞記者團長を來訪す晚餐自由聖市各新聞社へ使節の名刺を送付し告別の意を表す午後十時特別列車にて聖市を出發す

「リオ」歸還後の各地出張視察人名決定

「バイーヤ」組

渥美奥、野兩使節、吉田、中井、佐藤三隨員大使館より齋藤書記生同行

「ミナスジェラス」組

平生團長、關、伊藤、岩井三使節、山崎、山口及島、東、杉本五隨員並に臨時雇員三名粟津通譯、大使館よりは内山參事官同行（當初團長は健康上「リオ」居残り伊藤使節も事務の關係上聖市又は「リオ」居残りの筈なりしが伯國側の切望により關、岩井兩使節一行先發し團長、伊藤使節、事務長、團醫等一行ペロホリゾンテ市に於て合流することにせり

聖市滞在中は聖州々賓なり

同 二十七日（月）曇、暖

午前十時「リオ」歸着午餐自由食後「ホテル」に於て伯國側と内地出張旅行に關し打合會あり

午後四時商業組合主催「レセプション」全員出席

午後七時平生夫人及小林米三送別晚餐會を「リドー」に催し岩井使節送別辭を陳ぶ小林米三君は終始使節團の雜務を克く補佐したり其の勞を多とす

同 二十八日（火）晴、暖

早晚出張各組無事出發各員元氣

午前十一時平生團長は事務長、團醫、及通譯を伴ひて伯國新聞協會長「モーゼ」氏往訪敬意を表す

渥美、奥野組は午前六時「リオ」飛行場發午後三時「バヒア」市着。内務長官、農務長官等の出迎を受け、

「パレリスホテル」に入る。午後六時、官殿に於て、内務長官始め政府要人と正式交歡の後、ホテルにて新聞記者團に面接す。

同 二十九日（水）晴、暖

(11)

大使館に於て土産品分配第二次相談を開く

平生團長一行午後六時半特別車連結の列車にて出發「ミナスジエラエス」州都ベロ、ホリゾンテに向ふ。列車動搖し船にて航海するが如し

先發團、岩井組はジュイス・デ・フォラ市を訪問の上礦山地帯を視察し先着

渥美、奥野組、午前十時農務廳訪問。物産取引所、商業會議所、「ココアインスチユート」等を訪問す。中井、吉田兩隨員「ベルナンブコ」訪問、同地方の棉花栽培状態を視察、六月一日「バヒア」市に歸還

同日 (木) 晴、暖

團長組正午「ペロホリゾンテ市」着「グランドホテル」投宿先發組と合ふ。午後零時半州統領訪問(平生團長、關、伊藤、岩井の各正使、事務長、團醫と島、東、杉本の三隨員及通譯)午餐自由午後三時農務局訪問同局にて「ミナス州」新聞記者團及多數名士と會見す製作品陳列場參觀午後四時商業組合本部に於て各種商工關係官民と會見懇談す  
晚餐自由

渥美、奥野組。午前六時半、政府接伴員全員隨行、バイヤ州奥地視察に向ふ。正午「サン、ゴサリオ」到着。市廳舎に正式歓迎を受け、同地に靜養中の「バヒア」州統領訪問。後、市長經營の煙草仕上工場、農事試験場視察。午後六時「カシオエラ」市に到着。直に特別列車にて「バーガッス」河上流發電所視察。

同日 (金) 晴、暖

平生團長は午前九時ミナス州農務長官の案内にて農場視察さる

(12)

午前十時各正使及一行商業組合本部に於ける諸名士及輸出入業者と會見懇談す

午後十二時半州統領官邸に於ける公式午餐會(出張全員出席)岩井使節が請に依り州統領の愛嬢を寫生し和親の情堂に溢る。州議會訪問製鐵所視察す午後七時出發「リオ」に向ふ

「ホリゾンテ」滞在中は州賓たり

平生夫人、小林隨員「リオ」より「ノザンプリンス」號にて紐育へ出發さる。一路平安を祈を打電す

渥美、奥野組、「ダンネマン」煙草會社工場、「コスタ、ベン」煙草會社視察。後「カシオエラ」市長、「サンフェリツク」市長を公式に訪問し、午後七時半「バヒア」市に歸着

六月 一日 (土) 晴、暖

平生團長、關、伊藤兩使節及事務長、團醫、通譯午前十時「リオ」歸還

奥地鑛産林産地帯視察のため岩井使節一行外務省接待員州政府當局付添山地自動車及特別列車にて「リオド1セ」流域を下る

奥地棉作地方視察のため關使節代理として島、東、杉本隨員一行右同様當局付添汽車にて北上

渥美、奥野組、農務長官訪問。「バヒア」市商工者と會商。埠頭見學、夜、宮殿晚餐會の州賓となる。内務長官(統領代理)、官民有力者を網羅す

同日 (日) 晴、暖

平生團長一同午後二時澤田大使の案内にて郊外ドライブ、午後四時「バヒヤ」行の渥美、奥野組歸着。渥美使節健康勝れず休養、午後七時平生團長、關、伊藤兩使節、山崎事務長、山口團醫、澤田大使主催の壽喜燒

(13)

會出席

岩井組「エスピリト・サント」州「ヴィクトリア」着、州政府統領會見閣僚と懇談

同日（月）晴、暖

午前十時「バヒア」出張一行の出張報告會會議中岩井、島兩組共に無事歸着したる故、全員出張報告會となす  
午後三時半「イタマラチー」に於ける打合せ會に全員出席す（使節報告本文参照）

山崎事務長は土産物分配贈呈に當る

午後九時「イタマラチー」大講堂に於ける關使節の日本紡績業に關する講演あり全員出席す伯國側よりは臨時  
外務大臣座長席に着き其他約百五十名來會非常なる盛會にして成功を收めたり

同日（火）晴、暖

午後「イタマラチー」會議全員出席午後八時澤田大使主催伯國労働商工大臣招待の晚餐會に出席（正使節六名）  
渥美使節病臥同情に堪へず山口博士看護に當る

同日（水）晴、暖

午後五時半より八時に至る澤田大使主催伯國官界並社交界名士及婦人令嬢招待の使節紹介「レセプション」に  
全員出席盛會を極む

午後九時伯國醫學會に於ける山口博士歡迎の「レセプション」あり。同博士は日本醫學會よりの「メッセー  
ジ」を披露す會衆約百名

同日（木）晴、暖

「イタマラチー」會議全員出席

午後五時半伯國新聞協會「レセプション」全員出席

同日（金）晴、暖

「イタマラチー」會議全員出席

午後九時「リオ」商業組合に於ける渥美使節の日本の對外貿易の伸展に關し講演の筈なりしも同使節は六月四  
日以来病臥中に付平生團長出席の上一應の挨拶を述べられ講演草稿は栗津通譯伯語にて朗讀す終つて本邦工  
業紹介の活動「フィルム」の映寫あり盛會

「バラナ」州よりの平生團長への記念「メタル」贈呈

同日（土）晴、暖

午前十時「イムベリアルシアター」に於て本邦紹介「フィルム」及伯國國情紹介「フィルム」の展示會あり全員出  
席す

「イタマラチー」會議全員出席

午後八時半生團長は伯國官界其他有力者約百名を「ジョッキ」俱樂部に招待し晚餐會を催す使節側より全員  
出席大使館幹部出席盛會を極む眞珠玉入り銀製寶玉容器を來會者一同に贈呈し喜ばる着想は成功したる様子  
是伯都に於ける眞珠流行の源を成したるやに聞及ぶ

同日（日）晴、暖

午前九時自動車にて郊外山上避暑地「ベトロポリス」へドライブ全員参加伯國側は接伴員及其家族來會す一日の清遊を楽しむ午後四時歸還す

午後八時半「イタマラチー」宮に於ける労働商工大臣主催公式送別晚餐會に全員出席す當日は伯國側としては殆んど未曾有と稱せらるる位の鄭重振りにて裝飾は宴會場のみならず宮殿全部に及び其の用意入念眞に完全を極めたり伯國側の心使ひの程推察に餘りあり欣快とす

同日 十日（月）晴、暖

本日夕刻を以て公賓の待遇を辭退す依て六月十一日朝より諸費用は悉く私的勘定とす

午後八時平生團長は伯國側接伴員全員及其關係者多數並に澤田大使以外大使館員全部總計八十名を「パラスホテル」に招待し鄭重なる慰勞晚餐會を催す。眞珠入り銀製寶石容器を夫々贈呈す尙ほ食後別室に於て吾妻春枝の舞踊「フェルム」を供覧す來客中日本文化の精髓に始めて觸れたるもの少なからず

同日 十一日（火）晴、暖

午前十時「イタマラチー」會議に關する各員報告會あり

午後二時「イタマラチー」に於て最後の總會を開き連日各員會商審議の結果を報告披露す終つて臨時外務大臣より平生團長に勳章捧呈式あり

以上を以て使節滯伯中の行事を完了す幸に渥美使節病床を離れ總會に出席す

同日 十二日（水）晴、暖

伯國側各大臣へ使節の告別名刺を送付す澤田大使「ホテル」來訪平生團長に行事終了の祝詞を述べ挨拶せらる

午後一時平生團長は「ホテル」に於て團員全部を鄭重なる午餐に招き慰勞告別の意を表さる之れを以て先づ解團となり各々旅途に就く午後四時平生團長は澤田大使を官邸に答訪す

平生團長勳章拜受並に無事歸朝再會まで解團の旨在紐育平生夫人へ發電す

大統領「アルゼンチン」より歸伯に付平生團長は午後二時山崎事務長栗津通譯同伴告別訪問せられ種々懇談を交さる午後四時臨時外務大臣午後五時半労働商工大臣を夫々訪問告別の挨拶を述べらる

各使節隨員一同各地へ出發

同日 十四日（金）晴、暖

午後九時平生團長出發聖市に向はる

六月 二十日 聖市にて「リオグラン・デ・ドスル」州を公式訪問の準備をなす

六月 二十一日 外務省接待員、大使館小峰通譯官付添、平生團長、關、岩井兩使節、團醫、中井隨員飛行機にてサントス發午後五時「リオグランデ・ド・スル」州々都「ポルトアレグレ」市着州統領代理、農務長官及市長等の出迎あり

夕六時州政府訪問州統領「フロレス・ダ・クニヤ」將軍接見各政廳訪問

六月 二十二日 一行午前市長訪問の後團長、團醫は同市病院施設視察、關、岩井兩使節一行は州統領とともに羊毛織布裁縫工場視察

正午州政府主催使節歡迎午餐會

午後より夜まで商會議所にて官民通商調査會朝日通信員近藤氏大に援助す

六月二十三日 岩井使節外務省及州當局付添特別飛行機にて西部國境「ウルガイヤナ」市訪問羊毛事情視察同夜歸還

團長、關使節一行は市長の案内にて建設中の博覽會及びポルトアレグレ市水道事業視察

六月二十四日 午前一行ビール工場視察

使節主催官民招待午餐會

正午接待員ポップ氏を通じ土産物配分贈呈及各官民別れの挨拶廻り

夕五時州統領専用列車にて團長、關使節、團醫、中井隨員一行州當局代表同乗にて出發「ウルガイ」國境に向

ふ團長始め一行大元氣

六月二十五日 國境を超えて「ウルガイ」國に入る

六月二十六日 岩井使節、團長の依命、棉花工作取纏めのため再び飛行機にて聖市及「リオ」市に引返す

#### 團長其後の行動

平生團長は國境通過後直に車中腸を病み山口團醫、關使節一行大に心痛、ウ都モンテビデオを通過し聯絡船にて亞都ベノスアイレス上陸、直に豫め公使館の手配にて用意せられたる「獨逸病院」に入院す。一時重態なりしも山口團醫、獨逸人醫師とよく協力、寢食を忘れ看護の結果七月二日に至り病勢漸く衰へたるも尙愁眉を開くあたはず其間關使節諸汎の用意をなし在米平生夫人はじめ日本及在伯關係先に打電し、應急の處置を取りたり。日本外務大臣、拓務大臣の間電、花卉贈呈あり伯外務大臣特使來訪、澤田大使はじめ母國及在伯官民より問電殺到す。この間公使館、在留邦人等の熱心なる援助を受く。

在聖岩井使節は澤田大使並にブラジル拓殖組合宮坂專務と打合せ平生團長令甥田中氏急派の手續をとり同氏七月初ベノス着、七月上旬中より漸く病勢日に怠り一同安神す

關氏七月十日船にてベ市出發、大體の棉花工作調査を遂げたる岩井氏は關氏と入れかはりに飛行機にて七月十四日ベノス着團長を看護す

十五日前後より固形物獨逸式無糖ビスケットを許され回復力五十代の勢なりと山口博士はじめ一同大に欣ぶ。入院後一ヶ月にて快癒目出度退院せらる。

かくして團長一行は船にて北上サントス、リオに寄港し關係官民に答禮し米國より直行の夫人及小林氏とロンドンにて落合ひ歐大陸視察の上ナポリより照國丸に九月二十八日上船、十月二十八日一行大元氣にて神戸安着。

十一月五日 朝八時團長夫妻、關、伊藤、岩井、奥野各使節、山崎事務長公式東京歸還

十時明治神宮參拜

官民各所への報告のため十一月中事務所を郵船ビル四〇一號室に置き其後は殘務處理のため便宜同ビル六階

川崎造船所東京出張所内に移す

歸	朝	月	日	神	戸	着	照	國	丸
平生	團	長	十月廿八日	神	戸	着	照	國	丸
關	使	節	十月十八日	同			宮	崎	丸
伊	藤	使	節	同			照	國	丸
渥	美	使	節	同			榛	名	丸
			十一月廿八日	同					

岩井使節	十月十一日	東京	着	シベリヤ經由
奥野使節	七月三十日	横濱	着	淺間丸
山崎事務長	八月十八日	同		リオデヂャネロ丸
山口團醫	十月廿八日	神戸	着	照國丸

## 伯國上陸の際に於ける平生經濟使節團長の

### 「ステートメント」

本日茲に光輝ある歴史を有する友邦伯刺西爾共和國の國土に吾々一行が第一步を印するに當り尊敬措く能はざる「ジエットリオ、ウアルガス」大統領閣下に最大の敬意を表すると共に親愛なる伯刺西爾共和國國民に對し一言挨拶を述ぶる機會を得たることは一行の光榮とする所なり。

日伯兩國は半球を異にし洋々隔つること數千哩なるも國民性自ら相通づるものあり、兩國相互の交通其の歴史必ずしも古しと謂ふべからざるも、親誼なること舊知の如く精神的に將又物質的に或は質に於て又量に於て兩國の關係は愈々緊密を加へ地理的距離は茲に益々短縮せられつゝあるの感を深うせり。

殊に目の當り山水の美觀を蒐め世界に比類なき明媚の首都を成せる當「リオ」港の風情に接し其背後に横はる廣大無邊の地域と豐饒無盡の資源を想ひ他面誠實勤勉なる人力と組織力ある資本とにより新興産業國として世界的地位をかち得たる日本の經濟條件を顧みる時相互間の經濟關係は將來彌が上にも増進融合すべき運命に在るを確信せ

しめたり。

固より吾々は手を束ねて漫然將來を翹望するものに非ず自ら求めて息まざるは吾々の信條にして是れ相互の親善を増進し世界の文化に寄與する所以なるを信ぜむとす。

翻て顧みるに貴我の貿易額の如き累年増進を示しつつありと雖も、兩國各自の對外貿易總額に比し云ふに足らざる少額なり、現に我國昨年度の對伯貿易總額は漸く二萬五千四百四十「コントス」にして同年の我國の對外貿易總額千七百八十一萬六千餘「コントス」に對し僅か十分の一「パーセント」強に過ぎず。

右は前顯相互の經濟條件に對比し極めて不可思議なる現象と謂ふべく、畢竟するに今日迄相互に其實情を充分に認識せむとするの努力に缺如するもの無かりしやを思はしむ。之れ今回日本商工會議所の委嘱を受け吾々一行が派遣せらるるに至れる所以なり。依て吾々の任務は先づ努めて伯國の經濟事情に付如實に吾々の認識を深め延て日本朝野を啓發するに在り。吾々は約一ヶ月貴國に滞在し各方面の經濟事情を視察し事實と數字とに就ての知識を得ると共に朝野の有力者と接觸して腹藏なき意見を交換せむことを希望し居り、若し吾々の伯國訪問が貴我兩國の將來の通商貿易關係増進の第一段とも爲り得れば望外の仕合なり。

吾々は茲に大國伯刺西爾の國運の隆昌と國民の福祉を祈願すると共に吾人の使命に對する諒解と援助を得むことを希望す。斯くて兩國經濟關係を一層緊密ならしめ且精神的に益々貴我の友好關係を敦厚にし兩國國民相携へて世界の進歩に貢獻するに至らむことは吾々一行の衷心祈つて止ざる所なり。

第二編 使節報告本文

吾一行が三十餘日に亘り、ブラジル國に於ける主要なる各都市を視察し、州統領、農商工業に關係ある州長官及商工業者と會談し、又リオ・デ・ジャネイロに於て農務、勞働、商工、交通、外務、大藏各大臣は勿論大統領にも會見して腹藏なき意見を交換し、尙外務省に於ける約一週間に亘る専門家及關係當局の代表者との自由討議に於て得たる所の智識と材料とを綜合して、日伯貿易に關する我使節の意見を明白に開陳せんに、先づブラジル政府の財政が現在如何なる状態にありやを一瞥するの要あり、ブラジルに於ける財政難の主點は、輸出が其數量に於ても其價格に於ても減退しつゝあるにも拘らず、其内外公債が漸増しつゝあることにして、次の數字は之を雄辯に物語るものなり。(當時の爲替相場にて英貨に換算す)

公 債 (英貨磅)				
聯邦政府	州 市			
合 計 額				
一九〇〇年	四二、〇六〇、七〇一	五、〇七九、六八〇	五七八、五七〇	四七、七一八、九五二
一九一二年	九六、二八一、五七〇	四〇、五九四、七五二	八、四五八、二二六	一四五、三三四、五四八
一九二二年	一一〇、三〇六、三〇三	三五、四九〇、五二二	二〇、六二七、七九五	一七六、四三三、六二〇
一九三二年	一三五、三一九、四〇六	六九、八一五、七七二	二四、七八六、六三三	一二九、九二三、九一一
輸 出 額 (英貨磅)				
一九〇一年				四〇、六二二、〇〇〇
一九一二年				七四、六四九、〇〇〇
一九二二年				六九、五七六、〇〇〇



一九二九年 五ヶ年平均額……………五六、五〇八、〇〇〇  
一九三三年

備考

一九二九年	九四、八三一、〇〇〇
一九三〇年	六五、七四六、〇〇〇
一九三一年	四九、五四四、〇〇〇
一九三二年	三六、六三〇、〇〇〇
一九三三年	三五、七九〇、〇〇〇

而して政費の一斑を観察するに、政費は年々累加しつつあるが如く、就中最も顯著なるものは軍費なり。

現大蔵大臣 Arthur de Souza Costa 氏が、外債問題に關し歐米に赴き多少の成功を収めて歸國せし後に於て、

最も同氏を惱ませしものは軍人及び文官の俸給増加の提議に直面したることにして、其要求額は約九、六〇〇、〇〇〇

〇磅、ブラジル國豫算上の赤字は已に六、〇〇〇、〇〇〇磅あるのみならず、已に一般會計に於て四、八〇〇、〇〇〇

磅、軍事會計に於て五、三一六、〇〇〇磅のクレジットあり、之を前掲の赤字額に加算するときは合計一九、七一六、〇〇〇磅の赤字となる。

この軍人及び文官に對する俸給増加案は下院に提出せられ、多數を以て議決せられたるも、其後修正案によりて四、八〇〇、〇〇〇磅の増額と臨時費支出のため一、三二〇、〇〇〇磅の公債募集の権限を附與することとなりたり。

ブラジル國に於ては、總収入の二割四分九厘が陸海軍費に投ぜられ、此額が漸次増加せんとする勢あるを見て、同國に投資し又は同國の公債に應募して、今や元利の償還さへ懸念せる英米人は大なる衝動を受けつつあり。(現在は Coffee Realization Bond の外元利の支拂を中止せり)

( 2 )

彼等はブラジル政府が總収入の二割五分を軍事費に費消することは、國家財政の逼迫を無視するものとして歐洲先進國の比率を示して非難するもの多し。(之によれば英國一四・六%、佛國一七%、米國一一・六%、イタリー二〇%) 政府反對の議員中には、ブラジルは何れの方面よりも脅威を受くる危険なれば、膨大なる常備軍を有するの必要なく、況んや海面より侵犯せらるるの恐なきものなれば、海軍準備の要なしとの議論をなすものなきにあらざるも、現政府は軍人の援助によりて成功せる革命政府とて、軍人の要求を無下に排斥するを得ず、曾て陸軍案が議會に於て攻撃せられたるとき、斯様の演説は軍隊を侮辱するものなりとて一騒動が起りたることありて、反對議員の邸宅は巡查を以て護衛するの已むを得ざるに至りたるが、今や軍人の給與が増額せられたればかかる騒動再發の恐なしと雖も、心ある者は、斯くの如き方針はブラジルを衰頽に導くものなりと非難するものなきにあらず。

又ブラジルに於ては、幾多の政府事業存するも、何れも種々の弊害と巨額の損失と經營の拙劣を伴ふものなり。

第一は海運業にして、同國には Lloyd Brasileiro と稱する汽船會社あり、此會社は表面私立會社にして大小七十數隻の汽船を有するが、其實政府により監督せられ金融せられ居るものなり。されば政治家に取りては最も都合よき狩場にして、南滿鐵道も一時かかる評判を受けたることあり。即ち議會に多數を得たる政黨が、其役員として知友を推擧否強要し重役として入社せしむるものなり。創立以來二十八年、世界大戰當時に於てさへ損失を醸せしとのことなれば、年々の損失たるや莫大なるべく、其所有船は老朽事に堪へざるものみにして、到底新式の他國汽船との競争場裡に立つ能はざるなり。我經濟使節團が組織せらるるとの噂がブラジルに達するや、同國の某新聞は特號活字を以て日本經濟使節來伯の目的は、期限十六年利息五分附資金一億弗を伯國に融通し、製鐵所、兵器廠、自動車、飛行機工場、造船所等の設置並に商船六十隻の購入を爲さしめ、棉花、鐵、木材、皮革、滿俺鑛等伯國物

( 3 )

産を以て支拂を完了せしむるにありとの何等根據なき浮説を掲げたることありしが、之は如何に *Lloyd Brasileiro* の所有船舶が耐抗能力少なく競争力皆無なるを證して餘りあり。同社は一の修繕船渠を有するが、經營宜しきを得ざるためか、其能率不十分にして多數の船舶が船渠附近に碇泊し、しかも其船員は全部在船して給食料を收得しつゝありとのことなり。國有とも云ふべき *Lloyd Brasileiro* の所有船が無能力なるを見て、サンパウロ州に於て資本金一、二〇〇、〇〇〇磅を以て一汽車會社を設立して、州政府は其五一%を所有し、資本金に對し五%の補給利子を保證することとして三二隻の大小汽船を購入して、大に海運業を經營せんとするが如き奇現象を呈しつゝあり。次に政府所有の交通機關に中央鐵道あり、經營其他 *Lloyd Brasileiro* に對し述べたる處は此國有鐵道にも適用すべく、此鐵道の特異性とも云ふべきことは、其料率の極端に低廉なることに於て、一等車にて五〇哩を往復して僅かに一シリングなり。(即ち邦貨換算約八五錢なり、若し日本の鐵道の例によれば、一等は三等の三倍にして、三等一哩一圓とせば三圓に當る。)此點に於てブラジル國は *State Socialism* の實行者と云ふべく、而かも車輛の改善線路の保繕の如きは閑却せられ、保繕を怠れる狹軌鐵道に修理不完全なる機關車を以て急速力にて疾走することとて、其震動の激烈なる、我國有鐵道の如き完全なる列車に乗り馴れたる日本人には寧ろ病的と云ふべきなり。余が旅行中發病し重態となりたる原因の一はブラジル鐵道に在りと信するものなり。卓上に在る瓶、食器の顛倒落下するが如き決して稀とせず。

此の如く、車輛の修理も線路の保繕も等閑に附せられある事實に對し、某英國人曰く、夫は英國政府の *Export Credit Department* が後援して、ブラジル鐵道の一部を電化する計畫あることとて、ブラジル人は英國人が車輛を供給し、永久的線路を敷設せんとする時、我等は何故資金を費さんやと云ふ態度を取れるものなりと云へるが、一

(4)

而の眞理あるが如し。ブラジルに交通機關として鐵道が敷設せられて八十三年の長時日を経たる今日に於て、何故に一臺の機關車も自國に於て製造し能はざるやと云ふに、ブラジルの鐵道は最初より英國の資本を以てせられ、機關車も車輛も技師も凡て英國より來り、英國資本家も技師者もブラジル政府に對して機關車並に車輛の製造を勸告せず、又之に要する知識も授けざりしなり。由來英國人は自國の工業を永久に盛大ならしめんがため、他國殊に自國の製品を賣込みつつある國々に於て工業の勃興することを好まず、故に其國民に工業的知識を傳授せず、又、其經營につき何等の指導をなさざることは傳統的方针なるが如し。之がブラジルに於ける鐵道海運の現状を來たしたる一因なりと云ふも謬言にあらずと思はる。

以上述べたる事實に徴し、ブラジル國としてはこの窮迫せる財政状態を建直さんとせば、國費を減少し輸出を増加するの外なし。

(5)

此點に於ける捷徑は棉花栽培の獎勵なり。其採摘包裝保管方法の改良及運送方法の改善なり。吾經濟使節團は主として棉業者を以て組織せられたるを以て、余は團員東洋紡績專務取締役たる關桂三氏の執筆になる棉花栽培及取扱方に關する勸告書を翻譯して、之をブラジル政府に致し其改良を促したるが、若しブラジル官民がこの懇切なる勸告を容れて改良をなさんか、ブラジル棉花は米棉の代用品として巨額の輸入を見るや必せり。

かくして棉花がブラジル政府のコーヒーに於て失へる所のものを補ふて餘りありと云ふべきか。ブラジル政府がコーヒーの生産過剩のため市價暴落し、官民共に窮境に陥りたる爲め多量のコーヒーを燒棄し、推積せるコーヒーの減少を圖りたることは、恰も米國政府が行ひたる棉作地の減反と等しく、他國の生産者に *Subsidy* を下附せると同一の結果を生じ、其効果は豫期に反したるものありたるなり。

棉花の外尙獎勵増産の餘地あるものは生果にして、バナナ、柑橘類なり。ブラジル産バナナ及柑橘は歐洲に於て好評あり、其嗜好に適するは事實なり。

尙ブラジルは無限の包藏金を有するは何人も疑はざる所、又ミナスセラエス州に於ては全山鐵鑛とも云ふべき山岳を見る。然るに製鐵業が毫も發達せずして、凡ゆる鐵鋼材料の供給を外國に仰ぐが如き現狀に在るは、これ一に燃料の不足と運輸機關の不備に因ることとは云へ、其主因は内外人の政治的陰謀に妨げらるることによりとの意見を抱くものあり、之も一理ありと云ふべし。

ブラジル國は我日本の二二倍の面積を有し、人口僅かに四千五百萬人餘なり。且同國は日本の如く山岳が蜿蜒として相連るにあらず、寧ろ耕作に適する土地が大部分を占むるを以て、耕地としては夫れ以上の割合と云ふべし。故にブラジル國に於ける天然の資源は、この膨大なる沃土と地中に包藏せられ居る鑛物にして、此天然の資源が開發せらるるに於ては、ブラジルは北米合衆國に次ぐの大富強國たるの未來を有するものなり。

試みにブラジル國の地圖を繕きて一瞥せんに、ブラジル國の最南端州 Rio Grande do Sul. より最北端州 Pará (南米拓殖會社經營の殖民地所在) に至る海岸線は約三、二〇〇哩にして、「リオ・グランデ」より隣邦パラガイに至るまでは三六〇哩なり。又バラよりアマゾン河によりマナオス經由ベルー迄は一、六〇〇哩にして、首都リオ・デ・ジヤネイロよりマナオスに至るには汽船航海にて十日を要し、同じくリオ・グランデドスル州の首都 Porto Alegre に至るには四日を要す。

全くブラジル國は能く統御し能く組織するには餘りに大國なり。之は外國人たる余が認むるのみならず、心あるブラジル有識者間に於ても首肯せらるる處なり。ブラジル國は未だ開發せられず、人口稀薄にして強固なる政治的

組織を缺く大國なり。

同國は外國資本を要求するよりも、寧ろ農業的外國移民を最も切實に要しつつある處なり。北米合衆國が melting-pot と稱せられてあらゆる民族を同化せる如く、ブラジル國も異種民族を同化する力を有す。今日獨逸人、伊太利人等の後裔を見れば、彼等は忠實なるブラジル人として政治に關與し、經濟界にも寄與しつつあり。我日本移民も二、三代後には必ずや獨、伊人の後裔と等しく、忠誠無比のブラジル人たるや疑を容れず。今日排日を宣傳しつつあるトレース協會の徒が叫ぶ所の如き杞憂と云ふべきか。

我移民に對するブラジル官民の感情如何と云ふに、吾一行が訪問せし各州に於ける官民との接觸により、我々が受けたる印象としては、彼等が我同胞に對し惡感情を有すとは如何にしても諒解すること能はず。或る州の歡迎會に於て、州統領は其歡迎の辭に於て、在伯日本人は法律を守り、各自の生業に當りて夫々優秀なる手腕を有する點に於て、伯國の進歩のため有効なる分子であり、日本移民は其性質極めて勤勉、節儉、謙讓、而も用意周到なるを以て、吾人の性格と全く一致するものなり。故に我州の關する限り日本移民は歡迎せらるるものなりと宣言すと云ひ、又現政府に對し最も權威を有する某州統領の如きは、日本移民を其州に收容せんことを希望し、二分案の如きは其解釋次第によりて融通し得るものなりと明言せる等、かかる排日案が憲法議會を通過せるは寧ろ不思議に思はるる程なり。

ブラジル國の廣大なる沃土を開墾して美田とし、良國と變ぜんには多數の農民を要し、地中の豊庫を開發せんには多數の坑夫を要することは先に述べたるが如く、ブラジル國が今後多くの移民を要するや論無く、殊に最近異數の速度を以て擴張せられんとする棉花及果樹の栽培の如き人手を要するものなれば、此等の事業に着手したる各州

は大に努力の不足を訴へ居るが如く、現にサンパウロ州のコフィー園に使用せられ居る我移民の賃銀の如き約三〇%の引上げを見、爲めに農園主は大に日本移民制限案緩和策を講じつつあるを見ても之を知るべし。ブラジル國の財政建直のために輸出増加の必要ありとせば、少くとも今日に於て大に努力の増加を圖り、棉花果樹の栽培に全力を盡すことがブラジル政府としての緊急事なりと云ふべきか。ブラジル國の現状よりして日伯間の通商關係を増進せんとするには、先づ以て我國工業の大宗とも云ふべき棉業の原料たるブラジル棉花の改善と増産を促進せしめ、又鐵、マンガニース其他の礦物を開發せしめて、出來得るだけ多量に之を輸入し、其代品として我國の加工品を輸出することが今日の急務と云ふべきか。之が爲めには我國の棉業者が進んでブラジルに Ginning house, Compress house 其他倉庫等を建設又は買収するのみならず、之に對する金融機關の完備を圖り、以てブラジル棉花取引の促進と安全を期せざるべからず。米國棉花商アンダーソン、クレイトン會社が夙に此點に着眼し、已に多額の資金を投じて是等の諸機關の買収増設を企て、ブラジル棉花の獨占を圖らんと努力しつつあるは當然と云ふべきか。

又礦物の開發につきても、前に述べたるが如く幾多の障害ありて未だ其緒に就かざるが如しと雖も、我國の鑛業者が適當なる技術者を派遣して踏査試掘に従事せしめんか、必ずや之を利用するの道なしとせず。此等の豊富なる鑛山を有する諸州に於ては、我専門技師を備ふて調査せしむる道なきにしもあらざれば、其費用の如き一部をブラジル國に負擔せしむるを得べきか。

場合によりては其州に於て、顧問技師として我鑛山専門技師を招聘せしむることも敢て可能性なしと斷すべからず。

前に述べたる如く、ブラジル國に於ては製鐵業が豊富なる鐵鑛を有しながら不振なるを以て、重工業に屬する製

造業は燃料の缺乏と英國人の指導の下にありたる爲め甚だ微々たるものなれば、我國の資本家が有能なる技師を派遣して重工業に従事せしめんか、今日ブラジル國に輸入せらるる鐵製品たる機關車、車輛其他の鐵道用品鋼板、鋼管、鋼釘、鋼製諸機械類、電氣機具、發電機、銅線類をブラジルに於て製造すること敢て難しとせず。

ブラジル政府は、輸入品の工業が同國に起さるることは、輸入を減じ努力の需要を増すものなれば大に歡迎すべく、之につき相當の便宜を與ふることはブラジル國官憲の公言する所なり。故に三井、三菱、住友の如き大資本を擁し重工業に經驗ある諸會社は、進んで expert technician を同地に遣はし此點を研究せば、必ずや新事業を企つるの有利なることを發見するならんか。

國債、州債、市債に應募することは、今日のブラジル財政と政治機構より判じて寧ろ得策ならずと思はる。軍費の減少と輸出の増加によりて財政の改善をなすの外に道なしとする時に當り、軍費の減額が不可能なりとせば、ブラジル國の財政は能く二三〇、〇〇〇、〇〇〇磅に達する内外債の元利支拂に應ずる能はざるは自明なりとす。されば英米に於ても、此上ブラジル國の募債に應ぜざるは勿論なり。かかる財政状態に於けるブラジル國債、州債、市債に應ずることは、日本として不得策なるは明白なり。國債、州債、市債の如き、償還不能に陥りたる場合に於ては如何とも施す策なく、強て其の元利の返還を迫らんか、却つて兩國の親交を疎隔して通商關係、移民問題等を惡化せしむるに至らん。況んや我國自身の財政状態に於て外國に巨額の資本を投下するを許さざるものなれば、唯通商貿易の補助機關として必要なる諸設備の爲めには進んで投資を奨励すべく、かかる投資に對しては英國に於ける Export Credit システムに倣ひて政府は低利資金の貸出をなすが、又は資本に對して利子の補助又は元金の補償を與ふべく、而して其投資額は多大なることを要せず。要するに對伯通商貿易を増進せんには棉花栽培の改良、チン

ニング、コンプレス荷造貯蔵運送の方法につき改善を實行せしめ、ブラジル棉花をして米棉に等しき國際商品たらしめ、之を多量に輸入し以てブラジルをして本邦品を輸入するの資力を得しめ、有無相通するの途を開くを專一とし、次で其他の原料品又は鑛物が、果して有利に我國に輸入し得るやを専門家をして研究調査せしめ、以て此等の物資輸入の道を開くべし。次で我國より同國に輸出すべき鐵製品、機械類、電氣機具、人造肥料、化學製品、紙類、織緯加工品、玩具其他につき今一段の研究調査をなさしめ、輸出品の調節を圖るべし。

之がためには、本經濟使節團の調査に基き、斯業の専門家をして更に彼地に赴き、研究をなさしむることを要望す。

其結果、ブラジルへ現在輸入せらるる工業製品中、我國の製品を以て之に代らしむる事が、地理的又は關稅の爲或は爲替管理割當制度の爲不可能なる場合に於ては、彼地に於て工場を建設して、我國の技師、職工長指導監督の下に、ブラジル職工又は一部我職工を使用して經營せば、相當の利益を擧ぐる可きと信ず。故に斯界の有力量は單獨又は共同して技師並に經營者を彼地に派遣し、實地調査をなさしむべく、之に要する資金に對しては、政府は前に掲げたるが如き方法を以て補助をなすべきなり。

日伯兩國間に於ける通商移民其他の調査をなし、相互の交誼を修め益々親交を温めんがため、日伯文化經濟協會の如きものを日伯兩國民共同して兩國の要地に設立すべく、兩國政府は之に對して相當の助成をなし、且其事業の遂行に關し凡ゆる便宜を與へんことを希望す。

ブラジルに於て海運は前述の如く最も衰頹せる状態に在るものにして、其根本的改革はブラジル國の産業發達の上に、延ては財政の建直しのためにも放任すべからざる大問題なるが、之には巨額の資本を要するものなるを以て、

我國として目下策の施すべき途なきが如きも、將來の問題として我國がブラジルに新天地を開くことを國策とする以上、大に研究考慮すべき所なり。殊にブラジルの盛衰、移民の消長に重大なる關心を有する大阪商船會社に於ては、この問題を研究してブラジル國と利益を共通し、以て同社がブラジル國の海運に驥足を伸ばすの端緒を開くの策を講ぜんことを勸告するものなり。

ブラジル日本間の通商貿易が如何にも微々として振はず、我國輸出貿易の大宗たる棉製品の輸入が、高關稅の障壁を以て防止せられ居るため、我實業家はブラジルを以て通商不可能の國と見なし、其通商につき無關心なるを以て、同國に店舗を有する日本人は小規模の雜貨商にして、財力豊富なる貿易商を見ざるは實に遺憾の極なり。同國に信用充分なる貿易業者の營業所の不備は、同國へ輸入せられつつある工業製品の賣込に對し、日本の商工業者を以て之に手を染むる能はざらしめたる今日の状態なり。一九三四年に於けるブラジル國輸入物件中「リオ」及「サンパウロ」市場を目標として、我國に於て供給の見込ある品種及金額を左に掲ぐ。

品 種	數量(單位噸)	金額(單位コント)
鮮	一一、五〇〇	一一、五〇〇
曹 達	一七、五〇〇	一七、五〇〇
新 聞 紙	三〇、〇〇〇	一五、〇〇〇
生 絲	九二〇	七〇、〇〇〇
毛 絲	一、三〇〇	三〇、〇〇〇
鐵 線	二六、〇〇〇	一一〇、〇〇〇

鐵	力	二〇、〇〇〇	二〇、〇〇〇
農業藥品	—	一五、〇〇〇 (？)	
鐵管	—	一一、〇〇〇	一八、〇〇〇
計			二二八、〇〇〇 (邦貨約四千五百萬圓)

若しリオ・デ・ジャネイロ又はサンパウロに信頼すべき代理あらんか、必ずやこの有力なる Channel を通じて我製品の輸入が行はるべきや必せり。特種の知識を要する物件ならば、専門技師を派遣して此代理人の事務所に駐在せしむるも敢て難事にあらず。兎に角其橋渡しにより取引が開始せらるるや疑を容れず。故に我使節團は有力なる日本の商店が一日も早く、一は自己の利益のため、一は国力進展のため支店又は出張所を開設し、適當なる権限を有する支配人を置き、其衝に當らしめんことを熱望するものなり。

尙訪伯本邦經濟使節と伯國關係官民との間に組織せられたる共同委員會に於て採擇せられたる決議、勸告事項左の如し。

- 一、訪伯本邦經濟使節一行伯國到着後、伯國側外務省員、當業者との間に日伯共同委員會を組織し、六月三日より十一日迄連日伯國外務省内に於て會議を開催したるが、討議の便宜上、
  - (A) 伯國よりの輸出、(一)棉花、(二)礦物類、(三)其の他の生産物
  - (B) 伯國への輸入、(一)重工業品、(二)其の他の製産物
  - (C) 日伯通商促進に關する一般問題

の三部門に分ち會議の進捗を計れり。

- 二、同委員會總會は六月十一日開催、何等兩國政府を拘束するものにあらずとの條件の下に、左の通り將來日伯貿易に圓貨を使用する件以下六個の勸告と凍結資金決済に關する決議とを採擇し、次で平生團長は閉會の挨拶に當り、伯刺西爾政府及當業者の含み迄に不取敢伯國棉花に對する所見を述べしとして、使節側研究の結果伯國棉は日本側より觀て將來有望なりとの確信を得たるを以て、日本側所要の改良を加へ、値段に於て大なる開きを見ざれば、今後大に之を買入るる用意ありとの趣旨を以て詳細なる意見を述べ、之を速記に止めしめたる上、其の他伯國生産物にして日本に輸入し得べきものに關する意見並に日本商品の伯國賣込は、伯國の既成工業を脅かさむとするものにあらず、寧ろ之を助成すべき優良機械の賣込及伯國が、現に外國より輸入しつつある商品を、良質廉價にて輸入せむとするものなりとの趣旨を述べたり。
- 三、同委員會に於て採擇せられたる勸告、決議及宣言要旨左の通りなり。

(甲) 勸告

- 一、兩國直接貿易の決済は、「ミルレイス」を以てする能はざるに鑑み、國際流通力ある圓其の他自由通貨に依ることを得。
- 二、日本輸入商は伯刺西爾鑛石の對日輸出を容易ならしむる爲、原則として伯刺西爾政府發給の分析證明書を承認す。但し後に至り、見本を日本側に送り其の分析を受く可し。尙將來の爲、兩國政府の分析機關は相互に技術的聯絡を執る可し。
- 三、見本市參加相互助成のこと。

- 四、兩國關係團體は、觀光事業促進の爲相互に聯絡を圖ること。
- 五、「マンガン」鑛輸出を容易ならしむる爲、「バイヤ」港設備改善のこと等。
- 六、今回の日伯共同委員會談合の事業の具體化を圖ると同時に、日伯通商の一般利益を増進する目的を以て兩國相互に日伯通商常設委員會を設置すること。

(乙) 決 議

凍結資金解決に關する話合(無利子六箇月決濟)。

(丙) 宣 言

- 一、日本商社は成るべく伯刺西爾に其の支店乃至代理店の設置方を考慮すべし。尙日伯實業家の隨時互互訪問を促進する事。
  - 二、伯刺西爾の國際貿易に貢獻する目的を以て、日本は伯刺西爾市場に於ける外國商品と公正なる競争を行ふ事あるべきも、伯刺西爾國內工業と競争の意思無し。
  - 三、今回の訪伯日本經濟使節の如き經濟使節を、伯國が日本に派遣する事を希望す。
- 尙之等勸告及宣言事項等は、日大側に於ては日本商工會議所主となり、伯刺西爾側に於ては外務省内日本課に於て夫々政府及各地商工團體と聯絡を執り、實行に移す事に申合せ居れり。

## 第三編 調查報告

# 第一章 ブラジル棉花事情

## 目次

緒言	一
第一章 總論	二
第二章 棉花耕作の現状	三
第一節 作付反別並に收穫高	三
第二節 植付と收穫	七
第三節 棉花の害蟲と其の驅除法	八
第三章 國內消費と輸出	九
第一節 伯國に於ける紡績業と原棉消費量	一〇
第二節 棉花の輸出	一
第四章 棉花の品質	一三
第一節 北伯棉の品質	一四
第二節 聖州に於ける棉種統一と其の品質	一四



第三節	伯國棉の缺點	一五
第五章	聯邦政府の棉花格付規定	一七
第一節	「グレード」に關する格付	一七
第二節	毛筋に關する格付	一八
第三節	聖州政府の實棉格付規定	一九
第四節	格付制度の缺陷	一九
第六章	繰棉と荷造	二〇
第一節	繰棉工場並に繰棉方法	二〇
第二節	荷造状態	二三
第七章	棉花の取引狀況	二三
第一節	奧地實棉賣買に付て	二四
第二節	集散地に於ける取引	二五
第八章	棉花の生産費	二五
第九章	鐵道運賃並に海上運賃	二六
第十章	結論	二〇
附 錄	棉花に關する勸告書	二六

緒 言

伯國の棉作が現實に世界の注目を惹いたのは昨年即一九三四年以來のことである。平均輸出餘力一年僅かに十萬俵内外に過ぎなかつた伯國産棉は從來國際棉花市場に於ては量的にも質的にも寧ろ輕視せられて居たのであるが昨年度に於て一躍百五十八萬俵を産し七十萬俵を各國に輸出するに至り本年は更に其の產出量に於て躍進的增加を來すべしとの豫想は俄然世界注視の的となつた。

私共訪伯日本經濟使節團は五月十六日首都リオデジャネイロに到着と共に直ちに伯國政府と調査方針に付打合せを行ひ先づ最初に南部産棉の最大集散地たる聖市に赴き滞在一週間聖州官民の協力援助を得て實情調査に努むる一方隨員の一部を聖州奥地の主要棉産地に出張せしめ收穫並に奧地取引の實況を視察せしめた。續いて使節團は二組に分れて、ミナスセラエス並に北伯バイヤ、ベルナンブコ、パライバの各産地調査に出張した。

六月二日リオデジャネイロ宮殿に於て日伯合同研究會を開き伯國外務省委員伯國農務省並に棉花取引に經驗深き實業家との間に質疑應答を重ねた。他方在伯帝國大使館總領事館並に在留邦人等の熱心なる協力により調査研究上多大の便宜を與へられたる爲め滞伯期間の僅少なりしに拘らず豫期以上の收穫を治めることが出來た、茲に關係各位に對し厚く謝意を表する次第である。

唯誠に遺憾なるは伯國に於ては未だ棉花に關する統計資料が頗る不備不完全で且又統計作成の基礎にも亦充分信を措き難い點あり突き進んで究めんとすると屢矛盾を示した。本報告書に掲上の諸統計は主として伯國政府の提供によるものであるが前記理由により充分正確なものとは云ふを得ない點を諒承せられたい。

## 第一章 總論

伯國には二つの棉産地がある。一は東北地方で他は南部地方である。兩者は植付收穫の時期を異にせるのみならず棉種品質も異なつて居る。即東北地方には多年生の木棉が多く南部地方の棉は悉く一年生の米棉アップランド種である。

歴史的に見ると南部に於ける棉作は比較的新しい産業であるが北部に於ける棉作の起源は相當に古く彼の植民時代に於て既に北伯特にバイヤ、ベルナンブコ、マラニオンに於て之が栽培を見、當初は地方的需要を充たすに過ぎなかつたが漸次世界の各地に輸出するに至つた。殊に米國に於ける南北戦争は伯國の棉作を刺戟して激増を來したが一八八八年に奴隸の廢止せらるるや北部の大農園主は棉作を抛棄し爾來小規模の産業となつて再び地方的需要を充たすのみとなつた。其後歐洲大戰の結果再び好況に入り輸出も亦激増し十五六萬俵を輸出したこともあつたが其の趨勢を持続すること能はず漸次落調を辿るに至つた。過去に於ける伯國の産棉は如斯非常時に於て世界産棉が供給不足を來し價格が昂騰したるときに於てのみ棉花の供給者となり平時に復せば外國産棉に驅逐せられると云ふ歴史を繰り返して來たのである。

伯國の棉作は如斯興亡常ならぬものがあつたが棉花耕作の自然的條件に於ては伯國は海外棉産地に比し勝るとも劣らないのである。唯舊來の棉作が極めて粗笨的にしてあまりに自然的條件に支配せられ易く隨つて豊凶常ならず供給量の安定を缺いたのと他方收穫繰荷造方法の幼稚であつて輸出品としての缺點が頗る多かつた爲めに各國市場に於て認められず今日迄さしたる發展を見るに至らなかつた。然るに昨年度以來産額に劃期的増加を見漸く國際

市場に重視せらるるに及んだ。是が原因は種々あるが、最大の理由は珈琲の不況と棉花市價の昂騰と政府の棉作奨勵とである、而して伯國最近の棉花増産の趨勢が果して永續性ありやにつきては相當疑念を懐く向もあるが政府は非常な意氣込みで之を奨勵して居る。

伯國政府の棉花施設は耕作上の指導は勿論棉種の統一、繰棉工場の監督、格付規定の制定、依裝規格の標準化等凡ゆる方面に合理化を勵行せるため、管に産額の増加に止らず品質の上にも従來に比して大いに面目を一新した。唯伯國産棉は永年國內商品の域を脱しなかつたため、農民は勿論政府も取扱商人も共に國際商品としての棉花の智識を缺いて居る。その爲めに折角の努力も施設も未だ商品としての充分の聲價を擧げるには至らない。私共の見るところでは耕地に開墾中の棉花の品質は平均に於て毫も北米棉に比し遜色なきに拘らず其の後の取扱に遺憾の點が多いため商品となつた伯國棉の品質は下級品が大部分を占め一部少數の埃及棉代用となるべき優良毛筋ものを除いては僅かに其約三分の一が米棉普通品の代用となり得る程度で他は米棉襦物並に印度棉の代用としかならない状態である。此の點を甚だ遺憾と思ひ使節團は七月十日伯國を去るに臨んで伯國政府に對し附録の如き棉作指導方針に關する勸告書を提出して今後の改良を望んだ次第である。

## 第二章 棉花耕作の現状

### 第一節 作付反別並に收穫高

一九三四年度に於ける伯國棉花生産高は百五十八萬俵と云ふ記録的産額を見、本年は更に躍進して當初は二百萬

俵を突破すべしとの豫想であつたが南部棉産地が虫害の爲めに大凶作に陥つた爲め六月末の豫想は百八十萬俵に減少して居る。

元來農業國としての伯國は肥沃廣大なる原野と好適の氣候とに恵まれ珈琲砂糖を始め各種農産物の生産に適して居り棉花栽培の好適地面積は二億英反以上もあると稱せられて居る。古來棉花は北伯地方の特産とせられ南伯農民は珈琲單作主義に偏重し南部綿工業の發達にも拘らず棉作は久しく珈琲栽培に壓倒せられて振はなかつたのである。然るに一九二九年珈琲市場が一大恐慌に見舞はるるや南部の農業組織に一大變革を來し珈琲單作主義より多角農の奨導となり政府が大いに力を入れて棉花の栽培を奨勵せる結果一般農民も追々棉作に關心を抱くに至つた。その上一九三二年には北伯の大旱魃のため棉花の大減收となり内地の棉價は暴騰し續いて翌一九三三年には北米の棉花減反案により世界的棉價の昂騰時代に入るなど極めて有利なる環境に恵まれて南部に於ける棉作は更に急速なる發展を來すに至つたのである。

今一九三四年に於ける伯國棉作を南北兩地方に別ちて考察すると左記の通りである。

總作付反別	三、二二二、〇〇〇英反	内	北伯	二、一一九、三〇〇英反
			南伯	一、一一二、七〇〇英反
總收穫高	一、五八〇、二〇〇俵	内	北伯	九二六、九〇〇俵
			南伯	六五三、三〇〇俵

右の如く南伯の棉作は今や北伯に比し反別に於ては約二分の一に過ぎざるも收穫高に於ては約三分の二に達するに至つた。

本年度の産額に付ては六月では南伯は未だ收穫最中、北伯は成育期間中にて正確なる判断は下し難いが目下の收穫豫想では南伯は約六十萬俵、北伯は約百二十萬俵を産出すべしと見られて居る。若し本年の南伯棉作が前述の如く大虫害に襲はれなかつたならば南伯のみでも百萬俵以上を産出することが出来たであらうと云はれて居る。

過去五ヶ年間の伯國州別作付反別並に收穫高は左の通りで、之に依れば伯國棉産は昨年度に於て急増を來したるもので就中南伯の増加が如何に顯著であるかを窺ひ知ることが出来る。

伯國棉花作付反別

	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
パ	三、二八四	五、七八〇	五、四三〇	六、一七五	一、九七六
マ	七、五四七	二、八五、四八三	八、二、三二五	八、二、五七二	九、八、八〇〇
ビ	二、五五六	三、六、五一六	四、四、〇九〇	四、一、九九〇	七、四、一〇〇
セ	二、三七一	一、三、三二〇	一、二、三、五〇〇	七、四、一〇〇	六、一、七、五〇〇
リ	一、七八、八二八	一、三、九、八一	一、三、五、八五〇	二、四、七、〇〇〇	三、四、五、八〇〇
ド	二、一、四二〇	二、三、七、三三〇	二、〇、九、九五〇	三、七、〇、五〇〇	四、四、四、六〇〇
パ	二、九六、四〇〇	二、四、八、二七二	二、九、六、四〇〇	一、六、五、四九〇	一、四、八、二〇〇
ア	一、三〇、九一〇	八、一、八四六	一、三、一、〇九五	一、六、四、七四九	七、四、一〇〇
セ	六、七、三六四	八、四、二〇二	三、七、七八八	一、二、三、五〇〇	一、七、二、九〇〇
ベ	四、九、四〇〇	七、七、四一七	六、一、七、五〇〇	七、四、一〇〇	一、二、三、五〇〇
以	一、三〇五、六八九	一、三、八、六、九九八	一、一、七、七、〇八八	一、四、〇、五、七五一	二、一、一、九、二六〇
リ	一、四、八、二〇〇	四、〇、九、八二	一、三、六、六二	六、〇、七、六二	

サンパウロ	五二、二〇六	一一一、一二四	二二七、九九八	四三七、九八〇	八五九、五六〇
ミナス、セラエス	六〇、〇二一	一〇五、八五七	一一六、四四一	一二五、七二三	二一七、三六〇
其他	二、四七〇	四、二三三	—	七、六五七	三五、七八五
以上南部	一二九、五一七	二七二、一九六	三五八、一〇一	六三二、一二二	一一一、七〇五
總計	一、四三五、二〇六	一、六五九、一九四	一、五三五、一八九	二、〇三七、八七三	三、二三一、九六五

伯國棉產額 (正味一八〇疋俵)

パラー	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
マラニオン	一九、五〇〇俵	一一、一〇〇俵	一〇、〇〇〇俵	一三、三〇〇俵	六、九〇〇俵
ピアウイ	六七、八〇〇	七六、八〇〇	四二、六〇〇	五八、三〇〇	四一、六〇〇
セアラ	九、三〇〇	一〇、五〇〇	八、五〇〇	一二、二〇〇	二七、八〇〇
リオ、グランデ、ドノルテ	七七、七〇〇	七七、七〇〇	一六、七〇〇	六一、一〇〇	一七七、六〇〇
バラライバ	五五、五〇〇	七九、三〇〇	三〇、五〇〇	九七、二〇〇	一三八、八〇〇
ペルナンブコ	九九、九〇〇	一二七、七〇〇	五〇、〇〇〇	一一九、五〇〇	二二二、〇〇〇
アラゴアス	七二、二〇〇	八三、三〇〇	五〇、〇〇〇	八三、三〇〇	一六六、五〇〇
セルヂツペ	二四、五〇〇	三六、六〇〇	三四、四〇〇	五六、六〇〇	六六、六〇〇
ベイヤ	二〇、八〇〇	二二、九〇〇	九、九〇〇	三四、三〇〇	四五、八〇〇
以上北部	一九、四〇〇	一四、四〇〇	一九、四〇〇	二七、八〇〇	三三、三〇〇
リオ、デ、ジャネイロ	四六六、六〇〇	五四〇、三〇〇	二七二、〇〇〇	五六三、六〇〇	九二六、九〇〇
サンパウロ	一五、七〇〇	一〇、七〇〇	三、六〇〇	一一、一〇〇	—
	二一、八〇〇	四六、三〇〇	一一八、一〇〇	二〇一、六〇〇	五八二、八〇〇

ミナス、セラエス	二五、〇〇〇	二七、八〇〇	三〇、五〇〇	六一、一〇〇	四四、四〇〇
其他	八〇〇	九〇〇	—	二、二〇〇	二六、一〇〇
以上南部	六三、三〇〇	八五、七〇〇	一五二、二〇〇	二七六、〇〇〇	六五三、三〇〇
總計	五二九、九〇〇	六二六、〇〇〇	四二四、二〇〇	八三九、六〇〇	一、五八〇、二〇〇

第二節 植付と收穫

南伯即サンパウロ、ミナスセラエス、パラナの諸州に於ては大體九月より十一月の間に植付け翌年四月より六月迄に收穫し、北伯諸州は一月より六月頃迄に植付け收穫は七月末より翌年一月頃迄に及んで居る。丁度南と北とによつて植付と收穫との時期が正反對になつて居る。之は全く氣候的關係によるもので殊に降雨に付ては南伯に於ては播種期の九月より開花期の翌年三月にかけて雨量が多く收穫期の四月より降雨が少くなる。北伯に於ては此の雨期と乾期がより劇然と區分せられ大體に於て一年の前半が雨期で後半が乾期と云ふことが出来る。然も此の區分は海岸線を去つて奥地に入るに従つて明割となり所謂「セルトン」と呼ばれる木棉地帯では雨期に降つた水を貯めて置いて灌漑に供するのであるが、往々此の雨期に特に雨量の少ない年があり、時に此の状態が二年も續いて起ることがある。之が即ち北伯の大旱魃である。従來北伯のみを主産地とした伯國産棉が旱魃のため大凶作を來した例が少くないのは之がためである。

聯邦政府は大戦直後東北防旱工事局を作り北伯乾燥地帯に數個の大貯水池を作つて灌漑設備を施さんと企てたのであるが財政上の理由で未だ大規模のものは一も竣成せず僅かに小貯水池によつて旱魃に備へて居るのみである。

伯國に於ける棉花の栽培方法は何れも小規模且幼稚で改良農具の如きは未だ一部農事試験場にて試用せられて居るのみで一般農民は簡單なる耕作器具のみを利用し主として人手により耕作して居る。

最近特に著しい増加を見た南伯の棉花は主として原始林の伐採開墾によるもので其の方法は五、六月の頃に山伐りを行ひ伐り倒した雑木の枯れるのを待つて山焼きをなし、九、十月の交に整地植付を行ふのである。

舊産地に於ても施肥は一般に行はれず輪作法を實施することなく甚しきに至つては十年以上も連作せるものすらある状態である。随つて棉花は病蟲害に悩まされることも多い譯である。

今一つ伯國棉花の特異な點は北伯地方に於ける間作の習慣である。普通玉蜀黍、豆、マンジョカ、サボテン等と混植せられて居る。最近此の習慣も追々廢れて來たが未だ惰性で各所に混植の畑が見受けられる。

### 第三節 棉花の害蟲と其の驅除法

伯國の棉花に對する最大障害は北伯の旱魃と南伯の蟲害である。勿論北伯に於ても南伯同様病蟲被害はあるが氣候の關係で蟲害發生の時期には最早や棉樹が相當成長して居るために被害の程度が南伯の如く重大に至らないのである。南伯に於ても最近は豫防法が相當發達せる爲め致命的と云ふ譯ではない。

今伯國に於ける重なる害蟲を掲げると(一)ラルバ、プロツカ(根喰蟲)、(二)ラガルタ、ロザード(棉實に喰ひ入る蟲)、(三)クルケール(青蟲)の三種類である。

第一の「プロツカ」は最も恐るべき害蟲で此の幼蟲が棉樹の地際即ち主根の上部を蝕むために被害棉樹は發育不充充分となり遂には枯死するに至る。勿論棉樹が相當成長したる後に冒さるる場合には枯死する迄に至らず收穫量に

も大して影響がない。これが根本的の驅除法は未だ發見せられないが豫防驅除法として最も有效なるは收穫後棉樹を株ぐるみ引き抜いて焼き拂ふことである。聖州邦人棉作者の内には簡單なる器具を以て收穫後の株を全部引き抜き之が豫防に努めて居る。

第二の「ロザード」は單に收穫量に影響するのみならず棉花の品質を低下せしめる原因となつて居る。此の害蟲は棉花の種子の内に喰ひ入りボールの發育を阻止するもので被害を受けた棉花は直ちに汚染され毛筋も亦強力を失ふ。伯國棉花にスポットの多い原因の一は此の害蟲の被害である。幼蟲は棉實の内で越冬するからこれが豫防法としては種子を消毒して播種することが第一である。政府が配布する種子は此の理由により全部消毒されて居る。

第三の「クルケール」の蛾は棉葉の裏面に數百の卵を産みつけ産卵後五六日にして孵化して幼蟲は直ちに棉葉を喰ひ荒すのである。故に一度此の害蟲が現はれたときは即時適當なる驅除法を講ぜないと非常な被害を受けるのである。本年度聖州棉花が大不作に陥つた原因は全く此の「クルケール」の被害であつた。これが驅除法としては「ベルデパリス」が最良とせられて居る。農家は此溶液を噴霧器を以て二三回に互り散布し驅除に努めて居る。

## 第三章 國內消費と輸出

從來伯國産棉は主として國內消費に充てられ僅かに其の餘剩を海外に輸出するに過ぎなかつた。大掴みに云へば國內消費が八割、海外輸出が二割と云ふ見當であつた。國內消費は紡績事業の景氣如何により年によつて多少の不同は免れなかつたが近年は大體に於て漸増の傾向で最近二三年は五六十萬俵を消費し、輸出の方は豊凶により年々著しい増減を示し、一九二九年度の如きは二十七萬俵も輸出したが一九三二年度は僅かに二千九百俵に過ぎなかつ

た。それが昨年度に至り俄然七十萬俵を輸出し一躍輸出商品中珈琲に次ぐ重要商品となつたのである。

### 第一節 伯國に於ける紡績業と原棉消費量

本年六月に於ける調査によれば現在伯國に於ける綿絲紡績の總錘數は下記の通り二百五十餘萬錘、織機臺數八萬一千臺であつて其の内約七十五パーセントは南部諸州にあり就中リオデジャネイロ市並に聖市の兩市附近が最も殷盛を極めて居る。之は一は消費地に近いのと他方動力の供給が容易なためである。

南部に於ける紡績業は一九一四年綿製品に對する保護關稅が制定せられて以來著しい發展を見たが棉作の増加はこれに伴はず隨つて近年迄は南部紡績は北伯棉花の最大需要者であり北伯は南部工業支持のための農業地域となつて居たのである。

然るに今や狀況は一變して南部棉作の急速なる膨脹は遂に南部紡績の所要額の二倍以上を産出するに至つた。伯國全體として見るときは彼の一九二八年より一九三一年に互る財界不況のために伯國綿工業も極度の不振に憫まされたが其後追々順調に向ひ原料消費額も昨年度は六十九萬俵に及ぶ盛況を呈した。他方棉花の生産増加は國內消費の増加を遙かに超へ現狀を以て進むときは全棉産額の約三分の二を輸出に向けねばならぬ状態となつた。伯國産棉は正に國內商品より國際商品に進んだものと云ふことが出来る。

過去五ヶ年間の全國原棉消費量並に現在の州別紡績錘數は左の通りである。

#### 伯國內棉花消費額

一九三〇年	三七四、六〇〇俵	一九三一年	四〇二、四〇〇俵
-------	----------	-------	----------

一九三二年	四六七、三〇〇俵	一九三三年	五〇五、六〇〇俵
一九三四年	六九三、八〇〇俵		

#### 全伯紡績工場數及錘數織機臺數 (一九三五年伯國政府調査)

工場數	錘數	織機臺數	工場數	錘數	織機臺數	
マラニオン	九	七六、二〇四	二、三六五	ピアウイ	一	二、五五六
セアラ	一一	二四、二七二	七二四	リオグランデ、 ド、ノルテ	一	七〇四
パライバ	七	五六、六三四	二、一六九	ベルナンブコ	一五	一二七、四九六
アラゴアス	一一	一一三、九〇六	三、三五二	セルヂツベ	一三	七九、九五〇
バイヤ	一〇	八五、六四四	四、一三五	エスピリ、サント	二	八、七三六
エストアド、 リオ	二六	二五四、一〇六	七、九五二	聯邦直轄州	二二	六三八、四七二
ミナス、セラエス	六二	二四五、六九一	七、九四九	サン、パウロ	一一三	八一四、四五〇
パラナ	一	—	三四	サンタ、カタリナ	一九	一八、〇二〇
リオグランデ、 サル	三	二九、四七二	八三一	總計	三二六	二、五七六、三三三
						八一、四九三

### 第二節 棉花の輸出

過去十ヶ年間の伯國棉花輸出高並に一九三四年度の仕向地別輸出高は下記の通りである。

伯國棉花輸出高 (正味一八〇担俵)	一九二五年	一七〇、〇〇〇俵	一九二六年	一九二、六〇〇俵	一九二七年	六六、一〇〇俵
-------------------	-------	----------	-------	----------	-------	---------

一九二八年	五五、六〇〇俵	一九二九年	二七〇、四〇〇俵	一九三〇年	一六八、八〇〇俵
一九三一年	一一五、三〇〇俵	一九三二年	二、九〇〇俵	一九三三年	六四、九〇〇俵
一九三四年	七〇二、三〇〇俵				

伯國棉仕向地別輸出高 (一九三四年一月ヨリ同十一月迄)

獨逸	八二、三〇〇俵	瑞典	三〇〇俵	ポルトガル	三三、五〇〇俵
ポーランド	一、二〇〇	伊太利	一九、八〇〇	日本	九、四〇〇
印度	三〇〇	和蘭	二五、九〇〇	スペイン	六〇〇
英國	三四三、五〇〇	佛蘭	五五、三〇〇	フィンランド	二〇〇
北米	一〇	デンマーク	五〇	ブルガリア	一〇〇
ベルギー	三八、八〇〇	エストニア	二〇〇	ノールウェイ	五〇〇
總計	六一一、九六〇				

從來の仕向地としては英國が常に六割乃至八割を占め其他は葡、佛、獨、蘭等に分送せられて居たのであるが昨年より本年初めにかけては伯國棉の買付は恰も獨逸が獨占せるかの觀があつた。これは獨逸が爲替資金の關係と「バーター、シムテム」により米棉代用として伯國棉を法外の高値で買付けたためで、これは單なる一時的現象に過ぎない。

輸出港としては北伯に於ては、カペデーロ、ホルタレザ、ナタール、レシフェ等が主要輸出港で南伯に於ては、サントスが一頭地を抜き昨年度の輸出數量は伯國第一位となつた。これは聖州に於ける棉作増加に基くものである。伯國には棉花の輸出税と云ふものはないが、サン、パウロ州を除く他の諸州では全部棉花を州外に積み出す場合

に移出税として従價五、六分より一割二、三分程度の税金を賦課して居る。そして此移出税は輸出に際しても拂戻されないから結局輸出税の賦課と同様の結果となり、棉花の對外競争力を弱めて居る。移出税のないサン、パウロ州でも尙輸出に際し噸(千疋)當り十六、七ミルの通關手数料を要する。この點は將來棉花の輸出によつて國家の繁榮を企圖して居る伯國として誠に矛盾した政策であるから、吾々滯伯中政府當局に之が撤廢方を進言したる所當局も成る可く早く撤廢し度き意嚮であることであつた。尙北伯諸州では棉花を他州の港より輸出する場合には自州の移出税以外に更に積出港に於て二パーセント程度の印紙税が課せらるるから各州共努めて自州の港より輸出せんとし、隨つて南伯聖市及サントス港の如き棉花の大集散地大輸出港なるものが出來ず各州各自輸出港を擁し互に相對峙して居る現状である。

#### 第四章 棉花の品質

伯國棉の種類は之を學術的に見る時は、其の數甚だ多數に及ぶべきも商業的實際的に之を分類するときは木棉即ブラチル固有種と草棉即輸入種との二つに大別することが出来る。

木棉は一般に「モッコ」種と呼ばれ埃及棉や「シーアイランド」種の本と稱せられ北伯奧地に産し毛筋<sup>1)</sup>乃至<sup>1)</sup>に達する長毛筋のものであり草棉は米棉「アップランド」種の氣候風土に馴化したるもので南伯並に北伯海岸地帯に産し、毛筋<sup>2)</sup>より<sup>1)</sup>程度のものである。勿論細別すれば木棉も草棉も各産地毎に更に數種に分れて居る。そして從來の伯國棉は之等各種の棉種が雜然として耕作せられた爲めに品質に大なる不同を生じ其の上收穫繰棉方法の不法意等が加つて海外市場は勿論國內市場に於ても不評判を招いたのであるが最近政府當局の熱心なる品質改良運動と棉作者

の自覺により追々改良せられんとしつつあるのは前述の通りである。

### 第一節 北伯棉の品質

北伯棉を商業上より分類すると、「マツタ」、「セルトン」、「セリドー」の三種に大別することが出来る、マツタ種は米棉アップランド種に屬する一年生草棉で海岸線に近い地域に栽培せられて居る。目下の主産地は、バライバ州のインガを中心として南北に亘る地帯である。「グレード」は南伯棉に比して稍優良であるが、毛筋一般に短く大體八分の七吋より一吋程度である。「セルトン」は早魁の意味で北伯奥地に産する木棉で毛筋一吋三十二分一乃至一吋八分一のものである、木棉の樹齡は十五年乃至長きは二三十年に及ぶものもあるも植付初年は收穫皆無で二年目より多少收穫あり五六年目が最高にて爾後又收穫量漸減する。従つて經濟的樹齡は五六年と云ふことが出来る。注意深き棉作者は五六年に一度棉樹を根元より切り拂つて新芽を出す様にして居る。「セリドー」は「セルトン」の優良種であつて毛筋一吋八分の一以上の長毛筋のもので最高百二十番手位まで紡出することが出来る。北大河州が主産地で他州にも少量産出するが、「セリドー」と「セルトン」との區別は事實上頗る困難で北伯商人は毛筋長きものは全部「セリドー」と稱する風がある。

木棉品質上の最大の缺點は長纖維のもの程「グレード」が低いことである、草棉と木棉の比率は昨今草棉四割、木棉六割位と見られて居る。

### 第二節 聖州に於ける棉種統一と其の品質

聖州に於ては一九三一年以降州内産棉の棉種統一の爲め州政府が種子配布を管理し政府拂下げ以外の種子の播種を嚴禁した。現在政府の配布せる棉種は「カンピナス」農事試験場にて撰出の「テキサス、ビッグ、ボール」(普通テキサスと呼ぶ)及び「エキस्पレス」の二種で配布の割合は目下約半々である。兩者の特質を略述すると、テキサス種は稍晩生種で棉樹の成長よく實棉收穫量は「エキस्पレス」種に比し多少多きも繰棉歩留りは三十一パーセントにて毛筋二十七耗乃至二十八耗である。「エキस्पレス」種は早生種で實棉收穫量は稍少きも繰棉歩留りは平均三十二パーセントにて毛筋二十八耗乃至二十九耗である。兩者何れを選ぶべきやは栽培地の地質により判断すべきもので政府は試験場の結果に基いて配布の方針を決定して居る。尙目下試験中のものに「ピラチニンガ」種とて三十耗乃至三十二耗の中毛筋ものがあり今後一兩年の内に種子配布の運びに至ることである。

之によつて現在聖州に於ける栽培棉種は完全に統制せられ混植の弊は一掃せられた譯で棉種改良上の一大事蹟と言ひ得べく海外各棉産國が幾度も計畫獎勵して未だ成し得ない所を聖州政府が成し遂げたのである。他州に於ては未だ實施の運びに至らないが聖州の成功に鑑み順次之に倣はんとする機運にある。此の際一步を進めて聯邦政府の手に於て全國の棉種を統轄することとならば伯國棉の品質は更に改善を見るであらう。

### 第三節 伯國棉の缺點

舊棉産地帯たる北伯地方は新棉産地帯たる南伯に比して比較的文化的程度低く住氏又遊惰性を帯び棉作の歴史古きに拘はらず品質の改良は捗々しく運ばない。又南伯棉作者の大部分は最近轉作して來たものであるから棉花に對する經驗が浅い。こんな譯で南北ともに農民自身に商品としての棉花の智識が殆どなく、之を取扱ふ商人も亦國際



商品としての觀念を缺き政府の棉作指導も主として耕作技術上の指導に止まり商品的取扱に付ては未だ不充分の點が多い。斯くして伯國棉の品質は取扱上の不注意と制度慣習上の缺陷とに因り當然得らるべき品位よりも遙かに低いものとなつて居る。

現在伯國棉の最大の缺點は

(一)一般に「グレード」が下級であること。

(二)「ラフ、ジンニング」にしてネツプが多いこと。

(三)毛筋が不揃ひなることであるが、其の原因を調べて見ると、第一の「グレード」の低い原因の一つは開架後の棉花を長期間雨露に曝して置くためである。普通棉花の摘採は三四回に亘つて行はれるものであるが伯國では勞力が不足のために二回位より摘採せぬ所が多々ある様である。之が伯國産棉の色合を悪くする最大の原因で北伯地方の如き收穫期に降雨少き地方はまだしもであるが收穫期に屢降雨を見る南伯地方に於ては特に此の弊害が著しい。尙ほ收穫に際し不熟棉、汚損棉、虫害棉等を撰別することなく中には地上に落下したるものをも良棉に混するが爲めに繰棉に夾雜物並に「スポット」が多くなり著しく全體の品位を下げ居る。

第二の「ラフ、ジンニング」の原因は「ウェット、コットン」の繰棉繰棉機の不良及び繰棉操作の拙劣に起因する。丁度收穫期にあつた南伯棉の産地實況視察に於て特に感じたことは繰棉工場にある實棉の大部分が多少の濕氣を含み甚だしきは手に觸れて直ちに水分を感じるものすらあつたことである。之は故意又は勞力不足の爲め雨後或は早朝棉花が多分の濕氣を帶べる際に摘採し乾燥せずして繰棉工場に持ち來たされる爲めである。斯る棉花が「ラフ、ジンニング」となるは自明のことである。北伯地方は時期の關係上收穫の實際を見ることが出来なかつたが大部分の

繰棉工場が「プリミティブ」な然も古い繰棉機を使用して居るのを見てこれではネツプの多いのも當然だと思つた次第である。

第三の毛筋不同の點に付ては、南伯棉は棉種統一の結果改良の跡、著しきものがあるが、北伯に至つては尙ほ雜種の混合せらるる場合多く草棉地帯と木棉地帯との境界線に於ては兩者が混合せらるることも少なくないといいた。之を要するに伯國の耕作者はしめ取扱業者の棉花に關する智識が今少し進歩し、一般が良品獲得に注意を拂ふ様になれば現在の平均品位は著しく向上するに相違ない。

## 第五章 聯邦政府の棉花格付規定

伯國の棉花格付制度は一九二五年に始めて出來たのであるが、現行の棉花検査並に格付に關する規定は一九三三年八月十五日附を以て發布せられたのである。而して現行規定には「グレード」に關する格付と毛筋に關する格付とがあり格付證明書を添付せざる棉花の移輸出は之を禁止して居る。

### 第一節 「グレード」に關する格付

「グレード」に付ては夾雜物の多寡、色澤、繰棉法の良否により五つの標準等級を設けて之が標準見本を置いて居る。標準見本は更に白色棉と變色棉とに分ち、前者は南伯並に北伯の一年生草棉に適用し、後者は北伯木棉種に適用して居る。詳言せば第一級(スベリオール)第三級(ボン)第五級(コンマン)第七級(ソフリベル)第九級(オーデナリオ)を以て基礎標準となし若し右分類に該當し難き場合には更に貳、四、六、八等の中間等級に格付し九級以下

を格外と規定して居る。今之を米棉「ユニバーサル、スタンダード」と對照すれば大凡下記の通りである。

伯國標準

米棉ユニバーサル、スタンダード

- 第一級 (スベリオール) …………… ストリクト、グツド、ミツドリリング
- 第三級 (ボン) …………… ミツドリリング
- 第五級 (コンマン) …………… ストリクト、ロー、ミツドリリング
- 第七級 (ソフリベル) …………… ストリクト、グツド、オーデイナリイ
- 第九級 (オーデイナリオ) …………… グツド、オーデイナリイより稍劣る

聯邦政府の標準の外に聖市商品取引所に於ては又別に同様の標準見本を作つて格付して居る。然して聯邦政府の標準と聖市取引所の標準とを比較すると各等級とも取引所の方が約半格程格上である。

第二節 毛筋に關する格付

毛筋に對しては米棉の如く實際の標準見本は作つて居ないが、纖維の長さに従つて三級に分類して居る、即ち一級品又は短纖維とは二十二耗乃至二十八耗の纖維を有するもの、第二級品又は中纖維とは二十八耗乃至三十四耗の毛筋を有するもの、第三級又は長纖維とは三十四耗以上の纖維を有するものと規定せられて居る。而して纖維の呼稱は普通二耗を以て單位とし、二十二耗乃至二十四耗又は二十八耗乃至三十耗と呼び均齊なる毛筋に對しては單に二十八耗又は三十四耗と言ふ風に呼んで居る。

伯國政府の一九三四年度棉花實際格付依數一、一六七、六二八依に對する等級別明細の百分率は左の通りである。

(a) 等級別百分率		(b) 毛筋別百分率	
一級	二級	三級	四級
五級	六級	七級	八級
九級	格外		
歩合 〇・五四	二・二五	一七・八二	二八・〇〇
	二六・六一	一四・〇〇	七・〇九
	一・八三	〇・九一	〇・九〇
耗 二二以上	二二・二四	二四・二六	二六・二八
	二八・三〇	三〇・三二	三二・三四
	三四・三六	三六・三八	格 外
歩合 〇・五二	一・二六	一五・四五	二六・九〇
	二五・九一	一三・〇五	一三・五〇
	二・八〇		〇・五六

第三節 聖州政府の實棉格付規定

聖州に於ては繰棉格付の外に別に實棉格付規定なるものを設け下記の通り上、中、下の三等級に區分して繰棉することとして居る。

- 一、上等棉 繰棉後の品質が第一、第二、第三級に相當するもの、
- 二、中等棉 繰棉後の品質が第四、第五、第六級に相當するもの、
- 三、下等棉 繰棉後の品質が第七、第八、第九級に相當するもの、

而して右實棉格付は州内各繰棉工場に各一人宛の農務省棉花局部員を駐在せしめて之に當らしめて居る。制度としては機宜を得たるものかと思ふが、實際此の格付區分は實棉が農民の手を離れて繰棉工場に入りたる後に於て行はれて居るため、直接棉作者をして良品を産出せしむる爲めの刺戟とはならず實棉格付本來の効果を半減せしめて居る感がある。

第四節 格付制度の缺陷

格付制度が伯國産棉の品質改善に多大の効果をもたらしたことは云ふ迄もないが、元來本規定は伯國棉が未だ國內商品の域を脱しなかつた當時に制定せられたるものであるから、國際商品となつた今日の伯國棉に對する規定としては不備缺陷を免れない。第一に「グレード」に對する格付に聯邦政府の標準と聖市取引所の標準とを並立せしめて居ることは、徒に繁雜を來す所以で、却て伯國棉の需要者を困らせて居る。聖市取引所の格付は聖州内の取引に對してのみ有効で輸移出の場合には聯邦政府の格付によるとの建前ではあるが實際には輸移出品に對しても取引所の格付が默認せられて居る状態だから之は是非とも何れか一つに統一することが必要である。次に毛筋に對する格付は餘りに粗大且杜撰で毛筋に對する評價が愈細密となつた今日に於ては、斯の如き制度は全然取引の實際に適せない。

思ふに伯國棉の大部分は米棉と略類似の品質を有し海外需要者も亦主として米棉の代用として買付けるものであるから、此の際伯國棉の格付規定を改正して、「グレード」に付ては米棉に對して世界各國が認めつつある「ユニバーサル、スタンダード」を採用し毛筋に對しても亦米棉「オフィシャル、スタンダード」に準據するならば國際取引上に多大の便宜を與へ、引いては伯國棉の需要を更に増大する所以ともなることと思ふ。

## 第六章 繰棉と荷造

### 第一節 繰棉工場並ニ繰棉方法

繰棉方法が棉花の品質に及ぼす影響の甚大なるは言を俟たず、何れの棉産國と雖繰棉技術に付ては種々研究を重

ねて居る所以である、殊に從來の伯國棉は繰棉方法の不良のために其の品位を低下せる所が多かつたので伯國政府は棉作奨勵と共に特に此の方面に意を注ぎ曩に全國繰棉工場を調査し、一々其の不備缺點を指摘し當業者の自發的研究と改善を促した結果、今や南伯聖州に於ては新式繰棉工場の設立年と共に増加し舊式繰棉機は或は廢止或は改良せられつつあるが、未だ北伯地方に於てはブリミティブのものが大部分を占めて居る。

昨年來北米棉花商社にして伯國に進出するもの益々増加し、中にも「アンダーソン、クレイトン」社の如き南北主要棉産地に數多の新式繰棉工場を設立し、或は又既存の繰棉工場を買収改善して大規模買付に従事せるものもある。此等外商の活躍は自然内地の繰棉業者を刺戟し、其の改良進歩を一段と早からしむることと思ふ。本年五月の調査によれば現存の繰棉工場は下記の通りで、尙續々新設の計畫がある。

州 別	繰棉工場數	繰棉機臺數	州 別	繰棉工場數	繰棉機臺數
パ ラ ー	一九	二二	マ ラ ニ オン	一一二	一一二
ビ ア ウ イ	三〇	四七	セ ア ラ	二〇五	二四一
リ オ グ ラ ン デ ド ノ ル テ	二九八	二九八	パ ラ イ バ	八五三	八四九
ベ ル ナ ン プ ロ	四四一	四九四	ア ラ ゴ ア ス	八二	一〇三
セ ル チ ッ ペ	八〇	八一	パ イ ヤ	一八三	一八五
北 伯 小 計	二、三〇三	二、四三二	ミ ナ セ ラ エ ス	七五	八五
サ ン バ ウ ロ	二〇五	四一四	パ ラ ナ	八	二一
南 伯 小 計	二八八	五二〇	總 計	二、五九一	二、九五二
					三、八六四

新式の鋸式繰棉機は普通一臺八十鋸の機械を三臺若しくは四臺連續して之に壓搾器を附屬せしめるのであるが、

右表に依り明かなる如く、南伯殊に聖州に於ては一繰棉工場の平均所有臺数は約二臺にて繰棉機一臺當り鋸の数は七十鋸となつて居るが、北伯に於ては一繰棉工場は僅に平均一臺にて然も平均四十鋸以下の小繰棉機が多數を占めて居る。以て如何に北伯に舊式繰棉機の多いかを窺ひ知ることが出来よう。

今繰棉機の能率を一鋸一時間三疋とし一日十時間運轉するものと假定すれば（最盛期には二十時間位運轉す）一鋸一日の繰棉能率三十疋となり收穫期に於て全國十二萬八千の繰棉機を百日間運轉せしめるときは、三十八萬四千噸の繰棉能力あり、現在の産額に對して繰棉機の数は計算上に於ては不足して居らぬと言ふことは出来るが數十年來録々手入れもして居ない舊式幼稚なる繰棉機にして廢棄を要するものが多數あるから、今後新式繰棉工場がドシドシ建設せられることと思ふ。

繰棉技術の内棉花の品質と最重大なる關係を有するは回轉速度並にシード、ロールの調節方法である。聖州に於ては繰棉機の回轉數を三百五十回乃至四百回とすべしとの規定を作つて居るが、果して實行せられて居るや疑問なきにあらず、殊に繰棉技術は棉花の品質に應じて臨機調節すべきものであるから當業者の自覺と經驗によるに非れば實際の効果を擧ぐることに困難と思ふ。

尙現在伯國に於て使用せる繰棉機は全部鋸式繰棉機であるが、北伯木棉の内長毛筋ものに付てはローラージンを使用する方が適當でないか、研究の餘地があると思ふ。

## 第二節 荷造状態

從來伯國棉の依裝は各ジン及プレス工場により容積及重量を異にし、取引上多大の不便あるのみならず海陸運賃

の負擔を多からしむる原因となつて居たが、最近荷造規格統制の機運到り、聖州に於ては一九三四年二月二十二日附法令を以て容積に付ては梱の高さ最大限度一、二米突最小一米突幅最大六十浬最小四十浬、重量に付ては最大貳百疋最小百五十疋と規定し違反者に對して五百ミル乃至一コントの罰金を課すこととした。勿論本規定は次年度産棉より實施せられるのであつて、之が勵行せられるれば從來の不體裁なる依裝は影を沒することと思ふが、右規定には厚さに對する規格がないから完全なる統一は期待することが出来ない。最近州内繰棉工場にて舊式プレス機を有する向は右規格に適合する様追々改造しつつあり他方内地鐵道運賃の關係等も加はつて從來に比し、改善の跡顯著なるものがある。殊に海外輸出向の依に對しては聖市に「リー、プレス」の工場も出来て居て大體小なるものは拾才大なるものも拾六才を超ゆるもの少く重量は正味百八十疋を標準として立派な荷造をやつて居る。

北伯に於ては荷造は未だ南部の如き統一なく重量も産地により百五十疋、百七十疋、百八十疋等種々であるが輸移出依に對する依裝は普通印度棉の依裝と略々同様の程度に「リー、プレス」をなして居る。隨つて才數も九才半乃至十一才位までのものが多い。

## 第七章 棉花の取引状況

棉花の取引は之を産地に於ける買付と集散地に於ける取引とに區別して考察せねばならぬ。前者は生産者よりの實棉買付で後者は取引所内並商人間に於ける繰棉の賣買である。伯國棉花の取引で特に他國と事情を異にせるは前者即ち産地に於ける實棉買付の方法であるから茲では主として之に付て述べることにする。

## 第一節 奥地實棉賣買に付て

棉花の生産地帯には地方仲買人なるものがあつて直接生産者より實棉買付に當つて居るが此等の仲買人は何れも繰棉業者と連絡をとつて活動せるものであるから實質的には地方繰棉業者が産地に於ける棉花買付人と見ることが出来る。

産地實棉買付に就ての特徴は青田貸の制度である。伯國棉作者の大部分は繰棉業者又は地方仲買人より耕作資金前貸を受けて居るので甚だしきものは種子代より耕作準備資金迄悉く前借りして居る。

普通棉花の青田貸は棉作者の信用状態並に棉花の發育状況を参照し、三四回に分割して豫想棉花相場の三十パーセント程度を貸付け收穫棉は必ず貸付人に賣却すると言ふ契約の下に融通するのである。返済は普通實棉を時價にて譲渡したる時、其代金中より決済せらるるのであるが中には收穫前に値段を仕切る所謂青田賣を實行する場合もある。何れの場合を問はず前貸金に對しては相當高率の金利が付けられ月一步乃至月一分二厘が普通と言はれて居る。

移民を以て棉作者の主體とせる伯國に於て此の前貸制度が起つたのは誠に當然の道程ではあるが前貸制度の弊害は生産品の賣捌に當り耕作者を不利の地位に陥れるのみならず延いては農民の經濟的獨立を妨げ農村の健全なる發展を阻害するものであるから適當なる農業金融機關の設立、農民信用組合の組織等によつて此の實情を改むる必要がある。

實棉賣買に今一つ悪い習慣があるのは商人が農家から實棉を買付けるに際し品質の如何に拘はらず同一價格を以て買付け品質に應じて買値に差等を付けることをしないことである。伯國産棉の品質向上に最大の障害となつて居るものは實に此の實棉買付値段の均一制で、此の陋習あるが爲めに棉作者は進んで優良品を産出せんと努力せず收穫上にも適當なる注意を拂はざるのみならず故意に劣等品を混じ、又は實棉の重量を増す手段として雨後に摘採せんとするのである。此のことが伯國棉の最大缺點の一たるラフ、ジンニングの原因であることは前述の通りで良品に對してはそれに相應する報酬を得せしむるに非れば如何なる制度も規定も實際的に効果を擧ぐる事は困難である。

## 第二節 集散地に於ける取引

伯國に於ける棉花の定期取引所としては聖市に於ける商品取引所があるのみで、近き將來に於て首都リオ市にも棉花取引所が設立せらるる豫定と聞くが、現在集散地に於ける取引としては商人間の現物取引が主たるもので取引所に於ける先物取引は未だ頗る微々たる状態であるが、茲に一言したきは聖市取引所に於ける定期取引は十五冠建標準等級を五級品とし、各等級間の格差を一率に一ミル五百レースと限定し十數年來變更せざる實情の存することである。格差は需給の原則に従ひ、時々變化すべきものなるに標準相場を作るべき取引所が如斯實際市場格差を無視して一定不變のままに据へ置くことは取引所の機能を害するらのみならず實際市場に悪影響を及ぼすものと言はねばならぬ。

## 第八章 棉花の生産費

凡そ農産物は云ふまでもなく、天候土壤等自然的條件に支配せらるること多く、且又農民各個の耕作方法も千姿

萬容であるから、之に對して一率適正なる生産費を見出さんとするは頗る困難で多くは推定的のものたらざるを得ない。殊に伯國の如き未だ統計資料の正確を期し難い所に於ては更に至難のことで斯る企は寧ろ大膽なりとさへ云はねばならぬが棉作の將來を豫測する上に於ては是非とも闡明しなければならぬ問題である。

一英反當り棉花の産額は前述の通り自然的並に人為的事情により年々大差あるを免れぬが聖州にて實地調査したる所によると畑によつては一アルケールに付最高三百五十アローバの實棉收穫を擧げ得るが全體の平均としては實棉百五十アローバを以て平作と見るべく此線棉歩留を實棉の三分の一と概算して英反當りに換算すると一英反約二百九十五封度の線棉收穫率となるのである。併しながら伯國政府發表の一九三四年度の棉花統計により各州別收穫率を英反當りに換算掲出すると左の通りで伯國全體としては百九十四封度で南伯平均は二百三十三封度、北伯に至つては百七十三封度に過ぎぬこととなつて居る。

州名	英反當り收穫率	州名	英反當り收穫率
パラニオン	一三九封度	バイヤ	一〇七封度
マラニオン	一六七	北伯平均	一七三
ピアウイ	一四八	サンパウロ	二七六
セアラ	一一四	パラナ	二九二
リオグランデノルテ	一五九	ミナスセラエス	八一
バライバ	一九八	其他	一八二
ベルナンブコ	四四五	南伯平均	二三三
アラゴアス	三五六	伯國全體	一九四
セルヂッペ	一〇五		

故に聖州産棉の收穫率を二百九十五封度と見積るのは一見過大の如くに見ゆるが、一體伯國の統計數字なるものは前に述べた如く未だ信頼するに足らぬので、政府の棉花統計と雖北米に於けるが如く收穫豫想に對する制度機關整はず、例へば植付反別の如きも配布種子の分量により算出し、收穫豫想も只平作を南伯二百三十八封度、北伯百四十八封度と假定して當時の天候状態により加減して居るだけで、作付反別にも廢棄反別を考慮せず、又實收高と雖線上實數を基礎として居ないと云ふ状態だから、收穫率も斯る政府の統計によるよりは、寧ろ直接棉作者について實地調査したものの方が實際に近いものと信じたので、吾々は吾々自らの實地調査に基き一英反當りを二百九十五封度と推定して生産費を算出せんとするのである。

而して聖州の單位面積一アルケールの棉作に何程の費用を要するかと云ふに、農家により、場所により、又年により常に大巾に變動するものであるから一概に判斷を下し難いが、吾人は大體平均千五百ミルと見積るのを妥當と思ふ。而して之を費目別に計上すれば左の通りである。

借地料	山伐開墾費(山焼き後片付けを含む)	三五〇ミル
植付準備耕作	殺蟻費用	一〇〇
種子代	植付並除草費	三〇〇
殺蟲費用	收穫費用	三七五
運送費	袋代(借り賃)	五〇
合計		一、七〇〇

右は處女地を開墾して作る場合で二年目からは山伐り費用の三百五十ミルが不要となる譯であり且又棉作地の全部が新地開墾によるものでもないから兩者の中間をとつて生産費を千五百ミルと見積つた次第である。

平均收穫率を前記の通り百五十アローバと假定すると一アローバ當りの實棉生産費は十ミルとなる。普通一般にはアローバ當りの生産費は六ミル乃至八ミルと云はれて居るがそれは平均收穫率によらずして或年の實際收穫率の二百アローバ乃至三百アローバから割出したものであるから平均としては十ミルと見るのが寧真相に近いものとする。

そこで繰棉歩留りを實棉の三分の一と概算し繰棉賃を棉實代と引替へと假定し對米爲替を十八ミルとして計算すると繰棉一封度當りの生産費は米貨五仙〇五となる。

北伯地方の平均收穫率は南伯に比しては少いが文化の程度が低い關係で農業労働賃が安く、南伯の日傭日給五ミル乃至六ミルに對し北伯は僅かに二ミル位であるから結局棉花の生産費は米貨四仙乃至五仙と見られて居る。故に大體伯國棉の生産費は大體米貨約五仙と見て大過ないものと思ふ。

### 第九章 鐵道運賃並に海上運賃

伯國に於ける鐵道總延長は三萬二千軒で其内約三分の二以上は南伯諸州にあり、廣袤八百五十萬平方軒の面積に對して鐵道網の發達不充なることが勞力の不足と共に諸産業の發展に一大障害となつて居ることは否めぬ事實である。殊に伯國産棉にとつては奥地鐵道運賃の高率なることが價格上對外競争力を殺ぐ一大原因となつて居る。

伯國の鐵道は國營、州營並に私營のものがあり各線によつて各々賃率を異にせるため其間一定の標準を看出すことは困難であるが左にブラジル拓殖組合の調査にかかる南伯聖州内の主要線の本年三月十六日に協定したる新運賃率を見て一般を窺ふこととする。

鐵道名	輸送距離	一立方米に付		
		(イ) 百五十軒まで	(ロ) 三百九十九軒まで	(ハ) 五百四十九軒まで
サンパウロ線	一〇〇軒	四一、一〇〇	三〇、〇〇〇	二四、〇〇〇
パウリスダ線	一〇〇軒	四〇、〇〇〇	三七、五〇〇	三四、〇〇〇
	三〇〇軒	一〇八、〇〇〇	七一、三〇〇	五七、〇〇〇
ソロカバナ線	一〇〇軒	四八、〇〇〇	三二、〇〇〇	二一、〇〇〇
	三〇〇軒	一二九、六〇〇	七二、八〇〇	五〇、九〇〇
アララクアラ線	一〇〇軒	四〇、四〇〇	三二、三〇〇	二四、七〇〇
	三〇〇軒	一一七、〇〇〇	六八、六〇〇	六三、二〇〇
モヂアナ線	一〇〇軒	四八、七〇〇	四七、一〇〇	三七、七〇〇
	三〇〇軒	一三〇、二〇〇	九四、一〇〇	七五、三〇〇

目下の聖州産棉の奥地より來るものは大部分右賃率表(ロ)に適用せらるべき依裝のもので輸出港までの距離を假に三百軒平均と假定すると一噸當り運賃は約七十ミル乃至九十ミルとなり、相當高率と云はねばならぬ。併しながら新率は「デンシチー」により差違を設けて居るから今後棉花の依裝が改善せられ才數が小さくなれば、依當り運賃は相當低下することと思ふ。

尙鐵道運賃の外に伯國棉の輸出に際して必要な諸掛りとしては格付證明料、移出税又は通關手数料等特種の經費を要する。

次にサントス港より日本までの海上運賃に付ては現在の大阪商船の運賃表は左の通りで建値が容積噸によれる結果北米棉の輸入運賃に比し非常な割高となつて居る。

(イ)アンリカ經由	四十立方呎に付	米貨	三弗五十仙
(ロ)北米經由	四十立方呎に付	米貨	四弗七十仙

北米ガルフ諸港より日本迄の海上運賃は目下平均百封度に付二十六仙、即ち重量噸に換算すれば噸五弗七十二仙である。然るに伯國棉の海上運賃は容積噸によつて居るために、二俵半が一噸となり、重量噸一噸の換算運賃はアフリカ經由の場合は米貨七弗七十七仙、北米經由の場合は米貨十弗四十四仙に當り北米運賃の五弗七十二仙に比し前者は三割六分高、後者は八割二分高となる。之は將來荷造の改善と相俟ち米棉ガルフ運賃率と同率迄は低下さるべきものと思ふ。

## 第十章 結 論

棉作に對する必要條件としては自然的條件と人爲的條件とを考へねばならぬ、自然的條件即ち土地と氣候に就ては伯國は他國に比類なく恵まれたる國である、彼の廣大なる國土の内比較的溫度の低い南部の二州「リオグランデ、ド、サル」と「サンタ、カタリナ」を除いては北は「アマゾナス」州より南「バラナ」州に至る迄何れの州に於ても何程かの棉作が行はれ、棉作可能地としては無慮二億萬英反に及ぶとさへ云はれて居る、併し乍ら他方人爲的條件に於ては其處には直ちに棉作に最も問題となる勞働力の不足が横たはつて居る。更に又運輸交通等の不便もある爲め經濟的の耕作可能面積に至つては遙かに局限せられて來るのである。故に現況より推して見るときは眞にピアース氏が

豫想したる如く、サンフランシスコ河の流域地方が棉作地として世界的中心地となると云ふ如きこと、或は北伯早魁地帯に灌溉設備が完成せられて一大棉産地を現出すると云ふが如きことは之れを近い將來に期待することは出来ないが、ここ一兩年來百六七十萬俵の産額を擧ぐるに至つた伯國の棉作が果して繼續性のあるものなりや更に或は今後も五割十割と云ふ速度で増加し得るものなりやと云ふことが刻下の實際問題である。

久しく南伯農民を眩惑した珈琲熱即ち「緑の黄金」と云ふ思想が今日では棉花熱即ち「白い黄金」と變り北伯の原野を通ると到る所に「テキサス棉を植へよ」と云ふポスターが眼につき「棉作」は恰かも伯國に於ける産業復興の「モットー」の如き觀がある、元來伯國農民は移民氣質の常として少しでも有利な産業が看付かると先きを争つて其の方に走る癖がある。數年前迄五六十萬俵に過ぎなかつた棉産額が昨年の百五十八萬俵本年の百八十萬俵と信じ兼ねる様な急激なる増加を來たしたのにも一の作物より他の作物へと移り代り行くこの移民氣質が與つて大い力があつたと見ねばならぬ。つまり打ち續く棉花の高値により棉作が珈琲其の他の作物に比し有利となつたのである、故にその反面に於ては若し一度今日の棉價が下落するが如き場合には棉作も亦急激なる減少を來たし或は半減することもあり得るとの悲觀論もないではない、いや實際伯國內にも相當有力な悲觀論者もあるから最後の豫想を下す前に左に悲觀論者の重なる主張を紹介する。

### 一、地質學上より見たる伯國耕地の缺點

廣大なる原野を有する伯國としては棉作耕地に不足はないが現在世界の大棉産地は何れもミシシッピ、インドス、ナイル、黄河、揚子江等廣大なる沖積層地帯に發達したのであるが、伯國には現在豫定出来る棉作地帯には此條件に伴ふ左様に大河の流域として均質な地層が無く、多種多様な地質の「モザイク」地帯である、随つて如何に棉



種統一に努力するも品質均等なる棉花の商品的な生産は差當り困難と見ねばならぬ。

## 二、労働供給力の不足

古來棉花は「チープ、レーバー、クローズ」と呼ばれて居る、それは棉花の摘採に機械力の利用が困難で多數の労働者を要するからである、棉作増加は勞力の問題であり勞力不足の伯國にしかも移民を制限せる今日、現在以上に棉作に勞力を引き入れようとするには勢ひ賃銀の引上げをせねばならぬ、随つて棉花の生産費を高からしめ増産は經濟的に制限せらるゝであらう。

## 三、奥地運送賃の高き事

奥地鐵道運賃の高い伯國に於ては輸出港よりの距離が非常に重要な問題である、現在以上の棉作増加はより以上遠隔の地の開拓、随つて運賃の増加を意味し結局運賃が増産を不可能ならしめる。

## 四、農業界の變動

目下の棉作増加は既に伯國主要農産物たる珈琲、甘蔗、玉蜀黍、其他食用農産物生産に相當大なる打撃を與へつゝある、故にこれ以上増産を行はんとすれば現在の農業組織を破壊するか若しくは移民政策を根本的に解決せねばならぬ。

悲觀論の根據は大體右の如くであつて、要するに現在の伯國棉作は最早や増加の最大限度に到達せるもので今日以上の増産は上記諸理由により殆んど困難と見るべく今後は増加より寧ろ減少の可能性が多い、況んや北米減反政策に變更を見、棉價が下落するに至らば忽ち急激なる減少を見るべしと云ふのが悲觀論者の説である。

併しながら吾人を以て觀れば肥沃廣大なる伯國の産棉が一昨年迄僅かに世界總棉産額の三パーセントにも達しなかつたと云ふ事が抑も不思議である、勿論世界産棉の現状は近年供給超過となつて居るが伯國の棉作は海外棉産國の競争に打ち勝ち得る充分なる自然的條件を具備して居るので、當業者の自覺如何によつては其の前途は誠に洋々たるものがあるのである。

伯國の棉作が有する最大の強味は收穫率の高きこと並に生産費の低廉なることである、曩に南伯聖州に於ける平均收穫率は一英反當り二百九十五封度と述べた、之れを北米の平均收穫率の百八十封度に比較すれば如何に伯國が棉作に適せるかを知ることが出来る、しかも棉作者の大多數は棉作に經驗淺く且つ改良農具を有せず極めて幼稚なる耕作法によるものにて今後經驗と技術の進歩によつては尙一層收穫率を高める可能性がある、又伯國棉の平均生産費を一封度に付約五仙と推算したるは、一アルケール、當り棉作に要する約百二十人夫の労働賃を全部日傭勞働によるものとして計算したのである、されば自作、小作農民にとつては棉花がこの五仙にて賣却せらるゝときと雖も相當の収益がある譯で生産費に於ては北米に比し遙かに競争力が強いと云ふことが出来る、尤も内地運賃諸掛りの高率なることは幾分競争力を殺いて居るが此の點も今後産額の増加輸出の増進に連れて追々合理的に改善せられ得ることは前述の通りである。

果して然らば伯國棉作の運命は對外的事情よりも寧ろ對内的事情即ち棉作の收益率と他の農作物の收益率との比較關係によつて直接支配せらるゝものと見ねばならぬ。

之を歴史に徴するに、伯國の産業は砂糖、ココア、煙草、棉花、ゴム、珈琲と次から次へと現はれ又次から次へと海外の競争に打ち負かされて凋落したがそれは過去に於ける伯國が餘りに自然の天恵に頼り過ぎて自發的研究改良施設を怠つた爲めである、そして行き詰つた結果再生したのが今日の棉作であつて棉作は決して伯國にとり新

しい産業では無く、幾度となく消長を重ねた揚句、更生の意氣を以て勃興した産業であるから、今後と雖棉作が他作に比して有利なる場合には産額は増加すべく反對に棉作が他の農作物よりも不利となる場合には増加の趨勢は停止し或は多少の減少を見るに至るものと考へなければならぬ。

極めて大體の觀察に過ぎないが現今南伯に於ける珈琲園の「コロノ」として働く場合には三人の働手を有する一家族ならば普通、四アルケール、七千本の珈琲樹の手入れをなす事が出来る、然して手入賃、採取賃、並に餘暇利用の餘作、出稼賃を合算して年收三コント前後と見られて居る、若し此の家族が棉作に従事するならば五アルケールを耕作して平作、七百五十アローバの實棉收穫を擧ぐる事が出来（平作一アルケールに付百五十アローバと假定）、産地實棉價格が十五ミルの場合に於ては生産費十ミルを差引いて純益三コント、七百五十ミルを得る事が出来る。假りに實棉價格を十二ミルとすれば純益一コント、五百ミルとなる勘定であるが前述の通り棉花生産費の十ミルと云ふものは所要労働を全部日傭人夫によりたる計算であるから其の内三人家族にて労働賃の半分を省き得るとせば三百人役、一コント、五百ミル（一アルケール、百二十人役日給五ミルとして）が浮いて来る譯であるから實棉價格十二ミルのときに於ても尙珈琲園の労働収入と變らぬこととなる、本春産地實棉價格が二十ミル以上に暴騰を見たるは特別の事情によるものであるが、現地棉作者の實話によれば實棉價格が十ミル以上にさへ在るならば棉作は珈琲其の他何れの作物よりも有利で、栽培面積は増加の傾向を辿るだらうとのことである。

茲に於て吾人は多少の餘裕を見て伯國産棉の増減の境界點を産地實棉價格一アローバ、十二ミルに置かんとするので之を輸出港渡し繰棉一封度當り値段に換算すれば對米爲替十八ミルとして米貨約七仙五十が即ち増減の境界點である。

然らば産地實棉價格が十二ミル、以上の値段を維持するときは果して伯國産棉は何處迄増加し得るかと言ふに悲觀論者の言ふかの地質學的缺點とか交通の不便等は必ずしもしかく重大なる問題ではないと思ふ。殊に從來經濟的農耕區域とせられて居た鐵道沿線二十軒と言ふ觀念も最近貨物自動車の發達によつて四十軒に擴大せられて來て居る。唯限られたる労働力を如何程迄棉作に引き入れ得るかが問題なのである、此の點を考慮して吾人は現在の農業組織に大なる變動を與へずして増加し得る棉産額の「リミット」を大體現在産額の約二倍と推定する觀方が最も妥當なるものと思ふので即ち近き將來に於て今日の百六七十萬俵を三百萬俵程度に迄増加し得る可能性があると思ふのである。

次に産地實棉價格が十二ミル、以下に低落した場合には伯國棉花産額は悲觀論者の言ふが如く忽ち大減少を來すかと言ふに吾人は必ずしもそうは信じない。伯國が新らしき産業より他の新らしき産業へと轉々移り代り得たのは過去に於てのことで、現在の伯國としては凡ゆる産業は最早一應試驗済みである。そして棉作に代り得る有利なる産業は殆ど他に見當らない現狀である。

伯國政府もよく此邊の事情を認識し、珈琲事業と共に棉花栽培を以て國力發展の基をなす最大重要産業であると、農務省内に新に棉花局を設け之に附屬して中央棉花研究所を置き又サンパウロ州には完全なる農事試験所を設置して以て種子の改良配布を始め繰棉監督、荷造の取締り、官價格付検査に當らしむる等、中央、地方政府共大童の活動振りで本年五月にはサンパウロに棉業だけの博覽會が開設されて居た様な状態で棉花事業の指導獎勵は今や伯國の最重要國策となつて、官民共に本腰を据えて其遂行に當つて居るのであるから、過去の様にふら／＼と起つた産業ではない、從て産地渡し繰棉値段が米貨六仙を割る様な場合には産額は多少の減少を見ることがあるかも知れ



ないが、左様なことは今日世界の棉花市場の實情から推して、急にあらうとは考へ難いことであり、假令左様な場合があつても直ちに産額が四割も五割も激減することはあるまいと思ふのである。要するに伯國棉花産額は年の豊凶農家經濟の如何により變動は免れぬが大勢は相場が今日の儘であれば近い將來に三百萬俵位まで増加し産地渡し米貨六仙見當を彷徨する場合には大した増減なく之を割つた場合に於て始めて多少の減少を見ることとなるのであらう。

伯國內地の消費量を假に昨年同様六十萬俵餘とすると伯國産棉は今日に於て已に百萬俵以上の輸出餘力を有し今後の狀況如何によつては二百數十萬俵迄増加し得る可能性があるので伯國は今や世界の棉花供給國として一大勢力と云はねばならぬ。

世界第一の棉花輸入國たる日本棉業界が今日迄伯國棉に對し大なる關心をもたなかつたのは從來の産額が輸出餘力少く且つ國際商品としての缺點が多かつた爲めであるが、今や面目を一新し、しかも其品質に於て埃及棉米棉或は印度棉に代用し得る伯國棉に對しては我原料政策上到底之を等閑視することを許さないのである、況んや南伯聖州棉六七十萬俵の中約其半分が作り始めて未だ一、二年にしかならない邦人移民の手により生産せられ居るに於てをやである。

南伯に於ける邦人移民の棉作増加に連れこれが指導開發の手段として、農業組合、販賣組合等の助成が彼等間に叫ばれて居る、これも固より必要ではあらうが、更に喫緊事は本邦有力棉花商の伯國進出である、資力經驗に富む我棉花商がよりかの地の事情を認識し、彼地にジン、プレス工場を經營し、實棉を直買し、之を繰棉して本邦紡績の原料として供給することゝならば、これ即ち今や列國棉業者注目の的となれる彼地に我商權を確立する所以で

あり同時に移民の開發となり、日伯貿易の増進となり、日伯接近となり、延いては移民問題の解決を促し、更に我原料政策貿易政策の確立に資すること誠に大なるものがあると思ふのである。

## 附 録

### 棉花に關する勸告書

訪伯經濟使節團は月餘に亙り親しく伯國の實地につき調査研究を遂げたる結果伯國は棉産國として必要なる自然的條件を充分に具備し、政府當局の不斷の指導獎勵と相俟ち、最近數年間に生産數量並に其品質に於て著しき進歩發展を遂げたるを認め且伯國が世界の一大棉花供給國たるの將來を有することの確信を得たるを以て去る六月十一日「イタマラチ」に於ける日伯合同研究會最終總會の席上に於て簡單に所感を申し述べたるも茲に改めて世界最大の棉花輸入國としての立場より且我敬愛する伯國の善良なる友人として棉花に關し左の忌憚なき勸告を提出せんとするものである。

(一)棉花は開絮後なるべく速に摘採し長期間雨露に曝さぬ事、

棉花は Open air に expose せらるる期間が長ければ長き程色合 dull となり且光澤を失ひ品位を著しく低下せしむるものであるから現在一期間に (one season) 僅々二回より採取を行はぬ慣習の如きは是非とも之を改めて三回乃至四回に増加せねばならぬ、開絮中屢降雨を見る聖州に於ては此のことが一層必要である。

(二)雨後又は早朝露の爲めに棉花が濕氣を帯べる際には之を採取せぬ事、若し已むを得ず濕つた棉花を摘採せる場合には必ず簡單なる設備を設けて繰棉作業前に日光乾燥を行ふこと、

伯國棉の最大缺點は rough ginning である、然して此原因は大部分 wet cotton の ginning に起因す、されば

實棉に含有濕氣多き場合は必ず日光乾燥を行ふか又は drying machine の使用が必要である。

(三)不熟棉、汚損棉、害蟲被害棉を選別すること、

現在の伯國棉は大部分良品なるに拘らず少量の不熟棉、汚損棉、害蟲被害棉等の不良品を混入せるため全體の品位を著しく低下せしめて居る、之を選別方法として摘み取りに際し良品と不良品とを區別することが最良であるが、若し然らざる場合には繰棉に先ち必ず不良品を控除する作業が肝要である。

(四)實棉賣買は品質に應じて價格に差等を付けしむること、

伯國棉作者が良品獲得に必要な收穫上の注意を顧みざることに主たる原因は現在の實棉賣買に於て品質の優劣により價格に差等を認めず總て一率の値段にて買取らる慣習となつて居ることに存する。

聖州に於ては實棉格付規定を設けて實棉を上中下の三級に區分せるも事實此の選別は實棉が農民の手を離れて繰棉工場に入りたる後に於て行はれて居る爲め此の區分は直接棉作者をして良品を産出せしむる爲めの刺戟とならず、實棉格付本來の精神を半減して居る感がある。これは宜しく棉作者が實棉を賣却する以前に選別を行ひ格付等級によつて賣値に差等を生ぜしむる様にすべきである、斯くせば棉作者は競つて上級品を作ること努力し品質改良上多大の進歩を見るに至るであらう。斯る目的の爲めには更に一步を進めて棉作者が自己の生産せる實棉を繰棉工場をして賃繰せしめ繰棉後の品質に應じて之を賣却する慣行を誘致することが一層理想的である。

(五)繰棉工場の監督を嚴にし並に繰棉技術の指導改良を圖ること、

從來舊式繰棉機の使用並に繰棉技術上の缺陷により棉花の品質を害せること多大なりしも今や南伯地方に於ては改善の跡顯著なるものがある。併し北伯地方に於ては未だ primitive の繰棉工場が相當多數見受けらるゝを以て

此の舊式繰棉機の整理と共に他方繰棉技術上の指導、就中繰棉機の回轉數並に seed roll の pressure の調節等に關し適當なる指導が必要である、政府に於て繰棉技術研究所を設け其の指導に當てしむることも一つの方法と思ふ。

(六) 全國的に依裝規格の統一をなすこと。

依裝の良否は輸送費の上に大なる影響を有し延いては棉花の國際競争力を増減するものなれば一定の容積重量の規格を制定し全國的に之を統一することが必要である、標準は百八十疋俵に於て 10c cubic feet 乃至 12 cubic feet が最良と信ず、若し急速に全國的統一が困難なる場合には先づ地方的に統一して漸次之を全國に及ぼす様にせられたし。

(七) 棉花品位の等級格付には米棉 Universal Standard を採用すること。

伯國産棉の大部分は其の品質略々北米棉に匹敵し今や國際商品として諸外國に輸出せらるゝに至つたのであるから之が格付にも亦世界的に認められて居る米棉 Universal Standard を採用することが最も合理的と思ふ、現在に於ても内地に於てこそ聯邦政府並に聖市取引所の格付にて取引さるゝも大輸出商の内には Universal Standard により再格付 (reclass) して輸出しつゝあるもの多き實情であるから此の際一步を進めて Universal Standard を採用せば國際取引に多大の便宜を與ふることと思ふ。

(八) 毛筋に對する格付も米棉 Official Standard に準すること。

現行伯國の毛筋格付區分は餘りに粗大に過ぎ國際取引の實際に適合しない。棉花の毛筋に對しては未だ Universal Standard の制定を見ゆるも米棉の Official Standard が最も一般的のものなれば之に準據することが便利と思ふ。

(九) 棉花取引所に於ける等級間の格差は之を市場相場の格差に準じ増減せしむること。

格差は一定不變のものに非ずして需要供給の原則に従ひ常に變化すべきものである、現在伯國取引所が格差を市場格差の如何に拘らず之を一定不變のままに据置くことは實情に反し且は市場に對し標準相場を作るべき取引所の機能を害し市場に悪影響を及ぼすものである。

(十) 政府は棉花相場を常に國際的水準に平衡するやう取引所及市場を監督すること。

従來伯國棉は主として國內消費に充當せられたる爲め國內事情により棉花相場に極端なる騰落を演じ棉作者並に棉花取扱業者に不安を與へ之を困憊せしめたること尠くない、國際商品となりたる今日尙斯る状態に放任することとは伯國棉の市場を海外に開拓し廣く世界各國の消費者をして伯國棉の眞價を認めしむる所以でないから政府は宜しく棉花の相場を常に國際的水準に平衡して變動する様に市場を監督し、場合によりては棉花の輸入税を輕減して内地市場の狂騰を是正するが如きことも必要だと思ふ。狂騰の次に來るものは狂落であるから棉花の相場を常に穩健に維持することが耕作者をして増産を企てしめ輸出業者をして安んじて伯國棉を取扱はしむる所以である。

(十一) 農業金融機關を設置して農民の經濟的獨立を助成すること。

伯國棉作者は一般に資金に乏しく、棉作に際して耕作費用を前借し又は青田賣りにより耕作資金を融通して居る現状である、之は耕作者を其生産品賣捌の際に不利の地位に陥るゝのみならず取引上種々の弊害を生ずるものであるから信用組合又は農業銀行の設置等により此の實情を改むることが肝要である。

(十二) 棉花の輸移出税を廢止すること。

伯國棉の海外輸出を増進する爲めには價格上外國産棉との競争力を増加せしめねばならぬ、之が爲めには現行の輸移出税類似の賦課金は之を全廢することが必要である。

(十三) 正確詳細なる棉花統計を發表して棉花生産並に取引者に指針を與ふること、  
植付反別收穫豫想、實收穫、收穫率、國內消費、海外輸出等に關しなるべく詳細正確なる棉花統計を作成發表して當業者に正確なる判斷の資料を與へることの必要なることは云ふまでもない。

之を要するに從來の伯國政府の棉作指導は主として農業的技術方面に關する指導であつて其結果品質の統一向上收穫率の増加、生産費の低下等耕作上の進歩は誠に著しきものあり、棉花は今や伯國重要輸出品の一となり伯國棉は國內原料より一步を進めて國際商品となつた。

然るに棉花の取扱方法に關しては一般棉作者も棉花取扱業者も共に國際取引慣習に通ぜず商業的、經濟的知識を缺いて居る憾がある、故に此際農務省は棉花の商品的取扱に精通せる人を招聘して之を長官として經濟調査部を設け、技術研究所と相並んで棉花貿易の指導に任ずることが上記勸告各條項の實行に最有効にして且必要なる施設であると思ふ。

以上

昭和十年七月十日

日本訪伯經濟使節團

平生 鈺三郎

伯國農務大臣

殿

(寫サンパウロ州統領宛)

## 第二章 日本向伯國輸出希望商品

此の調査は主として伯國政府當局が同國主要の實業家を招致して、使節團と引あはせの勞を取り、使節は手分けをして隨員及補助員の手傳にて雜多の商取引希望者と引見してその申出を聞き取り、また氣のついた事は之を聞糺したところを書き記したものである。

引見の手順等が事務的には出來あがつてゐなかつた爲に、使節側としても百般の商品を相手にせねばならず、これだけでもかなり無理であるのに、さらに伯國のいはゞ當局推薦の商社代表者でありながら國際貿易をやつてゐるといふものが寧ろ少く、又たとひ輸出入貿易の経験者でも大抵獨、英、米人の手に任せてゐるといふものが多いのは些か失望もし又同時に日本が將來伯國産物を取扱ふ處女地の様にも思はれてたのしみでもあつた。しかしそれだけ先方の實業家達の申入れが商取引の眼目を外れてゐること多く、それに込み入つた事になるとお互の言葉が第三國語と來て居るので、實に纏りのない報告になつてしまつた。

有力商社との商談は首府リオ、聖州々都サンパウロに、ミナス州の都ベロ・ポリソンテ、南端のリオ・グランデドスル州の都ポルトアレグレ等の各地の商業會議所關係を中心として各地當局が斡旋してくれたものである。この報告を通覽して亦如何に伯國の國際取引が幼稚な状態にあるかどうかはれる次第であるが、かゝる會見に参加してゐる實業家は各地方に於てはそれ／＼一流の人々であるといふ事を御承知がひ、茲に掲げた商品につき日本の當業者が興味をひかれる向あらば、當使節團訪伯の結果として、やがて近いうちに結成せらるべき「日伯經濟協會」

を通じて、伯國の外務省日本課又は夫々の當業者團體に問合方を御申越し願ひたい。  
 それで取敢ずこの報告は調査といふよりも、伯國各都市實業家の申立を羅列したに止まる次第である。

目次

農産品

- 一、Carua Fibre
- 二、棉實
- 三、Castor Seeds

畜産品

- 一、鹽漬牛乾肉
- 二、コーン・ビーフ
- 三、冷凍豚肉
- 四、牛骨類
- 五、Hide
- 六、羊毛
- 七、蜜蠟

礦物類

- 一、クローム及びニッケル鑛
- 二、クローム鑛
- 三、クローム鑛
- 四、ニッケル鑛
- 五、Manganese Ore
- 六、Manganese Ore

- 七、Manganese Ore
- 八、Manganese Ore
- 九、鐵鑛
- 十、Bismuth
- 十一、モネザイト
- 十二、水晶
- 十三、寶石
- 十四、Ruilio
- 十五、大理石
- 十六、Zirconium Oxide

林産品

- 一、油種子 Babassu
- 二、カルナウバ蠟
- 三、Peroba
- 四、Ipe
- 五、Faveiro
- 六、Canelhao
- 七、Jacarandá
- 八、Cabreuva
- 九、Cedro
- 十、Marfim.
- リオドーセ沿岸地帯富源

農産品

一、Carua Fibre

産地 バイヤ州。

バイヤ州に海岸より百キロ、カテンガ (Catinga) と稱する地方に非常に廣大な野生がある。大戦最後の年千八百噸歐洲に輸出せらる。製紙、人絹、網によし。

荷造方法 一〇〇キロ二〇〇キロ入の包装の物。

如何なる量も輸出し得。

輸出商 João B. Montenegro : Servico do Fumo, P. O. Box 40 Bahia. C. Torres & Cia. : Porto Alegre. Vima Slipio Ogar & Cia. : Porto Alegre.

二、棉實

産地 サンパウロ州、パラナ州、ミナス州一帯の棉作地。

出廻 六月以降九月。

集散地 各奥地地方都市、ミナスにては例へば Pirapia, Curvello, Bocayuva Uberlandia 等。

産額 約一八〇、〇〇〇噸、年々増加す。

輸出港 サントス及リオ。

奥地輸出港間の鐵道賃金一俵(十五キロ)に付き三乃至五ミル(六〇錢一圓)。

輸出諸掛一俵當約一・五ミル。

品質検査方法は便宜の各袋より少量の見本を刺し取り取極むるものとす。

支拂條件 Cash against Documents を原則とす。

取引希望者 Col. João de Parda: Curvells, Minas. Pereira Diniz & Co.: Curvells, Minas. J. Pacuridino & Filho, Montes Claros, Minas. Dolabella & Co.: Bocayuva, Minas. Antonio Rezende Filho: Uberlandia.

### III Castor Seeds (天然カスター種子)

産地 サンパウロ州並にミナス州其他各地。

生産能力 年一萬噸。奨励法により三萬噸乃至四萬噸に増加し得べし。

荷造方法 六〇キロ舊麻袋入。

支拂方法 Cash against Documents

但し打合により他の方法にても差支なし。

取引方法 F. O. R. の場合輸出港到着時の目方に依る。F. O. B. 引合は本船船長署名の看貫表を最後とす。

値 段 F. O. B. Rio 一キロ一九三三年五月〇・八ミル(約一六錢)、同六月〇・九五ミル。一九三四年五月〇・四ミル。

出廻状況 奥地 Pirapora (Minas) Rio de Janeiro 仲買人の手にて毎年四月—七月間に土人より買集め Pirapora に送り(此の費用一キロ〇・一ミル)、此處にて精選して五月—十二月間にリオ又はサンパウロに着す。倉敷料一袋〇・二ミル、積込諸掛一・五ミル。

左に本品積出二〇依に對する輸出諸掛を示す。

Capatazias.....	四・一〇ミル
印 紙 .....	八・六〇ミル
Cepediente .....	一・一〇〇ミル
其 他 .....	六・一〇ミル
合 計 .....	二九・八〇ミル

取引方法 一定の規約なし。受渡の際適當な見本を取り、その平均により品質を決定するが實際に行はれつゝある處なり。

取引希望者 L. E. Levier.—Rua São Francisco Kavier 31, Rio. Ferreira G & Co. Rua 10 de Marco, 86, Rio. Matarazzo, São Paulo.

本品はミナス州を北方へ貫流するサンフランシスコ大河の沿岸數百キロに亘りて自生するカスター草より土民が手當り次第に採取するのみにして川船二、三隻を用意すれば約三萬噸は容易に取集め得べし。現在は極めて原始的にして需要に應じて約一萬噸位の集散を見つゝあり。種類も大體十五、六種に分れ居るもミナス州當局は本品の國際商品化に努力し、我使節團を通じて日本一手引合樹立を談合せり。

州政府は日ミ合併にて小搾油所を二、三ヶ所に設置し、敷地の無償提供、製品輸出税の減免を爲すことの申出あり。油として國外輸出を爲したき旨申入あり。

現在は約四分の三は英國に搬出せられ、残りはサンパウロに荷引して伊原大平筋マタラゾ、コンサーンの一工業



として製品は國內工業に供給せらる。

本品に對しミナス州政府と提携の希望の方は岩井使節につき御照會ありたし。

### 畜 産 品

#### 一、鹽漬牛乾肉 (Jerked Beef)

積出港 ポルト、アレグレ  
値 段 F. O. B. サントス、一キロ當り二ミル。  
品 質 五等級あり。  
包 裝 正味一〇〇キロ入麻袋。  
申込者 ポルトアレグレ・シンヂケイト。

#### 二、ユーン・ビーフ

正味一罐三六〇グラム入、商標日伯國旗交錯太陽印。  
製造元 Carloh Oderich & Cia.: Cahy Lageado, Rio Grande do Sul, Brazil.  
値 段 アルゼンチン物と競争する爲め日本に見本を送附するに付、日本商人に於て研究を講ぜられたしとの事なり希望者は日本商工會議所内、本使節團に申込ありたし。見本、サントス經由發送手配済。

#### 三、冷凍豚肉

積出港 Porto Alegre

荷 姿 二切一片。三キロ見當。

値 段 雄雌共、同一値段。F. O. B. キロ當り二ミル。毎船二〇噸—三〇噸。

申込人 Syndicate de Banha

當會社は冷凍牛肉、冷蔵肉の供給可能なり。

#### 四、牛 骨 類

産 地 Rio Grande do Sul 州

輸出港 Porto Alegre (サントス又はモンテ・ビデオ積替)

品 目	骨 粉	一噸	三磅半乃至四磅
血 粉	一噸	一〇磅	
骨	一噸	二磅六志	

取引者 Frederica Linck & Cia.: P. O. Box 126, Porto Alegre

代表者 Hans Blumenthal

尙同人は毛織物用 Macate 油及ニコチン(一キロ四弗)の日本引合を申入れたり。

#### 五、Hide

産 地 南端地方リオ・グランデ・ド・スル州。

鹽 分 二五度。

品 質 三等級に分れ大體一枚二八キロ乃至三八キロ。

- 一 級 品 Erigorifico
- 二 級 品 Xarneda
- 三 級 品 Matadouro

値 段 F. O. B. ポルトアレグレ又はリオグランデ、一キロ當り二、八ミル見當、大體各等級の値開一キロに付〇・二ミル(四錢)。

取引申込人 ポルトアレグレ皮革シンチゲート。

### 六、羊 毛

生 産 地 Rio Grande do Sul

生 産 量 千五百萬キロ(一九三三年)。

原毛生産量は千五百萬キロにして國內消費はサンパウロ及 Rio Grande do Sul を併算しても六百萬キロに達せず九百萬キロは歐洲及ウルガイへ輸出せり。全生産量の三百萬キロは粗悪品に屬す。伯國より直輸出する量は極めて小にして、ウルガイ、アルゼンチンの仲買人の手を経て輸出されつゝあり。

輸出港は Porto Alegre 現在は取引不振の状態にあり。

荷造方法 通常四〇〇キロ入の梱包。

支拂方法 證券引換現金拂。Cash Against Documents

大量引合の場合は八〇%位、仲買人の積出に應じて支拂ふ。

相場の變動甚しき故、凡て電信引合を要し受渡期間は六〇日、九〇日、一二〇日の長期に亘る。買手は倉庫設備の必要あり。

種 類 Merina 種の優良品は纖維四センチ乃至五センチにして、此種の普通品最も豊富にして纖維三センチ半を標準とせり。

Cruzas 種は品質の格付に依る一級及三級品は纖維比較的長く一、二級品の輸出最も多し。中等品を分類して三級四級五級の三種とするが、此中等品は粗悪品なる故輸出に適せず。

### 廿、蜜 蝟 Cera de Avelha (Beeswax)

生 産 地 Rio Grande do Sul 及び Santa Catharina Porava

生 産 量 三百噸乃至四百噸宛

輸 出 港 Porto Alegre

荷造方法 麻袋入中味五五キログラム、及び六〇キログラム入。

仕 向 地 英國、北米、獨逸、和蘭。

値 段 一英噸に付 F. O. B. £ 90. Santos (per 1016 kilo net P. R.)

色の異なるのは花の色による。レモン、白、カボチャ黄、Soya 黒等あり。

主なる輸出商 Pontes & Cia : Tupacretan End. Erico Oliveira Mells : Praca Visconde do Rio Branco, 174—

Porto Alegre

輸 出 高 Rio Grande do Sul 400噸

### 鑛物類

#### 一、クローム及びニッケル鑛

バビヤ州カンボホルモウソー・カスカブル本鑛山はバビヤ港より奥地、汽車にて二一時間を要するカンボホルモウソー町より、更に西四七六キロに在り、停車場より鑛山迄自動車を用いて聯絡す。

鑛坑九個所に分れ、埋藏量極めて尨大なり。未だ生産せられ居らざるも、ブラジル政府當局の報告に依れば、投資七〇萬弗を以てすれば、クローム六五%含有のフェロクローム千五百噸、 $Cr_2O_3$ 五〇%のクロームマイト五萬二千噸及び粗鑛二萬噸採掘可能なり。

F. O. B. Bahia フェロクローム噸當り百弗。 $Cr_2O_3$ の噸六弗九〇仙。粗鑛四弗三四仙の採算となる。

本鑛山はブラジル政府當局より本經濟使節を通じ日本資本の投資の勧誘申入れあり。

左に要旨を抄出す。

#### 二、クローム鑛

産地 バビヤ港より奥地五五〇キロ Boavista.

本鑛石は砂狀にして、クローム純分四〇%乃至四五%。

取引方法 F. O. B. Bahia. バラ積渡し。

申込先 Siranni Alveira : P. O. Box 313 Bahia.

電信宛名 Cromine Bahia

#### 三、クローム鑛

純分  $Cr_2O_3$  三〇%乃至四五%

産地 バビヤ州 Saudi

バビヤ港より五百キロの奥地、現在採掘中なれども露出二〇萬噸。埋藏量未調査。輸出能力一ヶ月五百噸。

取引條件 C. A. D. 或は打合せによる。取引先渡し。

數量は積出港に於ける本船船長署名の看貫表を以てす。

申込先 J. P. S. Porto リオ市リオプランコ通り 77 B. F. S. Barradas P. O. Box リオ市 1.774

#### 四、ニッケル鑛

Minas 州

Li Rarant産 純分二五%乃至三〇%

Goyaz産 純分二〇%以上

生産能力 一ヶ月二千噸。

積出方法 バラ積。決済方法——イルレポカブル信用狀を要求するも、買主に依ては便宜の方法を取るべし。

Goyaz産の物は輸送方法不便の爲、目下大量取引の見込み薄と思はれる。

相場 一九三五年五月 F. O. B. Rio do Janeiro 九〇ミル。即ち一圓八〇錢。

申込者 Julio Miranda : 17 Aefandega, Rio de Janeiro Thomaz Pinheiro

リオ市 De Marco

横濱丹羽商會の代理店。

Julio Miranda は横濱丹羽商會に對し四〇噸の試験積荷を行ひ一手販賣契約の申入れを受けつゝありしも、丹羽商會よりは日本着後の分析未済との理由に依り、更に本年四月末日迄最後の回答の餘裕ありたしとの申入れありて其の儘時間を経過す。依て當社は取引の意志無きものと取扱ふと云ふ手紙に、この Julio Miranda はコンバニヤ・ミナデ・ニッケル・ド・ブラジルの出資者の一人として、この會社計畫中にして、一九三六年末供給し得らるべきフェロニッケルの日本向輸出獨占權を有す。

因に一九三四年十一月二三日 Julio Miranda より日本に試験輸出を爲したる鑛石の分析表下の如し。

Si	O <sub>2</sub>	—	38.70
Fez	O <sub>3</sub>	—	70.55
Alz	O <sub>3</sub>	—	0.50
N <sub>1</sub>	O	—	2.78
C	O <sub>2</sub>	—	traces
C <sub>2</sub>	O	—	—
M <sub>2</sub>	O	—	34.03
Loss in calcination			12.30

H' Manganese Ore

純分 五〇%乃至五二%、但し値段は、純分四八%を基礎として計算す。

産地 Bahia 州 Cahin 及び Sandi 郡。

Bahia 産 Manganese Ore はリオ州と異り、原石は大方堅牢たる大塊にして、之れを一定の砂礫に粉碎して供給するものにして、含有純分二%以下なり。

供給能力 現在輸送力毎月積五百噸。

取引方法 C. A. D. 但し買手に依りては特別の打合せを爲すべし。

目方 本船船長署名の看貫表を最後とす。

値段 段 F. O. B. Bahia 四八%を規準として一二五ミル(噸二五圓)。

現在相場 フィラデルフィア一渡し。Per Unit 二五仙。Bahia 或はリオよりアメリカ向運賃噸四弗。米國には過去數年に亘り三萬噸を供給す。

荷造方法 バラ積。鑛區より積み出し港迄の鐵道運賃噸當り三六ミル(七圓二〇錢)。

一九二五年最初アメリカと引合ひの際フィラデルフィア一 Booth garrett and Blair 及び McC Creeth and Son の分析表下の如し。

	Danavirke		Dunstafnaga	
	4.865,52		3.904,5893	
	Booth	McC	Booth	McC
Maist.	1,84	2,17	1,54	1,55

Mang.	52,610	52,395	51,37	50,956
Sil.	1,72	1,69	2,03	2,07
Phos.	0,106	0,100	0,128	0,118
Iron.	4,010	3,925	5,13	4,875
Alm.	3,03	—	3,10	—

申込者 Henri delpont and Henryde Bromteles リオ市リオプランコ通り。

#### ク' Manganese Ore

純分 Bahia 産の物、平均五〇%と Minas 州の物四四%乃至四六%、但し Minas Laffayit 産は四四%保証。供給能力毎月六千噸。

荷造方法 バラ積。

支拂方法 Cash Against Documents. 但し買手に依り適當の取引を爲すべし。

所有權 本船船長署名の看貫表を最後とす。

價 段 F. O. B. 噸八五ミル(一七圓)。

申込者 P. H. Denizot & Co. : P. O. Box 1493, Rio de Janeiro

Minas 産は通常四四%乃至四八%の純分を含有す。大體四六%と見て差支へないと云ふ。この積出港は Rio 港なり。

因り P. H. Denizot 社は本年六月末約二〇噸の原礦を日本宛に積送り、ブラジル、神戸總領事に於て、日本市

場の研究を依頼せりと云ふ。

尙この荷口に對するブラジル、神戸總領事の報告を俟つて、Manganese Ore 日本向輸出團を設立すべく計畫中と云ふ。思ふに Manganese Ore の日本向輸出に關聯して考慮せらるべき事は、滿洲炭のブラジル向への輸入なり。ブラジルは粗悪炭の産出あるも優良炭は殆ど全部これを輸入に仰いで居り、同時に相場は Rio 港着、英貨十セリングの見當なり。即ち約一三圓五〇錢。従つて滿洲炭を營口港船積値段五圓とし、滿洲 Rio 間の運賃を假に一〇圓にて賄へるとすれば Rio 着一五圓とした場合に於てはナタール炭と競争し得べき可能性無しとせず。

Manganese Ore 純分四四%の物、Rio 船積値段八五ミル。即約一七圓。これに日本向運賃一〇圓とすれば、門司着二七圓。若しも値段が引合圈内にありとすれば一應考慮すべきが、實際問題として滿洲炭賣込みは従來英國炭の賣込みに對して、滿洲炭を以てする事は當初より相當の決心を要すべく、又ブラジル労働者の積込み、並に荷役能率低きを豫想し、相當の積込み設備、並にストックヤードを用意する必要あり。

#### リ' Manganese Ore

Bahia 州産 純分五〇%。

申込者 H. De Broonet : P. O. Box 232 Bahia

當社はアメリカ資本家と共同し、既にベルギー向輸出をなせり、取引銀行 Banco Economico da Bahia; Banco Hypothetaria Agricala Bahia.

#### ハ' Manganese Ore

Bahia 州産 純分五〇%。

申込者 Jase Dias de Oliveira

當社は他にクロム鑛山を有し、クロム鑛、純分四〇%と云ふ。日本より運搬用に用ふる二臺の汽鑛車を購入して、其の代金は鑛石を以て支拂ひたしと云ふ。

### 九、鐵 鑛

純 分 六五%以上。

鑛 區 リオ港より五五キロの奥地。

摘 要 見本、F. O. B. リオ渡し値段及分析表は希望者の申入により返事すべし。

主なる取引商 Oscar Paschoal : Ave Affonso Penna 557.

(鐵鑛、マンガン鑛、油) Giacomo & Cia Ltda : Rua da Bahia 856

(鐵鑛山を賣込希望) Adriano Beruto : Serra da Boa Esperança na Fazenda do Capao Nova Lima 郡

Est da Minas Geraes

### 十、Bismuth

産 地 ミナス州。

生産量 毎月五〇〇噸。

荷 造 一箱五〇キロ入、箱は國際共通型。

純 分 Oxido Carbonate Mifalic 八〇%。

値 段 ロンドン市場に従ふを通常とす。本年五月一キロ、リオ甲板渡三〇ミル。

支拂方法 Cash against Document.

看 貫 積出港に於て船長署名看貫表を以て最後とす。

### 十一、モネザイト (Monazite) (ガスマントル用)

生産地 エスピリトサント州ビクトリヤ。

生産量 毎月二百噸。

荷造方法 一重麻袋、一重麻新袋、正味六〇キロ入、二〇袋の時は二ミル増(約四〇錢)。

形 状 砂状。六%のソリウム (Thorium) を含む。

値 段 一九三五年五月ビクトリヤ港甲板渡六〇ミル。即ち(約一二圓)。

本鑛山はマナザイト Zircon ( $Zr, Si O_2$ ) を九八%乃至九九%の純分を含む。噸當り英貨八ポンド一〇シリング。併せて Oxid Titanic iron を採取す。

申込人 Antonio Lopes do Amaral. Rio Largo de Carioca 547

當人關係會社 (Deferance) Dollabella Sostella Mr Aiamanda Vieira

### 十二、水 晶

品 質 水晶は大體に於てゴヤス州産最も透明にして良質と稱せらる。但し積出港より奥地にあるを以て、商取引は概ねミナス州、エスピリットサント州、ビクトリヤ港積出品を以て行はる。

供給量 毎月三〇噸乃至五〇噸、但し註文に依りては更に増加し得べし。

荷 造 通常木箱入、中には皮袋に納めたる物有り。一包五〇キロ入。

支拂方法 證券引換現金拂。看貫は船長署名看貫表を以て最後とす。

値 段 値段表 (一)

- 一九三五年五月、一〇グラム乃至三〇グラムの塊一個に付き〇・八ミル(約一六錢)。
- 三〇グラム乃至五〇グラム迄一個に付き一ミル。
- 五〇グラム乃至一〇〇グラム迄一ミル乃至一・二ミル。
- 一〇〇グラム乃至二〇〇グラム迄一・八ミル。
- 二〇〇グラム乃至三〇〇グラム迄は二・八ミル。
- 三〇〇グラム乃至五〇〇グラム迄は四・八ミル。
- 五〇〇グラム乃至一〇〇〇グラム迄は九ミル。
- 一〇〇〇グラム乃至二〇〇〇グラム迄は一四ミル。

ピラミット型形状體値段

- 二〇〇グラム乃至三〇〇グラム迄は四・五〇ミル。
- 三〇〇グラム乃至五〇〇グラム迄は一四ミル。
- 五〇〇グラム乃至一〇〇〇グラム迄の物は一個に付き二二ミル。

以上はリオ港甲板渡し値段。これは Redelvin Andrade の表なり。

値段表 (二)

- 一〇グラム乃至三〇グラム迄〇・八ミル。

- 三〇グラム乃至五〇グラム迄一ミル。
- 五〇グラム乃至一〇〇グラム迄一・四〇ミル。
- 一〇〇グラム乃至二〇〇グラム迄一・六〇ミル。
- 二〇〇グラム乃至三〇〇グラム迄三ミル。
- 三〇〇グラム乃至四〇〇グラム迄五ミル。
- 四〇〇グラム乃至五〇〇グラム迄六ミル。
- 五〇〇グラム乃至一〇〇〇グラム迄九ミル。

以上は Eduardo Czae の表なり。

申 込 人 Redelvin Andrade. : Rio Davido Campista, 207 Bello Horizonte  
Eduardo Czae or Cozac Irmio Ieia. : Avenida Qaraná 2 Bello Horizonte Estado de Minas,  
Brazil.

十三、寶 石

ミナス州産。

品 名 ブラジル・ルビー。サファイヤー。アマチス。トツパス。ダイヤモンド。  
産 地 ミナス州各地。

取引方法 極めて幼稚にして通常原産地方の地方都市。保證人に依りて送り居り、買付人はブラジル銀行にクレ  
ジットを設定し置き必要に應じて右を買付資金として支拂ひ居れり。奥地よりの積送は郵便小包にて行はれる。

リオ港にて船積の場合、鐵道運賃は買取人の手にて支拂はれる。

主要賣石商 Antonino Graciliano Pereira do Souza. : Minas Arassuahy. Janas de Aguiar

Triuen Morvi. (Bahia ダイヤモンド専門商) : Avenida Tão Rafael, 467

Endereco Telegrafico : — Moroni Porto' Alegre—Rio Grande do Sul—Brasil—(ダイヤモンド専門商)

#### 十四、Rutilo

Bioxido Triconio Natorium

産地 ギヤス州。

供給量 毎月二二〇噸。

純分 保證九四%以上。

支拂方法 積出し後九〇日或は三〇日の銀行拂、支拂貨幣は英米貨を希望す。

値段 リオ港渡し英貨噸三〇ポンド。或は米貨一七五弗。

荷造 新麻袋約四〇キロ入。

申込人 J. R. Azaredo. : Rua Roarianes Silva, 38.

#### 十五、大理石

産地 サンパウロ州、各州。

輸出形状 通常二立方メートル乃至三立方メートル。但し註文如何に依り、長さ八立方メートルの物迄、如何な

る形状にても供給し得べし。

荷造方法 裸積み。

重量 一立方メートルに付き約三噸。

値段 リオ港又はサンパウロ渡し。結晶性純白。一立方メートルに付き千ミル(約二〇〇圓)。

色物第一號。黒鼠雲形 八〇〇ミル。

色物第三號。白黒鼠亂雲模様 八〇〇ミル。淡褐色赤鼠雲形入 八〇〇ミル。

色物第六號。白く薄茶薄赤色雲模様。値段同じ。

色物第八號。第三號に稍明瞭な物、赤鼠地繭形散模様。値段同じ。

色物第九號。淡紅色薄桃色生地、約一寸巾の鼠縦縞。値段同じ。同じく白鷺生地、薄黒縦縞模様、約幅一寸

の物同じ値段。

色物第二號。薄綠色 一、二〇〇ミル。

色物第七號。薄紅色に紫の縦縞模様 一、二〇〇ミル。薄紫色 一、〇〇〇ミル。黒 一、二〇〇ミル。

以上は一塊二〇乃至三〇立方メートルの値段なり。五立方メートル以上の物は相當の値引を爲すべし。

生産額 本工場に於て月三〇〇〇萬圓(厚み二センチメートル、廣さ四〇平方メートル、磨きたるもの一平方メートルに付き五〇ミル。因に本工場に於ける引船は一塊の五分なり。通常工賃一平方メートルに付き一〇乃至一二ミルとす。)

支拂方法 フラン證券引換現金拂。



申込人 Sociedade Anonima

住所 Lorniores Brasileiros Rua São Bento 23 São Paulo. Tel. Add. Samba Avenida Lima 15 Rio de Janeiro

本會社の持主は現サンパウロ市長なり。同氏は最も有力なる財閥の一人として、單なる商業上の見地に捉はれず、廣く日伯間の貿易親善の見地より觀て、同社より相當の荷引を望む事然るべく、これに依つて幾多の有利なる取引をも發見し、他の取引にも同氏を通じて導かれるものと考へられる。

### 十、Zirconium Oxide (Z S O.)

種類 ゴヤズ産(米國ファイラデルフキヤ「ブリス・ギヤレット・ブレイア」商會の分析に依れば純分七四%なり) ビクトリヤ産(九八%乃至九九%純粹)。

生産地 State of Victoria & Minas

生産量 一九三三年には一ヶ月五十噸宛。

荷造方法 二重麻袋。

格付方法 Z S O. 九八%乃至九九%純粹。

サンパウロ驛着相場 一九三三年五月より十二月迄 F. O. B. 渡し一噸に付英貨八磅十志。

代金決済法 Cash Against Document

摘要 船積看買重量は最後に船長の署名を要す。

ゴヤズ産 F. O. B. サントス渡し一噸に付三五弗(米貨)。

ビクトリヤ産 F. O. B. ビクトリヤ渡し一噸に付英貨八磅十志。

主なる取引商

1. Antonio Lopes do Amaral : Largo de Carioca 5 & 7.

照會先 Dolla bella Postelaleia Dr. Armands Vieira c/o Casa Oscar machado, Rua de Ouvidor  
Rio de Janeiro

1. Cozac Irmão & Cia : Avenida paraná No 2 Bello Horizonte, Minas.

右鐵礦、マンガン礦等礦産物に關する引合申入原文の儘左に掲ぐ。

made a Government measure, is signed by the Brazilian Government, we shall proceed to close with the German Steel Works (Vereinigte Stahlwerke and associates) forward contracts for delivery of 1 1/2 to 2 million tons per year of Itabira ore for a term of 15 years according to our present understanding with them and 15 year forward contracts with British Ironmasters for upwards of 1 million tons per year. The Germans take then ore f.o.b. Santa Cruz but the British require delivery of their ore c.i.f. British ports.

The financial arrangements with the bankers &c., for the construction of the heavy traffic ore railway from Itabira 500 kilometers to the coast at Santa Cruz, based on these 15 year forward contracts for ore delivering will then be proceeded with.

The Itabira Railway, a 1.60 metre gauge railway with favorable grades practically all the way from Itabira to the port of Santa Cruz, can be constructed in 2 1/2 to 3 years owing to the use of the existing Victoria a Minas Railway (52% of the stock of which is owned by Itabira Company) extending from Victoria along the the same route to within 35 kilometres of Itabira as a construction instrument for transportation of construction materials supplies and workmen enabling the construction of the Itabira Railway to be attacked simultaneously all along the line so that the time of construction is that of the longest tunnel and greatest excavation and fill.

The ore loading port Santa Cruz will have 500 metre modern ore bunkers loading on both sides from ore pockets by gravity ships up 20,000 tons in 2 hours. Loading, lighting, pilotage and all port charge at Santa Cruz will be for account by Itabira Company and free to ore ships.

The price of the Itabira iron ore to the Germans f.o.b. Santa Cruz is to be that of Swedish ore c.i.f. Rotterdam less ocean freight Santa Cruz to Rotterdam of about 10 shillings. The ocean freight to British ports will be about 1/6d to 2/-higher, owing to their less draft compelling steamers of less tonnage and the slower unloading. The Itabira iron ore as with the Swedish will be bought on the basis of 60% iron and 8% silica with premium of 6d for each unit more of iron and 1 1/2d for each unit less of silica, Therefore Itabira ore averaging 67% iron and less than 1% silica will enjoy a premium of 3/6d for the excess of iron and 10 1/2d for the less silica or total premium of 4 shillings 4 1/2 pence over the base price. This should bring the f.o.b. Santa Cruz price to about 12

Temporarily at Natal Hotel, Rio de Janeiro,  
18 June 1935

Illmo. Snr. Dr. Takahito Iwai  
Hotel Esplanada, São Paulo, BRAZIL.

Dear Sir :

Pursuant to our conversation of last week, I have the honor to send you a translation of the Project of Revised Itabira Concession Contract which the President of Brazil, in his Message of 17 May has asked Congress authorization to sign.

Itabira Iron Ore is almost chemically pure haematite ore and the following are typical analyses of it :

SAMPLE	ASSAYS OF HARD ORE FROM CAUÉ			ITABIRA IRON ORE COMPANY, LIMITED			
	N° 390	N° 2	N° 37	N° 111	N° 418	N° 407	N° 184
Iron.....	69.48%	68.70%	69.00%	68.70%	69.07%	69.14%	68.9%
Phosphorus.	0.004%	0.016%	0.002%	0.003%	0.004%	0.004%	0.005%
Sulphur .....	0.004%	0.005%	0.016%	0.012%	0.010%	0.011%	0.014%
Insolubles....	0.76%	0.50%	0.38%	1.80%	1.22%	0.93%	1.30%

The Itabira iron ores will have a special value :

a) in the blast furnace, in mixture with Japanese ores to improve the furnace burden, increasing its iron content and diminishing the silica and other impurities which must be eliminated by coke and in this way bringing about an increase in the output of the blast furnace without further expenditure of Capital or labor thus sensibly reducing the cost of production.

b) such mixture in the blast furnace burden makes it possible to use Japanese ores of much lower grade than can now be economically used.

c) for use in open hearth steel furnaces owing to their great purity-practically solely iron and oxygen.

d) for use in the production of high grade and alloy steels owing to the absence of noxious substances in the ore.

You have visited the Itabira iron ore mines and doubtless were informed that there are proven, by 13 kilometres of tunnels, 170 million tons of export ore 65% to 69% iron and an equal tonnage of fine ore of the same chemical composition which, at a cost of about 75 cents per ton, makes a sintered ore unusually resistant to shipment and that the further possible ore may reach a much larger figure.

As soon as the Revision of the Itabira Concession Contract, recently

Riode Joneiro, 20 de June de 1935.

To the Members of the Japanese Trade Commission  
to Brazil,  
São Paulo, Brazil.

Gentlemen :

We have pleasure in presenting to you our proposal for the operation of a trade exchange plan between Brazil and your country on the general lines described below.

We are in position to supply large quantities of *ore manganese*, with an average metallic unit from 48% to 54%. The deposits are located near the city of Corumba, in the State of Matto Grosso and their capacity is estimated in 30 million tons,

The exploitation of these mines is not possible at present due to the lack of transportation facilities. This problem will only be solved through the operation of a private fleet and railway line, narrow gauge, to the port of shipment, which would be used exclusively for the transportation of the manganese, by the Paraguay River down to the port of Rosario, a distance of approximately 2600 kilometers from port of shipment to Rosario.

This proposition has been thoroughly studied and analysed from every angle and we are in position to present to you this proposal on the following basis :

1. We will supply, during a period of 5 years, on a contract basis, a total of 360,000 tons of ore manganese, per year, at the price of 7 2/1 d per metallic unit, f.o.b. Rosario, Argentine Republic. This production will represent approximately 9 million yens (9,000,000 yens), per year.

2. We will buy from Japan the fleet and other transportation equipment necessary for the shipment of the manganese to the port of Rosario. The equipment will consist of 24 river steamers (tugboats) of 400 tons each and 48 lighters of 300 tons each; railway equipment for the mines, etc., all estimated to cost approximately 4,500,000 yens. This to be paid in five yearly instalments.

3. We will assume the obligation to buy from Japan machinery and manufactured goods for a total value of 2,000,000 yens, per year.

4. In view of the fact that at the beginning it will be rather difficult to secure important firms in the country to buy for their own account Japanese goods, for introduction in this market we will be

shillings.

I understand you to say that the ocean freight from Santa Cruz to Japan for iron ore will be no more than from South Australia to Japan and no more than from Santa Cruz to Europe.

After your return to Japan in September, I shall be obliged if you will write me to my New York Office where I expect to be then whether it would interest Japanese Steel interests to make forward contracts for Itabira ore f.o.b. Santa Cruz similar to those of the Germans and some idea of the yearly tonnage desired. Then we can discuss the details of the arrangements suiting your situation and needs.

My New York address is 120 Broadway, cable address, Lavicrep, New York.

Your very truly,

Percival Farquhar.

Rio de Janeiro, 27 de September de 1935

Dr. Takahito Iwai Esq.  
TOKIO.

Dear Sir,

With reference to our mutual conversation in Rio de Janeiro, we take the liberty of once more drawing your attention by letter, to the most important items. We would ask you to kindly let us enter into details, of certain parts, for purposes of clearer understanding leading to mutual satisfaction.

**WE PROPOSE:**—We refer to our proposal of starting a "compensation-business" as submitted to you on the 20th June 1935 in our letter addressed to the JAPANESE TRADE COMMISSION, copy of which we have the honour to annex to the present.

Considering the fact that, by organizing a trade-exchange between Japan and Brazil, no doubt your chief aim would be to open a new market for your industries and industrial products, we not only feel it our duty to submit to you some proposals for the purchase of ore, but also to acquaint you with the means we dispose of, to realize your aims, thus bringing forth a decisive solution of the problem, which for you is of the most vital interest.

**SUPPLY AND DELIVERY OF ORE:**—As you know, we intend to supply you, on a five year's contract, with annually ca. 360.000 tons of *manganese*, from our manganese and iron mines at Urucum, near Corumba, State of Mato-Grosso. What we need is a firm contract for several years, in view of the great expenses we are obliged to undergo, namely buying ships for transporting, besides the great outfit-expenses for the mines. We furthermore need such contract for certain credif-operations with the Government or else with the Banco do Brazil.

However, the above does not exclude that, in case the quantity would seem to you as too great, we might, after a certain time, and as soon as the production reaches full functions enabling us to deliver for ready shipment, sell some part of our productions to other consumers, in case you would wish it, and such procedure ought not to be difficult, as the manganese is really first quality. May we use this opportunity to mention that the firm Friedrich Krupp-Essen used to be among the greatest buyers of our ores. Besides, we received recent informations, that the actual market-price in Germany is 11/d cif Rotterdam. Calculating the

willing to furnish these goods on consignment basis with local distributors, in order to facilitate the development of the market.

5. To facilitate the introduction of Japanese products in this market and assist the local distributors in the expansion of the business, we will be willing to give every possible assistance in the way of propaganda, particularly with the Government and Brazilian press, so as to create a favorable reception for the products of Japanese origin. This propaganda will be carried out in agreement with the Japanese Ambassador to Brazil, in order that the efforts and work of all interested should be properly coordinated.

We have also pleasure in informing you that we are in position to supply chromium ore (chromite) with a guaranteed average from \*%. Of this material we can supply from 2000 to 3000 tons per month.

We shall appreciate very much your consideration to this proposal and shall be glad to give any detailed information that should be required. We may also add that in case of concluding some arrangement on the lines mentioned above, and in consideration of the volume of business to be made, a Corporation will be organized to work exclusively on the Japanese Trade. The undersigned will undertake the creation of this Corporation, as exploiters of the mines and the two proprietors of the mines will also join in the organisation of this new Corporation, depending the final organization of this Company on the size and nature of the contract to be made.

Thanking you in advance for the consideration given to this proposal and assuring that we will be glad to submit further detailed information, we remain,

Yours very truly

ALARICO DA SILVA COSTA  
DR. KURT ADOLF HINTZ

\* {from 42½ to 43½%  
or after concentration 50% to 52%.

dominio" (reserving to you the right of possession) or else in State or Bank securities. In case you would require the State or Bank securities, you would be asked to give the corresponding guaranty, regarding your contracts for manganese ore. We state, that in case of selling other ores, we would buy the whole of the necessary equipment from you, as well as, in special cases, railway and other concentration-materials, whenever we needed them and not existing.

b)—Our Purchases of other machineries and goods, for consignments.—We are furthermore disposed to pledge ourselves for buying annually for another two millions of yen different machinery and Japanese goods, and hand same over to Brazilian firms, in consignment, according to a new and most efficient modern system. We point out to you, that the present matter would necessarily prove of *decisive importance* for your whole trade with Brazil, serving as sole footing-basis, but also as absolutely *secure* and affording a rapid expansion of your business with Brazil. We therefore take the liberty of handling this point more thoroughly. We must say, we quite realize that said proposal requires great sacrifices from our part, but in your own interest we consider them as being necessary. Also we point out that the undermentioned proposals are founded upon personal experience of twenty years, in the exporting and import business and we want you to realize that, concerning imports, we do not intend marking any profits, as hereunder explained, so that our proposals to you are free from any personal interests.

To begin with, it would be indispensable that your import-transactions were free from any commissions or mediation-profits. It is absolutely necessary that the firms receive clean factory-prices. We all know by practice and experience that the smallest endearment, even if insignificant, acts in this country deplorably upon the increase and expansion of trade. Also we are aware that: *All firms desire to buy directly from the factories*, so much so, that they make propaganda for their "direct import" with efficient results. Consequently it would not do for us to serve as agents or mediators for you, neither could importation-goods be charged with any commission on our part. That is why our profits must be exclusively limited to deals with ores, and here we are obliged to earn and cannot do without profits. However, we are under the impression that a commercial union on a large scale, as we pretend to open with you, would prove specially prosperous, if we, on our part, place at your disposal all efforts, all our business relations as well as those with

freight as 13 sh. per ton, the price obtained would come to 7, 88 d cif Rosario. The very recent contracts with the U.S.A. were closed at 16 cts. delivery fob—7, 68/d. You have, besides the possibility of selling part of your ore-contract to other Countries, shipping, naturally, directly to them, specially England, Belgium, Italy, Germany, Sweden and Tchecoslovaquia.

As your commercial balance with some of these countries is strongly passive it should be easy for you to reach your purpose and the Japanese firms could make larger orders for machinery from such countries pending the purchase of your ores (triangular compensation-business).

To make a start in the business, we also would be willing to close contract for half the aforementioned quantity. In that case, it would only seem natural that also all our purchases would be reduced to half. We furthermore would be able to supply you for part of your contract, with other ores such as Chrome, Wolfram, Titan, Thorium, Copper, Zinc, Mica, Zirconium, Quartz, but we draw attention to the fact that all these mines are located in the State of Bahia, including the Chromium.

#### OUR PURCHASES:

a)—Fleet and Equipment.—We, on our part, are willing to buy from you the fleet, which we shall need for the transports of manganese ore from Corumba to Rosario (Argentine). This fleet would consist of 24 groups, of each:

1. tung-boat of the usual type
  2. lighters for 500 tons cargo each
- } 1000 tons.

which would be equal to a total of twenty-four tugs and forty-eight lighters. The tug-boat must be worked on oil and have 700 H.P.

Then, secondly, we need machinery and mine-equipment, as well as embarkment-apparatus's for loading, as well as a small railway (20 km.) narrow gauge, serving for the transport of the manganese from the mines to the port of despatch. All the abovementioned we are ready to buy from you.

We tax the value of the fleet, including all installations, equipment of the mines to reach the figure of about 4 1/2 millions of yens. The Payment of this sum would be realized in five annuities, and we call your attention to the fact that English ship-builders, like other of foreign descent, whenever dealing with larger business, accept this kind of payment without any difficulty, and even give longer sight. Naturally, we are ready to concede you all respective securities and guaranties. These, in accordance with your wishes, would consist either in "reserva de

sales in Brazil and who would have to control custom-taxes, in order not to have goods exported that are subject to prohibitive Custom-charges.

After receipt of one or two consignment lots, the Brazilian firms in future would naturally be induced to buy for own account and in case such firm realized good business with said goods, there would hardly be any difficulty—as experience proves—for starting purchases on fixed account. The Brazilian firm would then, in future, buy *directly* from the Japanese manufacturer or exporter and *We* would go out of it altogether, as we solely served the purpose of starting and relieving the first transactions. The secret of rapid development of Japanese trade consists in avoiding, if possible, the sending-across of all preliminaries, or samples, that take away time and instead of that, supplying merchandise from the very beginning. Guided by this principle, you will not only economize months, but years to which comes the fact that 3/4 of all business delayed, loses interest and ends without the least result.

You will realize that for *US* this consignment-business is of no profit. On the contrary, we know very well that consignment business very often brings about losses, so much so that we count upon one of ca. 10 % by it. We know this and we would not mind it, as long as we can get the respective balance in our transactions of ore.

**GENERAL VIEW OF OUR PROPOSALS:**—In short, we are of opinion that we must consider the whole of the abovementioned business from a superior point of view. It is not essential if this or that transaction offers profit or loss, but the main importance lies in the fact that *you* realize your chief aims and that *we* arrive at ours. That is why *WE*, with all all means at our disposal, wish to help you in opening Brazilian markets for Japanese trade and rely on *YOU* to help us in the expansion of our mining and ore business. This procedure is bound to lead to secure success.

**YOUR COMMERCIAL BALANCE WITH US:**—Considering that the greater part of the consignment-transactions realized for you by us would normally lead to regular and direct purchases from Brazilian firms, in which we later on would not any more be involved, but which, as a fact, are the results of our consignment-deals it is clear that in consequence of our purchases for two millions of yen there will result other purchases, made by Brazilian firms, bringing three to four times more than the firstmentioned sum, so that, calculating these sales in our fav-



this Government, as well as all our experience, for the sole purpose that you may realize your chief aim which is: opening Brazilian markets for your industrial products.

If such be realized, if we helped you to reach this object, to capture in a rapid and unexpected way the Brazilian markets, you would fulfill all aims that for you are of the greatest importance, and the advantages would prove so great, that, may be, it would not seem so important to you now, to make a contract on a still larger scale with us, as was your intention.

**CONSIGNMENT BUSINESS:**—On the whole, it is not quite easy to introduce new articles into Brazilian markets. The firms, as a fact, do show certain interest, ask for samples and catalogues. Yet, after having received them, they generally are with the greatest difficulties induced to buy for own account, not even wishing to do so in a small scale, but they prefer to take consignments and more consignments. Now, whoever knows anything about exports, is aware that the consignment-deals are not among acceptable transactions, neither for Japanese exports, nor Japanese manufacturers. We are, however, obliged to inform you, due to thorough knowledge of Brazilian trade, that without consignments in a larger scale you will be subject to the greatest difficulties, for starting business. These motives lead us to propose that *WE* give such consignments to Brazilian firms, i.e. in case any Brazilian firm require certain goods for a consignment-business, *we* on own account would buy said goods for fixed account from the respective exporter or manufacturer in Japan, paying immediate cash for same. Upon arrival we would put said goods into the respective firm's hands in consignment, and this at the original factory-price. To make sure, we are neither agents nor mediators, we would hand over to such firms a "Guaranty-Certificate" (Certificado de Garantia) in which we assume the liability that all prices are the original factory ones and that all consignments are made by us, due to arrangements according to which our credits resulting from compensatory mineral and ore transactions are covering payment of such business.

If some Brazilian firm asks for samples, prospectus, and catalogues, we immediately would propose handing over a certain amount of respective good in consignment, a deed which is always accepted with greatest possible satisfaction. In such case, we would be able to count upon two or three gentlemen in Japan, with sound knowledge of trade, who would pledge themselves that only such articles were sent over, as find ready

terests.

2)—You need here in Rio de Janeiro a Japanese Bank, which would give credit facilities for business with those firms, that work with Japanese merchandise, and possibly it might be the "Yokohama Specie Bank" who already has an Agency in this Capital. The mentioned financial facilities must be extensive to the following transactions:

Every time that import-firms sell goods to re-sellers, such sales are generally brought about by means of a bill, called a "Duplicata" with 90 days sight. For your guidance please note that national bills in Brazil take the name of *Duplicatas*, differing from other bills only by name and in fact being bills that unite all normal capacities, i.e. they can be sent to protest, they can be endorsed and be subject to discounts. The Japanese Bank would discount such "Duplicatas" at 90 days' sight, and these discounts of such "Duplicatas" are realized without difficulties, because all Banks here are used to discounting them and they are being re-discounted by the Banco do Brazil.

The *important* item lies in the fact to get the Japanese Bank to finance the *instalment-transactions*, a matter actually giving serious trouble to many firms, as many Banks refuse to finance such instalment-business and even if they care to undertake it, they do so insufficiently. Unfortunately, as said above, this system of instalment-transactions is so generalized, that 80—90% of all goods, exceeding certain sums, are being sold to consumers in this way, always by aid of a contract for holding property-rights (*reserva de dominio*). It is necessary to arrange, that firms working with Japanese goods can sell such merchandise to consumers in 15—20 monthly instalments, and this without much extra "onus" to the Brazilian firms. This would signify that the Brazilian firms would have possibilities of receiving loans on the mentioned "Duplicatas," signed by the customers and endorsed by the selling-firm. Such credit facilities must be extensive *exclusively* to the sales of Japanese goods, and *never include others*. In order to give you a better idea of the way this instalment-business is being handled in Brazil, we attach hereto an example.

The financing of all instalment-transactions might possibly be done as follows: The selling firm endorses and hands over the "Duplicatas" to the Bank for safekeeping (Caution). Moreover, the selling firm transfers the whole contract, and with it the property-rights on the goods, to the Bank. On this footing, the Bank opens a current account in favour of said firm, to the limit of, say, 80% of the total worth of the Dupli-

our and considering, moreover, the other purchases of the fleet and its equipment, your commercial balance with us will in a very short time be equal.

**ORGANIZATION OF THE JAPANESE TRADE IN BRAZIL:**—Regarding the final organization of the Japanese transactions in Brazil, we take the liberty to advise you the following, due to our experience of the respective market-conditions:

There are three items to be considered: 1)—You must refrain from opening branch-houses in this Country, wanting to sell direct to consumers or retailmerchants. This would be the greatest possible mistake, to make. You would, thus, appear as dangerous rival to Brazilian firms and said firms would consider you their enemy. In consequence, Brazilian firms would, in order to defend their existence, do all they possibly could, to demoralize Japanese goods. Such rivalcampaign, of most doubtful exit, must be avoided by all means. The chief thing for beginners is to obtain, so to say, a *moral* victory. You must enter into an alliance with Brazilian firms, never fight against them, but manage to get them to *work in your favour* to fight for you, which means that you collaborate with the native firms. Moreover, specially at the beginning, you would help your collaborators as best you can, offering reasonable prices, giving them consignments and financial facilities. Business with Japanese goods must achieve the reputation of being excellent deals. If you win such reputation, that is sure to get if you follow our advice, you will in very short time, obtain results, that are beyond your greatest hopes. Our opinion, above, concerning branch-houses, does not exclude that, after two or three years gone by, you might, if seeing special advantages by doing so, consider opening branches of your own. But this is only advisable after a lapse of two or three years, i.e. when the reputation of Japanese goods is firmly safeguarded. Perhaps it would not be unwise if you, from the beginning, had a branch-house here, supposing same does not sell direct but takes the position of an office, for effects of inspection and informations financial, as well as commercial, however for many people even this would mean suspicion, and basis for mistrust, knowing that it would be very easy to modify and transform it into the system of direct sales. The best thing to do would be to have 2—3 reliable gentlemen of your firm in this Country, who would make part of the Commission that is to be organized in the Foreign Office (Ministerio do Exterior) or else could safeguard your interests within our firm and who, thus, joined us in the furthering of your in-

2)—A Japanese Bank in this market must finance the sales at 90 days and give special attention to instalment-transactions.

3)—Brazilian importers must obtain 90 days' sight documents against acceptance.

The above is, in Brazil, for the actual moment, the secret and key of secure success. If you manage to handle these three points satisfactorily, the Japanese trade in Brazil will, in a very short time, expand to such extent, as you, may be, never would have thought.

Closing this letter we would be pleased if, in case our proposals in a general line meet your wishes you could send us over a competent expert as soon as possible and, if you can, a second one for the ships, so that both of them might work out the whole business together with us. Also we would ask you, that in case one or another of our proposals does not seem convenient to you, to let us have your fixed counter-proposals, so far without compromise, so as not to lose too much time, as air-mail letters take almost twenty days to reach you.

Awaiting your reply with great interest, we sign

Yours truly

Attached one example.

catas. It would be of the greatest importance for the Japanese Trade if they managed to get 80%. We are of opinion that, in this special case, there should exist no doubts as *firstly* the customer as issuer of the Duplicatas is liable for the money, and *secondly* the selling firm guarantees by endorsement, and also *thirdly* because,—and this is the main reason—the proper ownership, or say property-rights, have been handed over to the Bank, so as to give a *real* guaranty and impossibilitating thereby losses. If it were only possible to secure the limit of 70% or even 60% the Japanese trade would *decrease* considerably, as in that case the Japanese goods sold by instalments would not any more offer the special advantages and would show financial “onus”, specially if such business were done for great amounts.

3)—You must see to the fact that importers in our market, buying directly from merchants in Japan, receive 90 days' acceptance documents. This is to say that the mentioned documents are to be handed over against acceptance of the bill. These terms for payments have, for many years past, been the normal ones, for all business done in Brazil.

In case you would find it difficult to grant the above, there would still remain the chance of the Japanese firms drawing against *us* payment in exchange for documents and we, on our part, could draw against the Brazilian firms at 90 days. Such duplicatas of ours must be discounted by a Japanese Bank, while the Banco do Brasil effects re-discount.

As, in import-business we do not earn anything, the discount-charges ought to be restituted to our firm and at the same time we would ask you to safeguard us from losses by private contract with us. Also you might realize all we just wrote about with some other firm, that seem convenient to you, instead of with us, perhaps even with some branch-house of your own, always supposing it only serves financing purposes.

#### SUMMARY OF THE THREE MOST IMPORTANT ITEMS :

1)—Do not open own branch-houses to sell direct to consumers or retailmerchants. The business must be done in conjunction with Brazilian firms. Its *essential* for a rapid development that merchandise be sent from the very beginning, and delivered by us as consignments to Brazilian firms.



Rio de Janeiro, 27 de June de 1935.

Dr. Takahito Iwai, Esq.  
TOKIO.

**Manganese-Ore.**

Our mines at Urucum, Matto Grosso, Crosso, consist of a larger number of manganese and iron mine-chambers.

This is a very hard ore, and it corresponds, essentially, to the ores from Bahia, ores of which you already received various samples.

The ores contains ca. 48-50-52% metallic manganese and we find small quantities with even 54%.

The contained moisture is a minimum one, generally below 1%.

The phosphor-percentage is the same as it is in Bahia, generally 0,1-0,15%.

Silica as a rule 1-6%.

Other mines contains ca. 40-44% metallic manganese and 15-20% metallic iron. Also this type has been greatly exported. Would this type be of any interest to you?

In case our proposals could interest you in a general sense, it would always be advisable to send over a professional expert as quickly as possible, so as to proceed together with us the necessary local examinations.

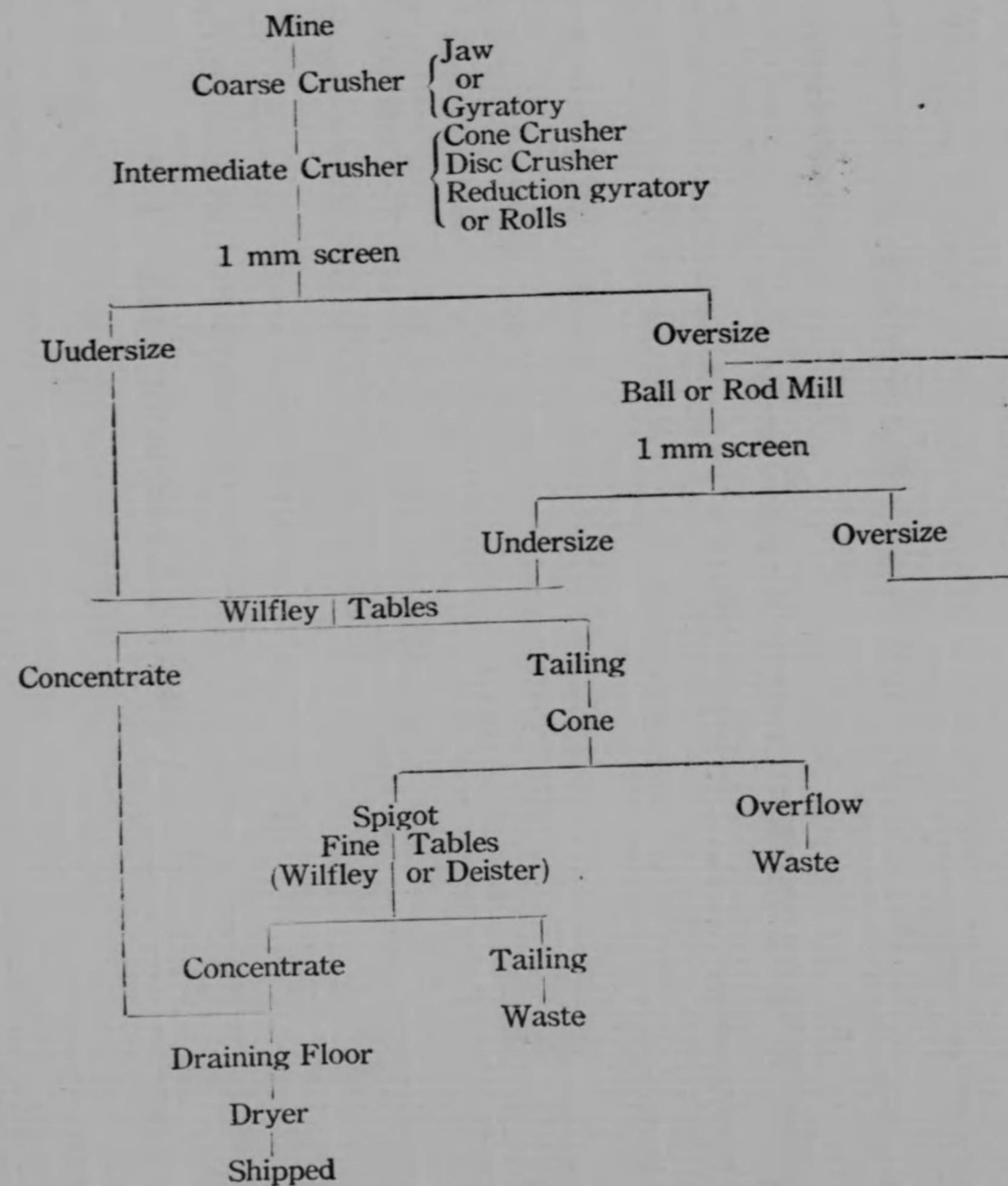
Sincerely yours.

**ATTACHMENT**

**Example:** Supposing a customer buys a motor-car on October 1st, the price of which, at sight, would come to Rs. 20:000\$ (ca. 4000 yens) For liquidations in *ten* instalments the customers are used to an increase of 10%, whereas for payments in *twenty* instalments they are subject to an increase of 20% (without interest). As a rule they enter with 10-15%, the maximum being 20%. Said customer buys the motor-car in 20 instalments for Rs. 20:000\$ plus 20% which would signify Rs. 24:000\$. He pays an cash-payment of 10% which is Rs. 2:400\$ in cash, and pays the remainder of Rs. 21:600\$ in twenty monthly instalments, each to the effect of Rs. 1:080\$. All business done in instalments is closed by contract for "*reserved property-rights*" (reserva de dominio). The customers when closing such business, sign a contract by force of which the seller keeps on, holding property-rights on the merchandise, until the last instalment-payment has been effected. Also such contracts always contain the stipulation that, in case of not paying punctually any instalment, the customer is subject to *returning* the goods and also to the loss of said merchandise losing the inicial payment as well as all instalments already paid, which are considered to serve for paying the rent and the depreciation-losses. In case the customer declines to, willingly, restore the goods, the selling firm has a right to get them fetched away by legal proceedings, as in accordance with the contract, they still hold property-rights. In view of such severe stipulations the customers always do all they can to punctually fulfill their monthly instalment-payments.

Besides the contract, the customer has to sign, for the twenty instalment-payments, the 20 respective Duplicatas, the first one falling due on November 1st, the second on December 1st, etc.

**Concentration-plant  
of chromium-ore.**



27 June 1935.

Dr. Takahito Iwai,  
TOKIO.

**Chromium-Ore.**

Our chromium-mines are located in the State of Bahia and are the largest of the whole of South America.

The ore consist of a central hard substance, containing ca. 42-43%  $Cr_2O_3$ , surroundet by a softer one, which shows a percentage of ca. 30-32%  $Cr_2O_3$ .

The quantitive propotion of these two qualities is ca. 1:1, so as to afford a medium of ca. 37%.

Until this day only *the hard substance* of 42-43% has been exported in large quantities to the U.S.A., while the softer part with 30-32% remained at the mines. However, this doee not suit us. We, therefore, need an installation for the concentration of this ore and have already received an offer to this purpose from a German firm (Humboldt-Deutz). By means of the mentioned installation, according to the guaranty of said firm, the porcentage can be raised to 50-52%. The metioned installation is calculated for producing 50,000 tons concentrated substance p. annum (day of 24 hours). For furnishing the necessary power must be offer a Diesel-motor with electric Dynamo. (200-250 H.P.).

We also received an offer from the U.S.. Would you be able to supply us wsth such an installation as we need? If this be the case, let us have your offer with the greatest possible speed.

We give you, undermentioned, the necessary analysis:

<i>Medium</i> analysis of our chromium-ore of 37%.	According to factory-indications this ore <i>after</i> concentration will show, more or less the following analysis:	Has been exported to the U.S.A. the hard centre-substance of 42-43%.
Moisture 0.30	$Cr_2O_3$ 50-52%	American analysis:
$Cr_2O_3$ 37.00	Fe and $Al_2O_3$ 35-40%	Moisture 0.04 - 0.08%
Oxide of iron 0.36	$SiO_2$ 3-5%	$Cr_2O_3$ 42.60-43.80
Protoxide of iron 14.07	Magnesia a few %.	$Al_2O_3$ 14. -16. %
$Al_2O_3$ 17.26		$SiO_2$ 5.95-7.38
Silica 9.60		Fe 10.6 -13.82
Magnesia 15.24		
Calcium 3.26		
Phosphoric anhydrite 0.20		
Manganeseoxide 0.92		

We confidentially submit you the concentration-plant of the American offer.

Sincerely yours

## 林産品

### 一、油種子 Babassu (ババスマット)

ババスマットの果仁にして食用油脂として最高級品のひとつ。

生産地 Amazon, Maranhao その他北伯全般に亘る。

積出港 リオ、ビクトリア、バヒア、ペレン、マナオス。

生産量	一九三〇年	二二・八四五噸
	一九三一年	一三・八八六噸
	一九三二年	一八・八八五噸
	一九三三年	一一・九〇〇噸
	一九三四年	五・〇〇〇噸

年々輸出減少せるは國內搾油業發達の爲ならん。果實は直徑三寸位あるも、油の取れる核は直徑五分位のもの三つあるのみなれば搾油して油を輸出する方運賃の關係上遂に有利なり。北歐洲産業國各地に取引せらる。

取引問合先 伯國外務省日本課。

### 二、カルナウバ蠟

産地 セラア州及バイア州。

種類 (一) Flor 最上品

- (一) Fub Euality 一等品
- (二) Gordurosa 中等品
- (四) Arenoso 下級品

セラア州生産品が良質なり。

セラア州に於ける取引状態

アメリカ商人農夫に前貸をなし、自ら收穫物を検査して受取る。商人は政府の検査を受ける。取引希望者は伯國外務省日本課に御問合の事。

### III、Peroba

種類 建築用材(主として床板用)。

産地 聖州。奥地より自動車及び鐵道にて搬出す。

出廻季 四月—九月。

輸出港 サントス。

支拂方法 積出港渡にて現金決済。

値段 長さ三米突乃至六米突、直徑四〇センチ乃至六〇センチ。丸材一米突立方サントス甲板積渡値段一六〇ミル。

輸出商 Centro do Comercio e Industria de Madeiras : Sao Paulo

四、Ipê

種類 建築用材。

産地 聖州。奥地より自動車及び鐵道にて搬出す。

出廻季 自四月、至九月。

輸出港 サントス。

支拂方法 積出港渡しにて現金決済。

値段 丸材一米突立方サントス渡二一〇ミル、長さ三米突乃至六米突、直徑四〇センチ乃至六〇センチ。

輸出商 Centro do Comercio e Industria de Madeiras : Sao Paulo.

#### 五、Faveiro

種類 建築用材。

産地 聖州。奥地より自動車及び鐵道にて搬出す。

輸出港 サントス。

支拂方法 積出港渡しにて現金決済。

値段 丸材一米突立方サントス渡二一〇ミル、長さ三米突乃至六米突、直徑四〇センチ乃至六〇センチ。

輸出商 Centro do Comercio e Industria de Madeiras : Sao Pauls

#### 六、Canellao

種類 建築用材。

産地 聖州。奥地より自動車及び鐵道にて搬出す。

支拂方法 積出港渡しにて現金決済。

値段 丸材一米突立方積出港渡一六〇ミル。長さ三米突乃至六米突、直徑四〇センチ乃至六〇センチ。

輸出商 前記と同じ。

#### 七、Jacarandá

種類 器具用材、特殊の建築用材としても使用し、日本の黒檀に當る。

産地 聖州。奥地より自動車及び鐵道にて搬出す。

支拂方法 積出港渡しにて現金決済。

値段 丸材一米突立方サントス渡二六〇ミル。長さ三米突乃至六米突、直徑四〇センチ乃至六〇センチ。

輸出商 前記と同じ。

#### 八、Cabreuva

種類 器具用材。

産地 聖州。奥地より自動車及び鐵道にて搬出す。

積出港 サントス。

支拂方法 積出港渡しにて現金決済。

値段 丸材一米突立方港渡二七〇ミル。長さ三米突乃至六米突、直徑四〇センチ乃至六〇センチ。

輸出商 前記と同じ。

#### 九、Cedro

種類 器具用材、日本建築なれば建築用材として使用する事を得。  
 産地 聖州。奥地より自動車及び鐵道にて搬出す。  
 支拂方法 積出港渡にて現金決済。  
 値段 丸材一米突立方、積出港渡二六〇ミル。長さ三米突乃至六米突、直徑四〇センチ乃至六〇センチ。  
 輸出商 前記と同じ。

十、Marfim.

種類 器具用材。  
 産地 聖州。奥地より自動車及び鐵道にて搬出す。  
 支拂方法 積出港渡にて現金決済。  
 値段 丸材一米突立方積出港渡二〇〇ミル。長さ三米突乃至六米突、直徑四〇センチ乃至六〇センチ。  
 輸出商 前記と同じ。

サンパウロ木材組合よりの來信譯文次の如し。  
 拜啓 陳者我組合員と貴使節團員各位の代表せらるる諸商會との商取引の可能性に關し後日の研究の爲に我知友マンスエツト・コシンスキー氏を通じて御問合の件に關し左の通御回答申上候。

(一) 輸出せらるべき主要木材の種類如何。

答 二部に分ちて回答す。

(A) 建築、橋梁、枕木、其他土木用材として輸出せらるべきものと思考さるるものは左の如し。

ペローバ、イペー、ファヴエイロ、カネロン

(B) 家具其他類似品向材としては左の如し。

ヂヤカラランダ、カブレウーブア、セードロ、マルフィン及バラナ州サンタカタリーナ州の原産たるインブイヤ、カネーラ等。

(二) 一立方米若くは一噸に對する價格如何。

答 價格は取引の際に於ける市場の狀況により高低あるも御参考迄左の諸材の時價を回答す。

ペローバ	長さ三米乃至六米の幹材	一立方米に付一六〇ミル
イ	同	二一〇ミル
ファヴエイロ	同	二一〇ミル
カネロン	同	一六〇ミル
ヂヤカラランダ	同	二六〇ミル

カブレウーバ	同	二七〇ミル
セードロ	同	二六〇ミル
マルフィン	同	二〇〇ミル

之等木材の直径は四〇糎乃至六〇糎とす。

(三) 大量輸出を行ふ木材工場如何。

答 事實上サンパウロ州には頻繁なる木材輸出行はれず二、三の商會にして相當輸出を行へるものあるも右は關係者間に連絡的商業協定無き爲、經濟的成算無しに試験的に行へるのみなり。

(四) 輸出期如何。

答 サンパウロ州に於ては輸出には四月より九月迄の時期を選ぶべきものとす、何となれば同期間は一般的に雨少く乾燥期なればなり。

(五) 支拂方法如何。

答 其の他一般の輸出と同様銀行を仲介として船荷證券に依りて支拂を行ふべきものとす。

(六) 輸出幹材の長さ如何。

答 輸出業者輸入業者兩者の利益の爲に最適當な長さは各材木共三米乃至六米とす、但し例外的な場合にはこれを變更することを得。

(七) 輸出向薄板材の長さ如何。

答 松材とカネーラのみ薄板材として輸出され居れり。

當州の木材は幹材にて輸出するを得策とするも豫め兩者間に協定あれば薄板材の輸出も試み得べし。その爲には消費市場の要求を知悉せる購買者の説明を必要とすべし。

但し當州の木材の薄板材による輸出は當州にとりても又購買者側にとりても面白からずと思考せらるる處天候不順又は運搬中の事故等の影響少く、又消費者の希望に従つて目的地に於て自由に薄板にも爲し得るが故に幹材又は厚板による輸出を選ぶ方得策と思考す。

以上

右御回答申上ぐると共に貴使節が所期の目的を充分達成せられん事を祈上候 敬具

サンパウロ木材業者組合

書記 アミンタステ・ファエロソブラル

訪伯日本經濟使節 各位

尙、参考として野田良治氏著「ブラジル人國記」、「大アマゾンヤ」中より拔萃せる右の木材に關する説明次の如くである。

スロバ・バルダ (學名 *Aspidosperma Gomesianum*, Fr. Allem.)

材色褐色で一層濃厚な色の脈線を有する。その抵抗力強きと永續性との爲にブラジルで最盛に使用さる。造船用材及耐水工事用としては勿論、家屋の骨組、上等家具の製造、土木工事に適する。床張用としても其の永續すると模様綺麗のなるとで第一等材なり。併し最も多く需要されるのは造船用材としてである。高さ百尺乃至百十數尺、直径三、四尺より一丈の大きに成長する。

ペロバ・アマレラ (學名 *Aspidosperma Peroba*, Fr. Allem.)

材色黄で頗る面白き波状の斑紋を現し木理緻密にして抵抗力あり、用途其の他は前記ペロバ・バルダと大同小異なり。

イベ、プレト 一名 イベー・ウナ

材色暗褐色で繊維の間に薄茶色の點粉あり。築港工用、杭及すべての耐水工用に適す。

ベキマー・マルフィン (學名 *Aspidosperma eburneum*, Mart.)

材色淡黄で贅澤なる家具、上等の手函等の製造に用ひられる。

セドロ (學名 セドレラ・ブラジリエンス)

棟料、種類甚だ多く大體之を四種に區別し更に之を細別したるに種數は百三十に及ぶ。木材として最も普通に知られて居るのは「黄色」<sup>「アムレロ」</sup>、「赤色」<sup>「アムレロ」</sup>、「芳香」<sup>「アムレロ」</sup>、「薔薇色」<sup>「アムレロ」</sup>、「偽」なる語を附して呼ばれるものとセドリニヨ即ち小セドロと稱せらるるものと合計六種なり。

成長迅速栽植後十二年で伐採出来る。特徴として多少の香氣あり。保存力強きが上に加工し易く且其重さ(一立方呎二十三乃至四十五封度)の割合に強堅にして割裂し難きも然かもベニヤに割ぐことが出来るからアマゾニア産潤葉樹の白眉とも稱し得べく、其の用途廣くボート建造、建築及造作、家具指物用に適し、殊に葉卷煙草の函製造用として盛に歐米に輸出せらる。

ヂヤカラングー (學名 タルベルデヤ・スプールセナ及マチヤエリウム・アクテイフアリウム)

荳科、學名の異なる通り「普通」、「紫色」の二種あり、又別種も多いが概して幹の高さ十乃至十二米直徑六十厘米乃至一米なり。材色暗褐色なるも殆ど黒色のもの又は煤色に色稍淡き條紋を有するものもある。比重〇・九

乃至一・一五、主として最高級の家具及ピアノの製造用に供せらる。フランス人はブラジルより木材を輸入し、ベニヤとして家及ピアノに製造し外國に輸出す。

インプイヤ (學名 *Neorandra* sp.)

地色は褐色で之に甚だ綺麗なる黒色の脈線を雜へて一見甚だ見事なる木目を現はす、贅澤なる家具及建具等の製造に用ひらる。

## リオドーセ (Rio Doce) 沿岸地帯富源

ミナス・ヴィクトリア鐵道は中央ミナスの農産物のヴィクトリア港向搬出並に東部ミナス殊にリオドーセ沿岸森林地帯の開発を目的として一九〇二年建設に着手せられたり。工事の困難と資金調達難に悩まされて全長約七百公里メートル中ペロホリゾンテより約七十キロを隔りたる *Sa Barbara—Sao José de Iagoa* 間約五十キロは未完成の儘にて、その爲め同鐵道は經濟的に見れば畫龍點睛を缺くの實情にあるが如し。

此の沿線は無限なる鐵礦石を初めとし金雲母、水晶等の礦物を産すると同時に廣漠たる森林地帯横はり、資本と勞力と併せ來り開發せん事を待てるが如し。

### (一) 森林と植民

リオドーセ沿岸は山岳重疊せるミナス州としては比較的平坦地にして兩岸各百キロ乃至百五十キロに亘り處女林を以て掩はれたる肥沃なる地帯なり。

ペローバ、セードロ、イツペー等の建築材料、ジャカラランダ、イムブイヤ等の貴重なる家具用材木豊富なる由なり。

ミナス州政府は經濟使節歡迎の演說中にて州統領の言及せるが如く日本移民を誘入して此の地帯を開發すると同時に日本の資本により木材の輸出を希望せるは明なり。但し同地帯は標高概して低く高き處も二百米突に及ばず、夏季は暑熱激しく且つマラリヤ猖獗にして近年政府の衛生施設の普及人口の増加等の爲めマラリヤは大に激少せりと稱せるも移民誘入には更に一段の調査を要する事と信ず。

木材は汽車にて見渡したる限りはペローバの如き有用材の巨木林立し、政府接待員の言の如くその面積廣大ならんには國內移出を目的としても相當採算をうべし。

木材はヴィクトリアに搬出せんとせば鐵道により運搬する外なく、ヴィクトリア渡し一立方米突の原價は恐らく八十ミル(運賃不明なるも約四十ミルと見て)内外なるべきも、リオドーセの河口に回航するを得て木材の搬出に同河を利用するを得ば運搬費は遙に減じ得る事と信ず。

### (二) 雲母

ミナスピクトリア鐵道の中間に位する一驛フィゲイラ附近は雲母の大産地にして埋藏量は不明なるもブラジル人は無限なりと稱す。市街上所々に燈光を受けて水溜りの如く見えたるもの總て投棄せられたる雲母の集積なりと聞いて一驚を喫したる程なり。

小さきは五センチ四角位より大なるは方一米突位のもの多量に産出すと云ふ。

主なる商人は

Nade Miguel

José Jorge de Mattos

Antonio Alcantara.

等なりと云ふ。値段は調査するを得ざりき。

カ、オ

近年カ、オの栽培を奨励の結果ヴィクトリア港の輸出は



1933. 2,200 俵  
1934. 6,000 俵

と大飛躍をなせり。今後激増を豫想せらる。品質はバヒヤ産と同様なりと云ふ。  
主たる輸出業者は

Theodor Willie & Co.

バヒヤのカ、オは紐育市場經由内地に輸入せられつゝあれども同質のヴィクトリアカ、オは大阪商船の船により直接に内地に輸入し得べし。

珈 琲

Hard Coffee にして且つ精選方法未だ十分ならず、日本への輸出はシロップ用以外見込薄。

其 他

ヴィクトリア附近には油岩、又エスピリトサント洲内には金、水晶、寶石等豊富なる由、リオ・ドーゼ一帯の地と共に調査研究の價值あるが如し。

### 第三章 日本品伯國輸入見込商品

#### 一、概 観

#### 二、輸入障害となれる事項

- A、取引習慣
- B、爲替政策の激變
- C、關稅の研究不足
- D、距離の遠隔
- E、相互の認識不足
- F、金融機關の缺乏と取扱業者の微力

#### 三、國內産業の發達と輸入情勢の變化

#### 四、生産制限に基く輸入禁止令

#### 五、米伯通商協定に就いて

#### 六、重なる商品別調査

# 一、概 観

最近五ヶ年間貿易統計 (單位金磅)

	(輸 出)	(輸 入)	(合 計)
一九三〇	六五、七四六、〇〇〇	五三、六一九、〇〇〇	一一九、三六五、〇〇〇
一九三一	四九、五四四、〇〇〇	二八、七五六、〇〇〇	七八、三〇〇、〇〇〇
一九三二	三六、六二九、〇〇〇	二一、七四四、〇〇〇	五八、三七三、〇〇〇
一九三三	三五、七九〇、〇〇〇	二八、一三二、〇〇〇	六三、九二二、〇〇〇
一九三四	三五、四四五、〇〇〇	二五、四六七、〇〇〇	六〇、九一二、〇〇〇

伯國貿易の趨勢は、一九二〇年を最盛とし、最近に於ては、一九二八年を最高として漸次下り坂となり、一九三三年より幾分恢復の兆候を示してゐる。其の不振の主たる原因は世界的不況による珈琲の輸出減少が直接輸入貿易にも反映し、且海外支拂準備の爲に、極端なる爲替管理政策を實行し、輸入制限を加へたことに基因する處が多かつた。然るに昨年度に於ては、棉花の輸出激増し、不振の貿易に一脈の生氣を與へ、本年に入りては、爲替政策を改め、輸入爲替は總て自由市場に依ることとなる結果、伯國の貿易は今後相當好轉するものと考へられる。乍然一面高關稅に依つて國內工業の發達を促し、漸次自給自足の域に達せんとする傾向を示してゐるので、諸種の事情により國內に起り得ざる工業製品、並に未だ供給十分でない商品を除いては、總括的には大した望みを掛け難いことを痛感するものである。

斯の如き見地より、將來性ある輸入品の重なるものとして、重工業品、機械類、肥料、防蟲劑、農具、生絲、雜貨等が數へられる。石炭を有せぬ伯國は世界有數と稱せらるゝ鐵鑛を持ちながら、鐵鋼製品の大部分は之を輸入に仰がねばならぬ立場にある。果知らぬ面積を持つ伯國の農業は、年を追ふて隆盛に赴くことは當然である。唯勞働者を得るに困難であるから、急増することはないにしても、兎も角農業の有望なことは言を俟たぬ。故に其の必要品である肥料、防蟲劑、農具等が加速度に輸入を増すことは決定的と云へよう。生絲は伯國內に繭の生産が、非常な勢で増えてゐる様に聞いてゐたが事實は之に反し、未だ少額より生産無く、當分大して増加する様にも見えないので、絹物を最も喜ぶ習慣を持つ、伯國への原料としての生絲の輸入は前途大いに有望である。其他勃興しつつある、諸種の工業に用ひらるべき機械類は、最も望み多き輸入品の一つであらねばならぬ。就中世界一の發電可能の水力を持つ伯國の將來は、最も多くの電氣機械を需要する國柄となるであらう。然るに以上述べ來つた重要商品に對しては、殆んど我國からは輸入して居らない。有り餘る生絲でさへも、僅かに紐育から少量の再輸出があるに過ぎないのは、餘りに迂濶過ぎはせぬか。他面我國の綿業は南米の到る處に其の威力を示しつつあるが、伯國に限りては、綿業國として充分に發達し、我製品の入るべき餘地極めて尠なく、僅かに極上等品を英、伊、瑞と争ふと云ふに過ぎない。然し雜貨類は、相當有望なものがあると思ふ。試みに、伯國の首府、リオ市の繁榮區を見るに、其店頭商品の多くは、大部分舶來品であつて、舶來萬能の感がある。其等の雜貨は英、米、佛を始め、伊太利もあれば、和蘭のものもある。瑞西、獨逸と多種多様である。我國からの輸入雜貨も、大分増加して安物には幅を利かしてゐるが、上等物は殆んど無い。嗜好を十分研究すれば、喰ひ入る餘地の大いにあることは争へない事實である。今之等重要商品の過去五ヶ年間に於ける、輸入數量、並に金額を左に表示せんか、誠に思半ばに過ぎるものがあ

る。

(品名)	数 (單位千疋)				金 (千金磅)			
	一九三〇	一九三一	一九三二	一九三三	一九三〇	一九三一	一九三二	一九三三
機械類	五四、八四	二〇、三四八	二〇、六三六	三三、〇六六	四〇、六九〇	七、六二〇	三、〇四八	二、八五五
小麦及小麦粉	八〇〇、六九	八五八、〇〇〇	七七、五九二	八九、六六一	九〇八、四九七	八、二七八	四、七四四	三、六五一
鐵及鐵製品	二五、九七	二七、六九八	二七、三三二	二四、〇九〇	三三、六五七	四、七七二	二、〇九八	一、六〇七
自動車及附屬品	一〇、〇六	一一、一五三	五、一七三	一一、三〇一	二四、一八七	九、五三	八、七六	四、六
化學製品及藥品	四〇、六六	四一、五八一	四〇、六六六	五〇、六六六	六、〇七八	一、五〇〇	一、二三八	一、〇五五
石炭及煉炭	一、九四一、九四六	一、二八五、四九四	一、一八九、四六六	一、二〇〇、二〇〇	一、一三五、三九	三、〇八四	一、六六六	一、二四四
蒔及生絲	四四、六	四八、七	五三、〇	九四、七	七、六六	七、四五	六、〇	五、〇
陶磁器硝子製品	二、二九	六、四八九	七、二四五	一一、九三二	二、二六五	六、七〇	二、九〇	三、三三
毛絲	一、三三	一、〇八	七、八	一、七七	一、四七	五、三	一、八〇	四、五
綿絲及綿製品	一、八四	六、八	五、七	一、一九	八、二	九、九	三、三	二、〇七

更に輸入品を、原料品、製品、食料品に大別すれば、原料品は二割五分、製品は五割五分、食料品は二割であつて、原料品、食料品を合して、輸入の約半額を占むるは、未だ廣大なる土地の開発普及を如實に示すものと謂ふべきである。

翻つて輸入市場に於ける、各國の勢力を見るに、其の投資關係に依る處も多いが、最近では爲替の割當に左右せられ、輸出珈琲の多少が輸入勢力となつて現れて居る感が深い。即ち過去五ヶ年間に於ける、各國輸入勢力の消長を示せば、次の通りである。(總輸入金額に對して各國の占むる%を示す)

(國名)	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年	一九三四年
米	二四、二	二五、〇	三〇、二	二一、二	二二、七
英	一九、四	一七、五	一九、二	一九、四	一七、一
獨逸	一一、四	一〇、五	九、〇	一一、〇	一四、〇
亞爾然	一三、四	一四、六	七、四	一一、七	一一、四
亞爾然	一三、九	三、三	四、〇	五、三	五、八
白耳義	二、八	三、五	三、二	三、八	四、一
和蘭	五、〇	四、七	五、一	五、一	三、六
佛蘭西	三、八	四、二	四、〇	四、〇	三、五
伊太利	二、〇	一、四	二、二	二、一	一、八
葡萄牙	〇、二	〇、二	〇、四	〇、六	〇、七
日本	一三、九	一五、一	一五、三	一三、八	一三、三
其他各國					

一九三三年度に於て、我國は第十二位に位し、下から漸く第十二位を保ち、總金額僅かに、拾六萬九千磅に過ぎないが、將來棉花を買ふことが増加して來れば、必然的に、輸入の増進となり、殊に現在殆んど輸入してゐない重工業品や機械類を本格的に輸入する様になれば、相當の躍進を告げる望は十分あるものと信ぜられる。

尙其他、有望と思はるゝものに、官廳の物品購買並に請負の仕事がある。支拂條件が相當長期に亘る場合多く、今日迄、之が實現を見る事不可能であつたが、日本への輸出品が多くなれば、如何様なる話合も出来ることと思ふ。

入札は一口五十コント(約我國の一萬圓)以下のものは、保證金を徴せず、以上のものは、必ず聯邦政府購買委員會との契約を必要とする。右委員會は、入札を経ずして購入する場合もあるが、入札資格を得る爲には、中央政府

の營業許可を受くる事が必要であつて、若し之なき時は、伯國內に於て、許可を受けたる商店を代理者に選び、右委員會に對して、豫め、商店名義、專賣權、商標代理權等に關する登録を爲し置かねばならぬ。兎も角、此の方面にも十分の注意を拂ふことが必要である。

## 二、輸入障害となれる事項

### A、取引習慣

現在日本よりは、大抵一覽後卅日 D/P、又は一覽拂 D/P が多い様であるが、英、米、獨、何れも長期のクレデिटを與へ、且殆んど D/A にて一覽後、又は日附後六十日乃至百廿日のサイトを附することが普通になつてゐる。是等の取引習慣の相違は、日本品買入を躊躇せしめてゐることが甚だ多い。大體支拂振は、そう悪くなく、多少遅れるものもあるが、踏み倒すと云ふものは少ない模様である。一覽拂 D/P でも英、米、獨が殆んど D/A である關係から、品物を見てからでないといふ、手形の支拂に應じないと云ふもの相當にあり、現在「トラスト、レシット」と引換に、支拂前に品物の一時引渡をなすことが大分行はれてゐる。故に D/P 必ずしも安全でなく、値下りを生じた場合等、何日迄も支拂せぬ様なことがあつて、寧ろ D/A で早く品物を引取らし、手形の引受をなさしめる方が、より安全であると、銀行業者は見てゐる様である。尙 L/C の發行は政府の命令にて禁止されており、L/C 付の商取引は當分不可能である。

併し本氣で日本品を取扱ふとするものが増加して來れば、條件の多少の不利は、先方も辛棒するだらうし、こちらにも、先方の信用が十分判れば、英米の條件に接近することは取て不可能でもない筈である。唯我國の現状は

L/C を要求し、D/P を金科玉條とする關係から、伯國のみならず南米の多くの取引に不便を感じるものが尠くない。之を補ふの途は、有力な商社が自ら支店、出張所を設置するか、又は信用調査の機關を充實することが、最大の急務である。

尙商標登録について、充分の注意が肝要である。登録を怠つたが爲に、商標權を侵害され、其の商品の輸入を不可能ならしめた例は相當多いと云ふ事である。故に輸入の當初に當つて、直ちに其の商標を登録することが、最も必要であると思はれる。

### B、爲替政策の激變

過去に於て、伯國の爲替政策は幾度か變改され、其都度貿易業者をして呆然自失せしめたものであるが、本年二月十四日に至つて、稍正常に返ることとなつた。即ち輸出爲替の三割五分は、政府の公定相場によるの外は、輸出入共、自由市場に於て取極め得ることとなつて、従來行はれた爲替管理による輸入制限は、兎も角も無くなつた譯である。

兩三年來の輸入爲替の凍結された資金は漸く解決の運びに立至つたが、之が爲に輸入業者に與へた打撃は、並大抵のものではない。従つて貿易上影響する處が多かつたが、それが形の上でも解決されたことは、伯國の爲にも、大いに祝福してよいことである。唯將來再び爲替政策の變更を見る様なことが無いか何うかは、誰も豫測することが出来ないで、依然として不安の残るのは止むを得ない。

現行自由市場に於て、買持制限の規定は畢竟輸出獎勵、輸入制限を目的としたものであつて、當日の輸出爲替、資金爲替其他一切の銀行買となるものは、之を廿四時間以内に賣却し、差引買持となることを許さぬ。元來

輸入手形は常に規則的に市場に現はれ、市場は常に強氣に向ふ傾向があるが、買持禁止の爲に、爲替の昇騰は、實際取引の高に拘らず、直ちに市場の標準相場となつて輸入業者は甚だしき不利を蒙る場合が多い。

現行爲替管理法の施行は、之をブラジル銀行爲替局長に委託してゐるので、爲替政策變改の自由なると共に、其運用の巧妙、迅速なることは、市場に著しき浮動性を加へ、且不安の原因を爲してゐる。幸に割當制が廢止されたが、若し又政策の變更を見るが如きことあらば、輸出の未だ少い今の日本の現状では、忽ち一たまりもなく蹴落されて終ふことは必然である。

以上述べ來つた如く、爲替の關係よりして伯國貿易は、到底片貿易を許さぬ立て前にある。我國よりの輸入を増加せしめんとせば、先づ伯國物産を買ふことが前提である所以は充分理解し得らるゝ所である。

### C、關稅の研究不足

伯國關稅は、敢て國內産業の保護のみを目標としたるものでなく、其出發點は收入主義にあるが、年を追ふて高率となり、或る種のものには、禁止に近き處迄引き上げられて居る。而して一九三一年及び一九三四年に變改され現在實施せられて居る關稅法は、普通、最低、報復の三種に分れ、普通と最低の間に二割の開きをつけ、附加稅は一律一割に改められ、納稅は紙幣にて行はれる事になり非常に便利になつた。最惠國約款の存する國には最低稅率を課してゐる爲、諸外國との間に多數の相互主義の協定を締結してゐるが、我國としては總て之に均霑することが出来るので、別に不都合を感じる處がない。唯貿易が追々増進して來れば、他同様、兩國間に都合よき特定商品に對する關稅の協定を必要とする時代は、遠からず來るものと考へられるが、未だ今日は其の時機に至つて居らない。

現在我國に於ては、日伯間の貿易尙不振なる爲に稅率適用に對する研究が更に行はれておらず、不當なる課稅を受くことが甚だ多い様である。例へば風袋込の課稅に對し包紙、又は其他の包装材料に對する注意を缺き、又はラヂオ等に僅かなる裝飾を施せる爲に、共に高率の課稅を受けた事もあつたさうである。本來の稅金が高いのであるから、些細なる不注意の爲に他の高率なる稅番の適用を受け、不測の損害を蒙らぬ様注意する事が必要である。故に關稅定率法より見て、商品を指導する必要ありと考へる。

尙伯國關稅の高率なる結果、高級品の密輸入が相當行はれつゝある様に聞くのであるが、他の國に於ても關稅が非常に高いものに限りに、さうした事行はれた例は決して絶無ではない。密輸入品の爲に、正道を踏むものは、其の競争に耐えられず、其れ等産業をも毒する事甚大なるものがある。且關稅收入の上から見ても、稅率を下げた結果密輸入の危險を犯すの要なく、之が爲に却つて關稅收入を増加せしめた例は、相當見受けられる處であつて、若し伯國に於ける密輸入が事實とせば當局者の一考を要する處であらう。

### D、距離の遠隔

日本、ブラジル間の直航船は、現在約四十五日を要するのである。英、米、獨、共に廿日以内を以て供給し得るのに比し、運賃の差損は素より、相場の変動に對する危險、流行並に嗜好の變遷より受ける不利は、競争上非常なるハンディキャップとなつてゐる。又先きの船で着いた商品のデザインは、悉く次の船の着く迄に模倣されて終つてゐる様な事も、實際、目の當り見る事實である。元來遠い處は相互に親しみが無いのみならず、事情が判らぬから、不利を招くことは往々あることで、之等に對しては他に種々方法を購する必要があるが、差當つて日伯間の直航船の日數を短縮し、せめて三十日位にして欲しいものである。

## E、相互の認識不足

伯國へ来て見て、伯國人が日本及び日本商品に対する認識の極めて幼稚なるに驚いた。日本に於ても亦そうした憾が充分ある。我等も出發前迄は、伯國に對する認識は甚だ乏しかつた。何しに伯國へ行くのかと審る人さへ相當にあつた。こんな有様であるから、伯國に何が賣れるかと云ふ研究が、ほんの一部の當業者によつて爲されてゐたに過ぎない。又伯國に於ては、日本工業の最近の發展振りなど夢にも知らう筈なく、日本の活動寫眞を映寫すれば、出て来る軍艦、飛行機、其他を見ては、之も日本で出来るのかと驚いて尋ねると云ふ有様、日本品の廉價良質を知らしめる爲には、中々の努力が必要である。機會ある毎に、例へばリオ市とサンパウロ市にて、年一回宛開かれる工業展覽會には、機械類を是非出品して、歐米品と對照、研究する機會を與へたい。何か常設的に、或は季節的に民衆に日本商品を知らしむる設備をすることも必要である。或る筋に於て、日本商品を主とした百貨店を作りたい希望を持つて居らるる様であるが、之などは確かに有望であるのみならず、日本商品の宣傳には最も効果があると思はれる。

相互の認識を深める最もよき方法の一つは、我國より今回の使節が行つたと同じ様に、伯國側に於ても、有力なる實業家を網羅した視察團を作り、日本の現状を具さに研究し、伯國側の希望を日本の商工業者に直接知らしむると同時に、伯國の欲するものを指摘し、實際取引に入るのが一番適切有効なる捷路である。

## F、金融機關の缺乏と取扱業者の微力

伯國に於て我銀行の支店を有するもの、僅かに横濱正金銀行が、リオ市に一ヶ所あるのみである。リオ市以上に貿易關係深きサンパウロ市、又はサントス市には何の設備をも持たないのである。リオ市に於ける正金銀行は古びたる小さな家屋内に蟠居して、僅かに存在を示してゐるに過ぎない。米國のナショナル・シティ・バンクの如き活躍は望めぬとしても、少くともサンパウロ市に支店を置き、リオ市も今少し擴張して、日本商人の爲に指導の地位に立ち、前途大いに有望ならんとする日伯貿易の爲に努力されんことを切望して止まない。如斯金融機關の缺乏は、方に本格的な輸出が行はれんとする棉花の取引に對し、不便を感ずることが非常に多い。日本から來る輸入品に對しては未だ少額に過ぎないから、現在の正金銀行で賄ひ得るかも知れぬが、我國への輸出棉花の金融は、現在既に大部分ナショナル・シティ・バンクが掌握してゐる有様である。今後と雖も、同行の活躍は如何なる金融にも事を缺かさぬに相違ないが、正金銀行の活躍は、日本商權を擁護するに是非必要であることを高調し度い。最初多少の犠牲を拂つても、貿易額の増加に伴ひ十分理合せ得ることは、當局者も夙によく知悉し居らるゝのであるから、貿易額が増えてからと云ふ目先の考でなく、大局から見て、速かに何分の考慮を煩はしたいものである。

現在日本品の取扱業は一二を除いては殆んど無力と申してよい状態にある事は甚だ遺憾である。日本に於ける有力なる商社は、申し合せた様に支店又は出張所を設置して居ない。丸で伯國と云ふものを見切つて居る有様である。之では何時迄経つても、日本の商權を擴張し、日本商品の眞價を知らしむるに由がない。昨年迄は珈琲が七八割を占むる輸出品であり、其輸出が爲替の割當を決してゐた時代と今は、大分變つて來てゐる事に注目せなければならぬ。先づ以て有力なる商社が、自ら進んで支店、出張所を設置するか、さもなければ、有力なる代理店を設置して、積極的に活動を開始することは急務中の急務である。

### 三、國內産業の發達と輸入情勢の變化

伯國は農産品の大輸出國たると共に、今や南米隨一の工業國となつてゐる。

伯國の産業は、遠く帝政時代に其の端を發し、一八二二年に獨立を斷行したる以後、半世紀の間は英國の投資時代で、一八五二年に電信、一八五四年に鐵道が初めて開通したが、皆英國の資本である。其後も引續き、英國は主として鐵道、港灣、水道、鑛山等の方面に投資し、經營の衝に當つた。米國は最も後れて、一九二二年から投資に興味を持つて、製肉、罐詰、自動車組立工業、石油、製粉等に莫大な資本を下した。外國資本の流入の最も盛なりし時代は、一八八九年より一九二二年頃であつたが、米國は一九二九年迄各種の工業に投資を行つた。加奈陀が電氣事業に有力なる地盤を持ち、佛國が鐵道に、白耳義が鐵鋼業に、各主要産業の利權を掌握したのは、國內産業の第一期、即ち外國資本流入時代の出來事である。

第二期、即ち國內産業の勃興時代は、一八八九年頃より始まり、廿年間相當健全なる發達を遂げ、殊に歐洲大戰中、外國商品の輸入杜絶の爲に、劃期的な躍進の時代を作ることゝなつた。元來伯國の關稅政策は、國內産業の保護獎勵の爲に、徒らに高稅を課したのではなく、國家收入の最も大なるものは關稅であつて、之によつて財政を保つてゐるのである。こうした趣旨によつて設定された關稅ではあるが、其程度が甚しい結果、國內産業の勃興を促し、國內の資本家は素より、外國の資本もドンドン注入されて、目星しい事業、有利な事業は總て國內に起るに至つた。今日では伯國は資本家の樂園であつて、關稅に保護されつゝ、餘り上手でない經營振にも拘らず、隨分暴利を擧げてゐる。

一般工業の内最も發達したるものは、纖維工業、製靴、石鹼、製油、煙草、ビール、皮革、マツチ、陶磁器、ガラス、製帽、木材、製紙、精糖等の諸工業である。

斯の如く、伯國産業の進歩著しきが故に、輸入商品は、年と共に其の内容に變化を來すことは誠に止むを得ない次第である。國內に起り得る可能性ある事業は、追々内外の資本家の手によつて始められる。昨日は輸入を仰いだ商品も、今日は最早自給自足の域に達するものも出來ると云ふ譯で、輸入品に就いては常に檢討を怠つてはならぬ。外國資本によつて營まれる事業の必要品は、多く其國の系統より輸入される。我國の如く之を持たないものは、傍觀するより仕方がない。且特別の事情のあるものを除き、小資本で出來る大抵の工業は高率なる關稅の保護を受けてゐるので、成り立ち得ることは請合である。故に其等商品は輸出を斷念して、寧ろ伯國內に資本を投じて之を經營するに如くはない。然し此問題は可なり複雑であり、影響する處が多いので、慎重研究することゝしたい。斯かる情勢の下に置かれたる輸入商品は、常に伯國內事業界の傾向を察知して、之に副ふ様に努力せなければならぬ。概して先きに述べて置いた主要商品は、尙當分動かぬものと見て間違ない様である。

最後に伯國政府が、我使節との協議席上、輸入部會に於てなしたる聲明は、伯國の通商上の信念を披歴したるものと見らるゝを以て、左に摘録する。

「伯國政府は、其の國憲の精神に基き、自由主義に則り、國內及國際通商の自由を認め、且之を助成するものなり。但し苟くも經濟的發展上必要と認むる場合は、法律命令、又は訓令を制定し、以て放縱を戒め、國産保護の任に當ることあるべきは勿論とす。上記制限は、伯國人たると外國人たるとを問はず、一律に之に服すべきものなるが、右以外伯國政府は主義として事苟も經濟及通商に亘るものに對しては、之を助長し且之に便宜を供

與する方針なり。」云々

#### 四、生産制限に基く輸入禁止令

伯國に於ては生産制限の根本方針として、製造能力の増加を防ぐ方法を採用し、法令を以て機械の輸入を禁止してゐる。日本に於ける生産制限は、主として操業の短縮による制限方法を探つてゐるに對照して、多少參考となるべき點あれば、其要綱を記することとする。一九三三年十一月廿二日附法令第二三四八六號に依る。

立法の理由

- 一、伯國工業協會及綿業組合等の意見に依れば、世界各工業は未だ危機を脱せず、夫々自國工業保護に熱中しつゝあり。
- 二、伯國內工業扶助の必要は依然として之を認める。故に生産過剰品の工業用機械輸入制限期間完了の期、近付きつゝあるを以て、引續き右輸入制限を續行するの要ありと認む。

法 令

第一條 政府の認めて以て生産過剰なりと見做す、既存工業製品用機械、器具輸入禁止に關する、一九三二年三月七日附法令第一九七三九號第二條に定むる期間を、一九三七年三月三十一日迄延長す。

第二條 労働商工大臣の新たな決定ある迄、次記を以て生産過剰工業と見做す。

織物、帽子、靴、砂糖、紙、燐寸、工業

第一條に云ふ制限を蒙る織物工業用機械は、追て、労働商工大臣に於て、生産過剰に非ずと見做す場合の外

は、當分次記品物用のものに限る。

紡績、木棉織物、ジュート織物、毛織物、絹織物

第三條 次記の場合には、交換用として、生産過剰商品の機械類の輸入を許可せらるべし。

A、現在使用機械にして、不用となるか又は破損せる場合。

B、生産量の増加を伴はず、單に生産物品の品質改良のみを目的とする機械の輸入。

第一項 許可は次記條件の下に與へられべし。

イ、舊機械は之を取崩し、又は貯藏所に收容し、労働商工省官吏之に封印を押すものとする。

ロ、上記取崩し、又は貯藏所に於ける收容は右記官吏立會の下に行ふ。

第二項 輸入を企つるものは、其工業家名たと商人名たとを問はず、第四條制定の書類を伴ふ願書を提出すると共に、輸入物品が本條に謂ふ目的の爲なることを立證することを要す。

第四條 前條の規定に従ひ、豫め労働商工大臣の許可を得るに非ざれば輸入をなすことを得ず。右許可に要する手續左の如し。

第一項より第四項迄省略す。

第五條 第六條 第七條 第八條 省略す。

右の法令がある爲に、我紡績機械の見本的輸入を企圖したが、遂に無効に終つた。能率悪き既設紡績は、一九三七年三月迄温室の中に育まれ、國家の絶大なる保護の下に、國民生活を強が上に脅かして顧る處を知らないのは、斯業百年の爲に誠に惜むべき事である。而して此の法令は其の目的とせざる意外なる現象を不しつゝある。即ち機



械が輸入不可能なる處より、違法なる織機製造が行はれ、簡單にして粗雑なる織機は、法律を潜つて製造され据付けられてゐることは、サンパウロの某有力なる工業家の語る所であつて、無理な法令は其事業をスポイルする計りでなく、犯罪を作る備をもなしてゐる。

## 五、米伯協定に就て

最近締結せられたる協定は、英伯、米伯、伯亞等であるが、英伯は主として凍結資金の解決に關するものであり、伯亞は農産品についての協定を主眼としてゐるものであるから、我國として、最も注意を要するものは米伯協定である。尤も、米伯協定は未だ兩國の間に批准せられてゐないので、完全なる協定となつてゐないが、協定成立後は我國は最惠國約款に至り、之に均霑するものであるから、別に問題はないが、其内容は相當研究して置く必要がある。此の協定に對する伯國內の批判は相當深刻なるものがある。サンパウロ工業聯合會總主事ブーボ氏は左の如き意見を述べてゐる。

「此の協定を仔細に研究すると、伯國に於ける正當なる工業に深甚なる打撃を與ふるものであることを知る。協定文は現行税率の低減を可なり廣範圍に約束し、我國内工業の或るものは、外國工業と正面衝突を強ひらるゝに至つた。此種の工業に取つて現在の關稅は、寧ろ保護に必要な率を決定して居るに過ぎない。私は敢て一保護に必要な率」と云つた。何故ならば、一九三四年九月一日以來行はれて來た税率表は、此の一個の特別な國との間に定められた新税率表には其の効力が及ばず、今や充分なる國內工業保護主義の看板を塗り潰すに至つた。常識的に考へて、保護關稅引下げを行ふに當つては、其結果が國內工業を無保護にせないか、夫れが果して外

國との競争に耐え得るか、或は國民生活上重大なる意義を有するかを十分調査研究すべきであつた。然るに、私は伯國の經濟界の一員としての見地からして、當時、以上の諸點に充分調査がなされてゐなかつた事を指摘せざるを得ぬ。(中略)米伯協定の改定は、經濟界、政治界が負はされた大きな義務である。若し其餘地なしとするならば、我々は世界經濟界の覇者の支配下に生きて行かねばならぬ。そして其重荷は我々を壓死せしめるであらう。最後に云ふ、内國工業を擁護して來た關稅の引下げは、必ず我工業の企圖し得ない、安くて優秀なるアメリカ品が我市場に溢れよう。生産品の價格を支配する米國人は、我市場の絶對霸權を握つて、他の輸出國と伯國との互惠關係を禁止せんとしてゐる。そして遠慮なく、我々を攻め付けるものと覺悟せなければならぬ。」云々

此の意見は伯國工業家の代表的のものとしてよいものであるが、少しく過激、悲觀に過ぎてゐるようである。其れ程伯國の工業は、保護に馴れ切つてゐるとも云ひ得るのであつて、必ずしも此の意見の如き影響ありとも考へられないが、それでは斯く迄強調せられてゐる米伯協定とは、抑々如何なる内容を持つものであるか、就中、最も重要性を帯びる關稅に關する事項を検討して見よう。即ち米伯協定の通商上に齎した、所謂互惠主義の重なるものは、双方國が同條約によつて新たに免稅品と減稅品を設定した事である。今回の新協定の結果、伯國より米國へ輸出するもので、無稅のまま据置かれ、又は新たに無稅となつたものは五十二種の多きを數へる。又新たに減稅(甚だしきは五割の引下げ)となつたものも可なり多數に上つてゐる。其重なるものを列記すれば、

### 一、免 稅 品

珈琲、カカオ、蜜蜂の蠟、家具用木材、植物性油、チルコン鏝、ジャガ芋、粗製マテ茶等。

### 二、減 稅 品

マンガン、マモリーナ豆、コバイーバ油、バラ胡桃等。

尙新協定は伯國輸入の米國品中三十九種に對し、輸入税の現状維持を約し、六十七種の多數に對しては、輸入税の軽減をなすことになつてゐる。其の主なるものを挙げれば、

一、主要免税品

農業用機械類、特定の生果物。

二、主要なる現行税率維持品

冷蔵庫、活動寫眞映畫、自動自転車、タイプライター、現金登録器、秤、印刷機、刃物類、電信電話用機械、魚類の罐詰、ポートランド・セメント。

三、五割減税品

罐詰類、鋼製家具、エナメル付雜獸皮、糖果。

四、三割五分減税品

綿製油布、ヴァニス塗料、粉乳、ラヂオ、乾電池。

五、二割五分減税品

タイヤ及チューブ、ゴム管、ゴムベルト、特定の塗料、鋼製のヤスリ、綿製の肌衣(編物又はメリヤスを除く)、セメント、マグネシウム・セメント、羊皮。

六、二割減税品

自動車、貨物自動車並に其の附屬品、野菜の罐詰、洗濯石鹼、リノリウム、テレビン、燕麥の粉、醫療用ガ

いせ。

右は協約條文を略して、單に重なる減免税品を列記したに過ぎないのであるが、前にも述べた通り、未だ批准されてゐないので、目下双方國に相當議論がある様であるから、成立迄には尙時日を要するものと思はれるが、成立の曉は、我國も之に均霑して有利に伯國へ輸出の出来るものは決して尠くない。就中、農業用機械、自動自転車、セメント類、魚類の罐詰、綿製油布、ラヂオ、綿製肌衣、ガーゼ等は大いに有望である。今より調査を進め、準備を整へて置くことは必ずしも無用のことではない。

## 六、主なる商品別調査

### 一、纖維工業品

纖維工業は、伯國にて最も發達せる工業にて、原料の豊富と高關稅の保護の下に、殆んど自給自足の域に達し、年生産額約一億五千萬圓に達して、各種國內工業中の首位を占めてゐる。その當然の結果として、纖維工業品の輸入は現在極めて少額で、全輸入額の僅かに五%内外を占むるに過ぎない。然もその大部分は生絲、毛絲、ジュートの如き半原料品であつて、製織された全製品の輸入は極めて少い。然も羊毛、棉花等の原料の豊富は技術の進歩と相俟つて、將來益々毛織工業、紡織工業の發展する可能性を多分に有し、纖維工業品の輸出にすら立至るであらうと見られ、従つて此の種商品の輸入は將來性に極めて乏しいと云はねばならぬ。

然し乍ら、現在、各種纖維工業品の年輸入額は約三千万圓内外に達し、當分の間は相當日本品進出の餘地あり、努力次第にて、今後一大飛躍を爲し得ることは決して難事ではない。

今各種別につき輸入の概要を分類説明する。

(a) 綿 絲

イ、種別別輸入表

種別	數量 (千疋)		價額 (金磅)	
	一九三二年	一九三三年	一九三二年	一九三三年
織物用綿絲	六八〇	一,三二八	二二五,一四六	二五〇,五九三
縫 絲	一六四	一八九	一二六,三四一	一三二,六六四
撚 絲	二	二	三六二	一八八
雜 絲	六二二	四四	二五,三七六	一,一九九
合 計	一,四六八	一,五六四	二七七,二二五	三八四,六四四
ロ、織物用綿絲國別輸入表 (一九三三年度、單位疋)				
英 國	一,二六二,二三〇	伊 太 利	三四,八五六	
瑞 西	一四,一八七	米 國	二,五〇三	
和 蘭	四,二〇一	獨 逸	九一一	
佛 國	五四四	共 他	九,五三六	
合 計	一,三二八,九六八	(金額)	二五〇,五九三(金磅)	

以上の如く、大部分(九五%)は英國より輸入され、伊太利、瑞西が僅かに割込み居るに過ぎない。輸入税は

C、I、F 値段の約四割に當り、八十番手以下の太絲は、國産品が非常に發達して、自給自足の状態にあるから輸入品は殆んど、八十番手以上の細絲及び高級特種絲が占めてゐる現状である。八十番手以上の細絲は、日本品が英國品に代る事は、價格的に見れば容易であるが、仕立方、撚の程度、少量の注文にも應ずる事等の諸點に研究、努力を続ける事が必要である。尙賣込には最初委託的に少量を工場に試験させて、現實に日本品の良質廉價を知らしめると云つた方法を取る方が安全で、容易に効果を擧げ得ると思ふ。

(b) 綿織物其他綿製品

イ、最近五ヶ年間輸入統計

年 次	數量(千疋)		價額(金磅)	
	一九三〇年	一九三一年	一九三二年	一九三三年
一九三〇年	一,八四四	九九八,〇〇〇		
一九三一年	六三八	三二二,〇〇〇		
一九三二年	五七一	二〇七,〇〇〇		
一九三三年	一,一九一	四五三,〇〇〇		
一九三四年	八一	二三三,〇〇〇		
ロ、一九三三年度に於ける綿布國別輸入統計 (單位疋)				
英 國	四二九,〇四八	瑞 西	一二六,九三三	
佛 國	四九,六一九	米 國	四八,八四〇	
獨 逸	四五,〇五一	伊 國	四一,〇一三	

日本	二九、六七八	白耳義	一〇、一五七
ウ、ル、ガ、イ	八、三三七	亞國	二、三五〇
和蘭	七五七	チエツコ	二一四
西班牙	一四七	其他	一、二二二
合計	七九三、三五六	(金額)	三三三、四〇一(金磅)

右の如く、國內工業發達の爲に輸入は逐年漸減し、昨年度の如きは、僅かに二十三萬磅の少額で、之を國內生産額に比すれば七%内外のものに過ぎない。綿布輸入は前掲の如く、英國首位を占めて約五十%、瑞西十五%、佛、米、獨何れも五%内外にして、日本は僅かに三萬磅である。而して輸入税は非常に高率で、C、I、F 値段の二倍乃至三倍に當り、従つて國內に生産される低級品、中級品は全然輸入されず、輸入品の大部分は國內に生産されざる高級品であつて、高級ポプリン、レース、高級捺染物等がその主たるものである。

今後の輸入は益々減少すべく、殊に日本よりの輸入は殆んど望みがない。現在、英國其他よりの輸入品は、常に嶄新物を極く少量宛輸入されてゐる状態で、大量の輸入を爲せば、旬日を出でずして市場に現れて來る割安國産類似品の爲に、完全に販路を奪はれ損失を招くとは、有力英國品輸入業者の叫びである。かゝる状態であるから、高級品に今一步不完全で、殊に少量の取引には不得手であり、流行、嗜好の點にて歐洲品に一籌を輸する日本品は、破等の中へ喰ひ入る事は甚だ困難と云はねばならぬ。其他綿製シャツ、スポン、靴下等何れも現在の處税金高く、殆んど輸入の望はない。唯メリヤス製以外の綿布肌着及び綿製油布は、米伯通商協定にて減税され、日本も之に均霑するのであるから、此等に幾分の期待が懸けられてゐる。然し之も過去の輸入額は極く少なく、

唯右の引下が、何の程度に需要を増加させるか問題である。尙別珍は需要少きも、國産品無く輸入有望であるが、日本品は英國品に比し、厚過ぎて税金が高くなり、却つて値が高くなると云ふ非難を聞いた。此の點を研究すれば有望と思ふ。其他低級品、中級品は、國産品の値段が、税金を加算せないうで日本品の約一、五倍にしか當らず、而も相當良質のものを生産し居り、捺染技術も仲々發達して居るから、之等のものには全然望みが無い。

(c) ジュート (絲及ジュート)  
イ、五ヶ年間輸入統計

年	數量(千疋)	價額(金磅)
一九三〇年	二〇、〇九〇	八一四、〇〇〇
一九三一年	二二、二二九	六六七、〇〇〇
一九三二年	一九、一九九	三九三、〇〇〇
一九三三年	二四、四一五	四二八、〇〇〇
一九三四年	二二、六一二	三二五、〇〇〇

ロ、一九三三年度内譯

ジュート絲	五、〇〇四	一一一、五四〇
ジュート	一九、四〇七	三〇六、六五六

以上の如く、輸入量は國內生産なき爲相當多額に上り、ジュート絲は九十%迄英國より、ジュートは六十五%印度、三十四%英國より輸入されてゐる。之は印度がジュートの世界最大の産地である以上當然の事で、日本よ

りの輸入は全然望みがないが、日本商人が此の商賣を自分の手に收めるか、印度のジュートを日本で加工して輸出すると云ふ二つの方面で日本人の努力が望ましい。サンパウロ州で、ジュート栽培の計畫は從來屢々試みられたが、現在迄の處芳しい成績を挙げて居らず、バイヤ州に於けるジュート類似品は、値段の點で未だ代用品たり得ない。伯國におけるジュート栽培は、今後も引續き研究の必要があるが、地質的に見て決して不可能でないとの有力な意見がある。

(d) リンネル製品

イ、最近五ヶ年間輸入統計

年	数量(千疋)	價額(金磅)
一九三〇年	七九六	四一七、〇〇〇
一九三一年	三八九	一七五、〇〇〇
一九三二年	六二三	二〇七、〇〇〇
一九三三年	一、〇九八	三六〇、〇〇〇
一九三四年	七三八	二二一、〇〇〇

ロ、一九三三年度に於けるリンネル布輸入國別統計 (單位疋)

英國	七四六、八四〇	白耳義	二四三、一二八
佛國	五四、三七四	伊太利	一一、七四三
其他共合計	一、〇六六、〇二二	(金額)	三四八、一五一金磅

右の如く、英國を主たる輸入先國とし、國內生産がないため毎年相當の輸入が行はれてゐる。日本としては、得意の品物ではないが、今後の努力如何にて相當な輸出を見ることは決して望みのないことではない。種類としてはハンカチ、枕カバー、机カバー、布圍地、ナプキン、洋服地等が有望として數へられる。

ハ、一九三三年度輸入品種類別

織物	三四八、一五一金磅
タオル、ナプキン	六、八二九金磅
其他共計	三六〇、六五九金磅

(e) 生絲

イ、最近五ヶ年間輸入統計 (繭も含む)

年	數量(千疋)	價額(金磅)
一九三〇年	四四六	七四五、〇〇〇
一九三一年	四八七	六一〇、〇〇〇
一九三二年	五三〇	五一〇、〇〇〇
一九三三年	九三七	六六二、〇〇〇
一九三四年	七八六	四五二、〇〇〇

ロ、生絲國別輸入表 (一九三三年度、單位疋)

伊太利	四六九、二四二	佛國	一九五、六九八
-----	---------	----	---------

瑞 西 一四四、一九八 米 國 八一、九〇八  
 其他共合計 九二五、二六五 (金額 六五五、四八一金磅)

絹織物に對する國民の嗜好が甚だ大きいにも拘らず、税金がC、I、F値段の四乃至五倍と云ふ禁止の高率である結果として、國內に於ける絹織物工業は大いに發達し、其の原料たる生絲の輸入は右統計の如く、毎年相當の分量に上つてゐる。生絲の輸入税は、C、I、F値段の約五割に相當し、絹織物の約十分の一にしか當らない。生絲輸入は從來主として伊太利より行はれ、全輸入額の半分を占め、次いで佛國、瑞西が多く、日本品は米國を通じて相當輸入されてゐるが、未だ伊太利に遠く及ばない。日本品の輸入が今日迄不振であつた主なる理由は、爲替管理の爲に日本からの直接輸出よりも米國經由の方が、爲替取得上より好都合であつた爲と、兩國間の距離遠隔、事情不詳の爲に、生絲の様な高價で、然も値段の變動多き商品の取引には、多大の危険が感じられたからである。然しながら、既に爲替市場は自由となり、兩國間の認識も次第に深まり、特に伯國工業家の關心大いに動きつゝあり、實地に絹織業者の意見を聞くも、日本品の方が遙かに伊太利品よりも良質なる旨明言せる今日、今後日本からの直接輸出には大なる期待が懸けられる。現に本年に入り、某有力日本人商は試験的に輸入を初め相當好結果を收めつゝある模様で、生絲は纖維製品中、當國への最有望輸入品なりと云ふ事が出来る。番手は一中より十九中迄のもの最も需要多く、仕立方はチーズ巻が多く、撚數も夫々註文に應じて作つて欲しい希望を持つてゐるが、總のままで充分賣れる見込がある。

國內養蠶業は年五、六回、多きは十回も可能であるとの事で、大いに好望を傳へられたが、實際は未だ微々たるもので、僅かに年五十萬疋内外の生産があるに過ぎない。

製絲工場も極く小規模のもので、工場數も二、三に過ぎず、當分生絲の輸入は有望であり、且輸入高も前掲統計に見る如く、年々漸増の傾向にある。

生絲に關聯してスパン・シルク絲も、税金安の爲に輸入有望で、將來は相當望みがある。今回も此の品に對する輸入希望者を相當見受けた。

(f) 人 絹 絲  
 イ、最近三ヶ年間輸入統計

年	數量(疋)	價額(金磅)
一九三二年	一八、四四八	五、一八六
一九三三年	一三七、四八三	三九、六七六
一九三四年	不 明	約八〇、〇〇〇

ロ、國別輸入統計

統計上不明なるも、佛、白、獨が大部分を占めてゐる。

輸入税が生絲と同一である爲、生絲の輸入が盛なるに反し本品の輸入は餘り行はれず、且國內人絹工業が最近發達して、一九三三年度年産額約百萬疋に達し、輸入額は其の十五%内外を占めるに過ぎず、尙最近日産十二噸半の大人絹會社設立計畫が殆んど着手の運びに立至つたと傳へられ、従つて現在の儘の消費力の下では、遠き將來は兎も角、大量の輸入は期待出来ない。且既述の通り輸入税が生絲と同一なるため、生絲の輸入税がC、I、F値段の約五割なるに比し、人絹絲の輸入税はC、I、F値段の二十乃至二十五割と云ふ高率となり。かゝる點

より見るも輸入は甚だ困難である。

現在國産品はビスコース法、アセタイト法の兩者行はれ、ペンベルグ絲は全部輸入に仰いでゐる。ビスコース絲の市價は日本品の通關濟値より幾分安く、利益其他を考慮すれば相當困難な商賣である。

(g) 絹及人絹製品

イ、輸入統計

	數量(疋)	價額(金磅)
一九三二年	三、七四四	一六、一七七
一九三三年	八、七二二	三七、三二四

輸入數量は極く微々たるものに過ぎない。絹織物工業は、織維工業中紡績工業に次いで盛にして、年生産額二千五百萬圓に達してゐる。然し國內の需要額より見て、決して之を以て自給自足の域に達して居るのでは無く、相當な分量が某方面より密輸入で入つて來てゐる様である。

絹靴下、ネクタイ地、絹傘地等の雜貨類も、禁止の高關稅の爲に輸入不可能で、之に保育されて國內工業發達し、絹靴下の如きは年生産一千萬打に達してゐる。絹靴下の輸入稅は、婦人用普通物で十ミル見當(一足)であるに拘らず、小賣市價は九乃至十三ミル見當で到底輸入の見込はない。唯値段を度外視した、極く高級品が佛國より少額入つてゐるに過ぎぬ。

(h) 毛 絲 (織物用、刺繡用及雜用)

イ、最近五ヶ年間輸入統計

年	數量(千疋)	價額(金磅)
一九三〇年	一、三七七	五二三、〇〇〇
一九三一年	一、一〇八	三六三、〇〇〇
一九三二年	七〇八	一八〇、〇〇〇
一九三三年	一、七七七	四五四、〇〇〇
一九三四年	一、四七八	三二六、〇〇〇

ロ、イの内織物用毛絲の占むる部分 (金磅)

一九三〇年	四六三、〇七〇
一九三一年	三三二、五九六
一九三二年	一六四、〇〇九
一九三三年	四一六、五〇七

ハ、一九三三年各國別輸入統計 (單位疋)

白 耳 義	四七一、一六六	佛 國	三三九、五〇九
英 吉 利	二八一、〇三三	獨 逸	二〇九、六三一
伊 太 利	六四、九一〇	和 蘭	三、二四〇
瑞 西	一、五八〇	其 他	〇
合 計			一、三七一、〇五八

輸入毛絲の内織物用毛絲其の大部分を占め、輸入先は白耳義、佛蘭西、英國、獨逸の四國で、他は問題にならない。國內毛絲紡績業は未だ完璧の域に達せず、四八三ミ迄は輸入品に對抗出来るが、五〇三ミ以上の細絲は商品としての生産不可能で、大部分輸入に仰いでゐる。輸入税は割合に安く、C、I、F値段の約二割に過ぎず、當分現在の輸入は続けられると思はれるが、此處に注意せねばならぬ事は、國內の技術進歩に伴ふ細絲生産の發達と、之を保護せんが爲に輸入税の引上が行はれる危険性があることである。即ち伯國は前掲の如く毛絲の輸入をなす一方に於て、次の如き羊毛の輸出をなしつゝある。

	數量(疋)	價額(金磅)
一九三〇年	七、三六二、〇〇〇	一、〇二〇、〇〇〇
一九三一年	六、九九一、〇〇〇	五九五、〇〇〇
一九三二年	一、七七二、〇〇〇	八八、〇〇〇
一九三三年	二、四九五、〇〇〇	九二、〇〇〇
一九三四年	二、五八八、〇〇〇	一三五、〇〇〇

此の羊毛を利用し、更にアルゼンチン、ウルガイの羊毛を輸入して、現在の技術を益々發達させたならば、遂に毛絲の輸入は杜絶するであらう。然し此處四、五年は尙相當有望なるべく、本年に入りて日本の織物用毛絲の輸入は相當行はれた模様である。纖維製品中、生絲に次いで有望視せらるゝ商品で、仕立方はチーズ、スプールの巻が好まれる。

(i) 毛織物 (カーベット等を含む)

イ、最近五ヶ年間輸入統計

	數量(千疋)	價額(金磅)
一九三〇年	四八八	四六三、〇〇〇
一九三一年	二二五	一八一、〇〇〇
一九三二年	一六五	八〇、〇〇〇
一九三三年	三三二	一五三、〇〇〇
一九三四年	二九二	一二五、〇〇〇

ロ、一九三三年度に於ける毛織物の國別輸入統計 (單位疋)

英國	九二、五三三	佛蘭西	一九、〇五四
獨逸	八、三〇三	白耳義	二、五九三
其他共合計	一二四、六〇七	(金額)	一〇三、九〇六(金磅)

ハ、一九三三年度に於けるカーベットの輸入額

一四五、八八七 (金額) 三一、七三八(金磅)

毛織物工業も亦極めて發達せる工業の一で、低級品には國產毛絲を、高級品には輸入毛絲を材料として、年生産約壹千貳百萬圓に達し、低級品、中級品は自給自足の状態にあつて、輸入品は、高級品カーベットが其の大部分を占めてゐる。

輸入先は英國を主とし、佛國之に次ぐ。日本からは未だ輸入されておらぬが、日本の技術の進歩に伴ひ、英國



品を駆逐して輸入される可能性はあるが、現在の處では、高級毛織物については、日本品は英國品に今一つ劣ると云はねばならぬ。

二、陶磁器、硝子、水晶製品

イ、總輸入數量及金額

	數量(千疋)	金額(金磅)
一九三〇年	一一,一三九	六七〇,〇〇〇
一九三一年	六,四八九	二九〇,〇〇〇
一九三二年	七,二四五	二二三,〇〇〇
一九三三年	一一,九一二	三七九,〇〇〇
一九三四年	一一,二六五	三二九,〇〇〇

ロ、主要商品の一九三三年度における輸入數量及金額

	數量(千疋)	金額(金磅)
陶磁器	二,一〇〇	一三八,四二二
窓硝子	八,三二五	九八,四五四
機械用雜品	二五六	四七,九五二
雜硝子、水晶製品	三四四	四三,六四〇

ハ、一九三三年度における日本よりの輸入

	數量(疋)	金額(金磅)
硝子、水晶製品	一,七八六	二八六
陶磁器	五四四,二五六	二八,〇二八
プラスチック瓶	二,三二六	一六九

伯國への日本輸出品中、陶磁器の輸出は其の王座を占め、伯國全輸入額の約四分の一に當り、其の安價良質なることは、今後も益々發展する自信を抱かせるものである。特に實用食器類に至つては、英、獨との競争に完全に打勝つて、日本品の輸入が全輸入の約半分を占めてゐる。但し磁器に對しては、昨年九月關稅改正の際多少の引下があつたが、依然として稅率高く、輸入は甚だ困難である。

然し最近國産品の發達目覺ましく、生産額は輸入額を超過するの現状にあり、簡単な食器類、畫付でない生地物等に至つては完全に外國品を一蹴して、殆んど輸入を止めてゐる。今後、漸次高級品の發達も行はれて、輸入は漸減するであらうが、唯國産品は、未だ多種多様の型を作るに至らず、當分現在程度の輸入は繼續されると思はれる。我國としては高級品の輸出に努力すると同時に、伯國內に日本人經營の工場を建設して、將來に備へることが最も策の得たるものである。

尙、現在貿易上特に注意すべき點はなきも、安くて美しいと云ふことをモットーにして、粗悪品を送つて、折角築き上げた地盤を崩さぬ様にすることが肝要である。硝子器具については、實用品は國産品の發達と稅金の高率の爲に殆んど輸入される見込なく、高級品は獨、佛、白、英より相當輸入されてゐる。大體高級品に對する日本の研究未だ足らず、今後もつと嗜好、品質の點に考慮を拂はねばならぬ。要するに、特種高級品に關しては他

外國と競争出來ず、安物では國産品に對抗出來ぬと云ふのが日本品の現状である。

板硝子は、日本よりもぼつ／＼輸入されてゐる様であるが、日本品は餘り部厚なる爲、税金が高く掛るとの非難を聞いた。薄い物を研究する必要がある。

三、ゴム製品

イ、總輸入數量及金額

年	數量(千疋)	金額(金磅)
一九三一年	三、三〇五	四七五、〇〇〇
一九三二年	二、二四九	二六九、〇〇〇
一九三三年	五、三六五	五七二、〇〇〇
一九三四年	三、六六八	三三一、〇〇〇

ロ、一九三三年度における主要商品輸入數量及金額

品名	數量(疋)	金額(金磅)
自動車タイヤ、チューブ	四、九五七、一一九	四八七、九〇六
ゴム製玩具	二六、三四六	一〇、二五八
ゴム靴	二五、一二八	五、三二〇
ハ、自動車タイヤ、チューブ輸入先		六〇%
米國より		

英國より  
伊國より

一〇%  
一三%

ニ、一九三三年度における日本よりの輸入

品名	數量(疋)	金額(金磅)
ゴム靴	三、二六九	三六九
ゴム玩具	五、二三三	五七二

伯國は自動車所有數に於て世界第十二位に位し、自動車タイヤ、チューブの輸入は非常に有望である。此の商品に對しては、日本は未だ完全な發達を遂げてをらぬが、最近ブリッチ・ストーンの試験的輸入が行はれて居り、今後、日本の技術の進歩に伴ひ、將來大いに期待される商品であり、日本品の進出決して難事ではない。國産品未だ發達せず、米國品との間に差別待遇が無い限り、必ず將來日本品の躍進を見るであらう。自轉車用タイヤは自轉車の需要少く、且税率がC、I、Fの十五割と云ふ高率の爲に國産品と競争出來ず、輸入される見込は無

ス。  
ゴム靴、ゴム製玩具は、輸入税高率の爲に何れも輸入困難なる状態にある。ゴム靴は輸入税が一キロに付約參圓と云ふ高率なる爲、皮靴の安い伯國では需要極めて少く、唯オーバー・シューズが少し英國より輸入されてゐるに過ぎない。尙地下足袋の如きは農民用として需要は多いが、之亦税金高の爲に輸入不可能である。

ゴム製玩具も従量税である結果、輸入税がC、I、F値段の約四倍になり、従つて軽いセルロイド製玩具の方が割安となり、且一方、國産品も相當發達してゐるので輸入される見込は非常に少い。輸入品は極く薄物の高級

玩具で、英、獨より輸入されてゐる。日本としては、高級品を研究して之等少量の他國よりの輸入品と競争するより外に途が無い。

其他一般ゴム製品はオリオンと呼ぶ大工場でパイプ、シート、テニス靴、乳首等を安價に製造してゐるので、輸入される見込は殆んど無い。

#### 四、セルロイド製品

イ、一九三三年度輸入統計

	數量(疋)	金額(金磅)
セルロイド玩具	四一、六四一	一七、〇六五
其他共合計	五六、一三五	二六、四五七
ロ、日本よりの輸入統計		
セルロイド玩具	四〇、三五三	一六、二〇〇

即ちセルロイド製玩具は、日本品が九十五%迄進出して居り、他外國品を完全に驅逐してゐる。大體に於て飽和點に達してゐる様で、之以上の輸入増進は、安い美しい一般玩具の發達の爲に餘り期待出来ない。今後の發展は新型、流行品を考案し、消費量を少しでも増加させる外に過ぎない。

#### 五、機械類

イ、輸入状態

機械類の總輸入左表の通り。

一九三一年	三、〇四八、〇〇〇磅
一九三二年	二、八三四、八二四磅
一九三三年	三、七二三、八五二磅

鐵の埋藏量は世界第一位なるも石炭の産出なきと一般に機械工學助長及技術者養成の機關を有せざるため機械製造工業の發達は甚だ幼稚である。

主要工業と目せらるる

綿絲紡績、麻絲紡績、絹織物、毛織物、製絲、人絹、石鹼、硝子、冷凍肉、セメント、マッチ、芳香油、植物油、製紙、製鐵鋼、水力電気、瓦斯、製靴、製糖

等に要する諸機械を始めとし、其他空陸海の運輸機關に必要なもの及諸學術機械、器具類は殆んど之を英、獨、米の先進國よりの輸入に俟つてゐる、依つて輸入統計の品目が即ち其年における伯國の機械需要の全貌と看るべきである。

ロ、輸入機械の主なる品目及其金額

(1)	一九三二年	一九三三年
飛行機	五四三、二九六磅	三〇一、五九七磅
同附屬品	一〇六、九九四磅	一四九、二六九磅

航空路は現在 V. A. R. G. 社(リオ・グランデ・ド・スル洲内) Syndicato Condor Ltda. (獨逸商社にトポトアルグレより北上し東海岸の主要港を縫ふてナタルに至り、夫より大西洋横斷獨逸に入る) Panair do Brasil

のシ。(米國商社にてアルゼンチン國ブエノス港より北上、コンドルとナタル迄同コースをとり、爰にて西折アマゾン河口ベレン港に至り、爰より北上玖瑪島を経て米國に至る線とメキシコ經由羅府に至る線とあり)及首都リオよりゴイアズに至る軍用線、サンパウロ市よりパラナ洲に至るもの、ベレン港よりマナウス港に至る内地陸上線ありて各社共伯國內航路は伯國法規により登記されたる伯國商社の經營する處となり、定期航路の總キロ數二萬キロを超え陸上運輸の幼稚なるに比し航空は甚だ發達してゐる。

リオ、サンパウロ兩市には富豪の遊戯用小型機を所有せる者もあり逐年輸入の遞増を見る所以である。輸入先は米、獨、佛、伊の諸國である。

日本にては最近航空機製造の發達は目覺しきものもあるも、未だ商業的に海外輸出を試みる域には達し居らずと思ふ。

(二) 一九三二年 一九三三年

ボイラー 一三、〇〇六磅 三二、六〇六磅

水壓ポンプ及附屬品 六、五四四磅 一一、六四九磅

前者は運賃關係にて邦品見込薄、後者は小型物を現地の有力専門商社に委託荷として送るを得ば商内の緒口を見出し得るであらう。

(三) 一九三二年 一九三三年

農具類 一五九、五三二磅 二九五、三五一磅

西洋鋤、鉞、シヨベルの類にして英國より輸入が約七割を占め、獨逸品、米國品之に次ぐ。英國品の銅質は良

硬である。日本にて同質のものを製造せば將來性がある。

(四) 一九三二年 一九三三年

諸工具類 九九、四四一磅 一七二、八五〇磅

獨逸品の進出目覺しいものがある。邦品の進出には先づ獨商の研究を要する。

(五) 一九三二年 一九三三年

活動寫眞機 七、三五五磅 四、八八二磅

同フィルム 四〇、七四一磅 七九、九七〇磅

同附屬品 九二二磅 八一八磅

寫眞機 四、五七六磅 七、七八〇磅

同乾板其他 四七、八九〇磅 八三、二九〇磅

同紙 一三、九二五磅 三〇、一八四磅

素人用活動映寫機は邦品格安なるも目方重き爲關稅を重課され不利なり。併し此種のもの日本においても尙發育時代の工業につき輸出は時期尙早と思ふ。

(六) 一九三三年

ラヂオ器具 一二五、一一二磅

同バルブ其他 三六、〇〇〇磅

邦品中家庭用器具類、競争能力充分あり。輕量に仕上げ關稅、消費稅の charge を細心に計算し、外部意匠の